

明治二十四年四月五日發兌

(每月五日發兌)

和算四八六号

民法正義

第拾册

特別認可
私立明治法律學校講法會內

新法註釋會出版

版權所有



目次

民法正義財產編第二部卷之一(完結)	法國法律學士	井上正一
全財產編第二部卷之二	法國法律學士	井上正一
全財產取得編卷之一	法國法律學士	熊野敏三
全財產取得編相續之部	法國法律學士	井上正一
全債權擔保編卷之二	法國法律學士	宮城浩藏
全證據編(完結)	法國法律學士	岸本辰雄

●廣告 財產編擔任ノ著者今村和郎君儀去月上旬ヨリ流行性感冒ニ罹ラレ今ニ回復ノ期ニ至ラサルニヨリ本冊ニハ乍遺憾モ登載不致候間此段御了知ヲ乞フ

●法學博士佛國法律學士井上正一君著述ニ係ル民法正義財產編第二部卷之一及ヒ法律學士佛國法律學士岸本辰雄君著述ニ係ル民法正義證據編共ニ今回完結セシニ付キ例ニ依リ表紙并ニ目錄ヲ冊首ニ附登セリ

法律學士岸本辰雄著述
佛國法律學士

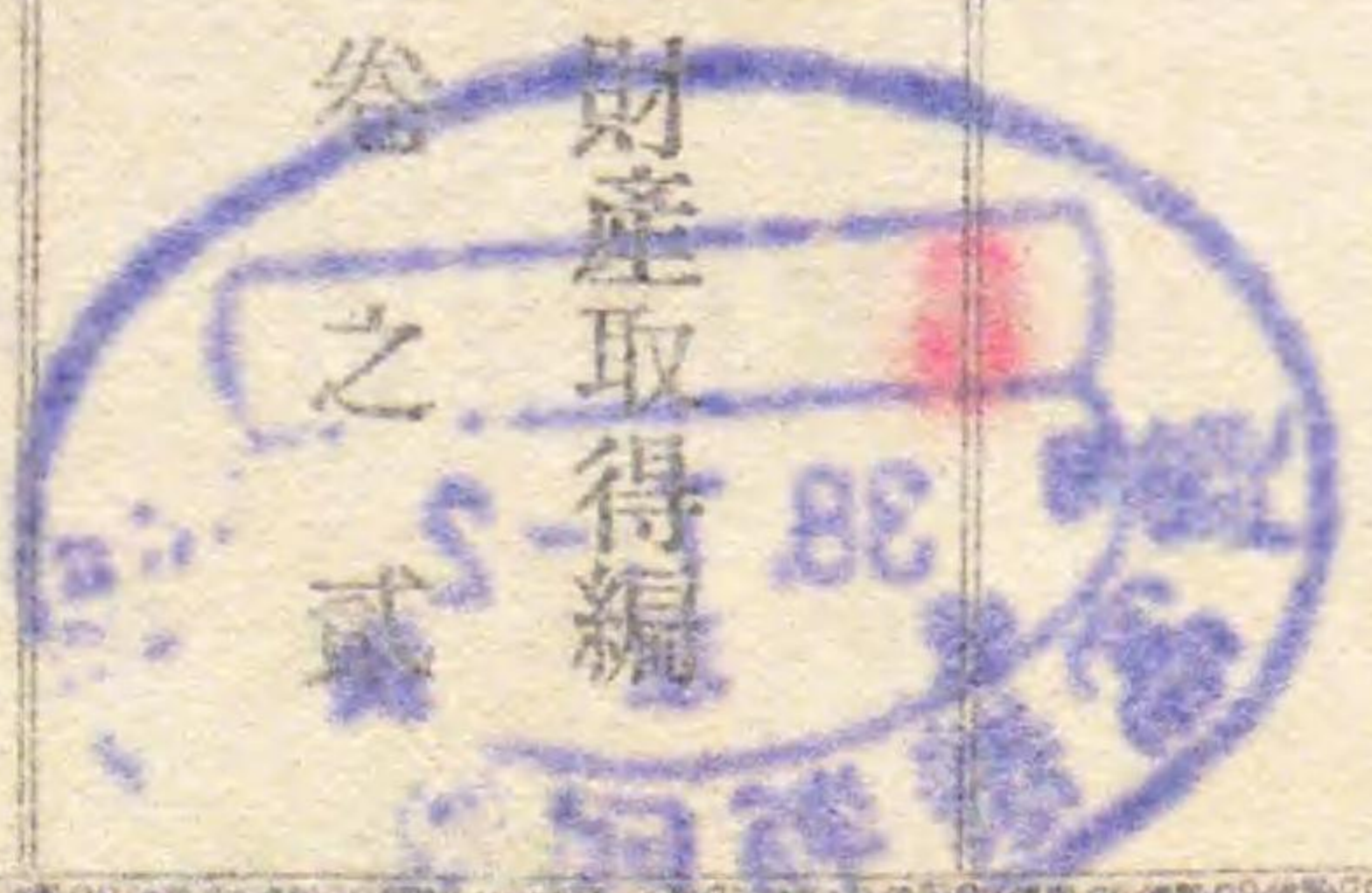
民法正義

財產取得編
卷之二

版權
所有

特別認可
私立明治法律學校講法目内

新法註釋會出版



高野新裁



民法正義財産取得編卷之貳

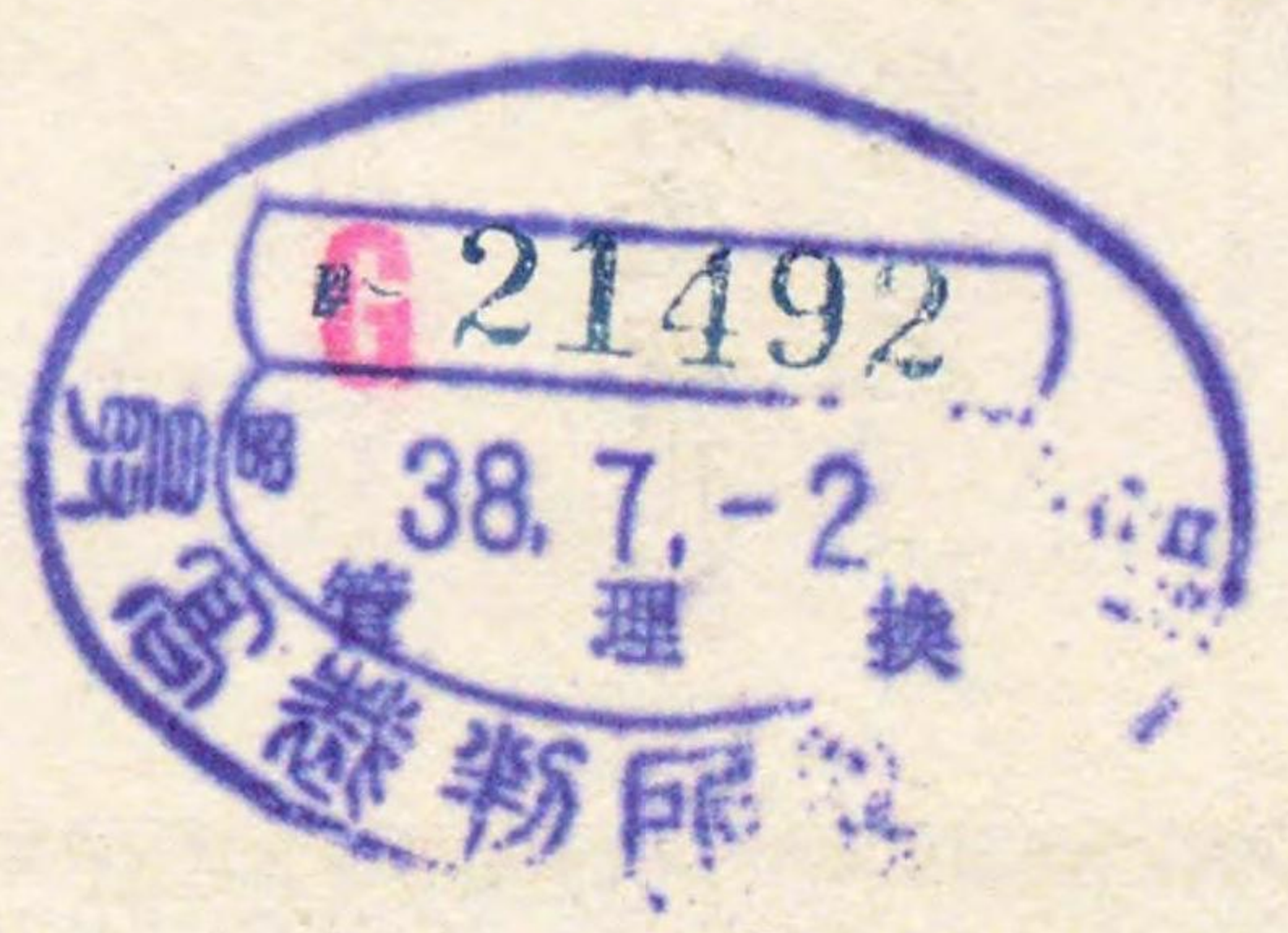
目録

第八章	消費貸借及ヒ無期年金權	一
第一節	消費貸借 <small>自第九十七條至第一百零八條</small>	二
第二節	無期年金權 <small>自第九十四條至第一百零一條</small>	五
第九章	使用貸借	八
第一節	使用貸借ノ性質 <small>自第九十六條至第九十九條</small>	八
第二節	使用貸借ヨリ生シ又ハ其貸借ニ際シテ生スル義務 <small>自第九十七條至第九十九條</small>	九
第十章	寄託及ヒ保管	一三
第一節	寄託 <small>自第二百六條至第二百七條</small>	一三
第一款	任意寄託 <small>自第二百七條至第二百九條</small>	一四

目録



民法正義



民法正義財產取得編卷之貳

目錄

第八章	消費貸借及無期年金權	一
第一節	消費貸借 <small>自第九十七條至第一百零八條</small>	二
第二節	無期年金權 <small>自第九十四條至第一百零四條</small>	五
第九章	使用貸借	八
第一節	使用貸借ノ性質 <small>自第九十六條至第一百零六條</small>	八
第二節	使用貸借ヨリ生シ又ハ其貸借ニ際シテ生スル義務 <small>自第九十七條至第一百零七條</small>	九
第十章	寄託及ヒ保管	三
第一節	寄託 <small>自第一百零六條</small>	三
第一款	任意寄託 <small>自第一百零七條至第一百十七條</small>	四

目錄

一

第二款 急迫寄託及旅店寄

託自第百二十一條

第二節 保管自第百二十二條

第十一章 代理

第一節 代理ノ性質自第百二十九條

第二節 代理人ノ義務自第百三十四條

第三節 委任者ノ義務自第百四十五條

第四節 代理ノ終了自第百五十一條

第十二章 雇傭及仕事請負ノ契約

第一節 雇傭契約自第百六十六條

第二節 習業契約自第百七十四條

第三節 仕事請負契約自第百八十五條

一八三

一九二

二〇三

二〇四

二三五

二六三

二八六

三一二

三一三

三四二

三六八

民法正義財産取得編卷之貳目錄畢

民法正義財產取得編卷之貳

法律學士 岸本辰雄著述

第八章 消費貸借及無期年金權

〔總說〕

(一) 凡ッ貸借ニ二種アリ其一ヲ消費貸借ト云ヒ他ノ一ヲ使用貸借ト云フ共ニ皆ナ有名合意ノ一種ニシテ特定權原ノ取得方法ニ屬スト雖モ其性質ニ至リテハ二者各異ナル所アルニ因リ本法ハ之カ規定ヲ分別シテ二章ト爲シ先ッ本章ヲ以テ消費貸借ノ規定ヲ爲セリ蓋シ消費貸借ハ所有權ノ取得ヲ以テ其目的ト爲スト雖モ使用貸借ハ之ニ反シテ單ニ占有ノ取得即チ使用スルノ權利ヲ取得スルヲ以テ其目的ト爲セハナリ而シテ無期年金權ハ消費貸借ニシテ殆ント利息附ノ貸借ナルモノト其性質ヲ同フスルニ因リ消費貸借ト併セテ本章中ニ之ヲ規

定シタルナリ

夫レ消費貸借ト使用貸借トハ大躰其性質ノ異ナル右ノ如シト雖モ同シク貸借ナル名稱ノ下ニ在ルヲ以テ動モスレハ混淆シ易キノ事情ナキニ非ス故ニ其據ル可キ標準ヲ定ムルハ亦タ肝要ノコナリトス而シテ右二種ノ貸借中其孰レタルヲ知ラント欲セハ專ラ當事者ノ意思借用主ノ身分及ヒ目的物ノ性質等ニ依リ之カ決定ヲ爲サ、ル可カラス若シ夫レ其貸借ヲシテ消費貸借ナリトセンカ借主ハ其物ノ所有權ヲ取得スルカ故借主ニ於テ危険擔當ノ責ニ任セサル可カラス又其貸借ヲシテ使用貸借ナリトセンカ借主ハ其物ノ使用權ヲ取得スルニ過キサルカ故貸主ニ於テ危険擔當ノ責ニ任ス可キモノトス責任ノ歸スル所此ノ如キ差異ヲ生スルニ因リ宜シク注意セサル可カラサルナリ

第一節 消費貸借

第七十八條 消費貸借ハ當事者ノ一方カ代替物ノ所有權ヲ他ノ一方ニ移轉シ他ノ一方カ或ル時期後ニ同數量及ヒ同品質ノ物ヲ返還スル義務ヲ負擔スルノ契約ナリ

〔義解〕(二) 本條ハ消費貸借契約ノ定義ヲ定メタルモノナリ

消費貸借ハ借主カ其借用物ヲ自己ノ隨意ニ消費シ期限ニ至リ之ト同量同質ノ物ヲ返還シ以テ其義務ヲ免ル、ヲ得ヘキ契約ナルカ故ニ其目的物ハ必ス代替物ナラサルヲ得ス何トナンハ代替物ニ非サレハ借主ニ於テ隨意ニ消費スルヲ得サレハナリ若シ夫レ消耗費盡スルヲ得スシテ借用物其モノヲ返還ス可キモハ則チ使用貸借ニシテ消費貸借ニ非サルナリ且尙ホ本條ニ規定シタルカ如ク消費貸借ハ所有權ノ移轉ヲ目的トスル契約ナルカ故貸主ハ必ス其物ノ所有者ナラサル可カ

ラス貸主ニシテ所有者ニ非サラン歟借主ハ契約當初ノ目的ヲ達スル能ハス從テ消費貸借ノ成立スルヲ得サル可クレハナリ本編第百八十一條參看然リ而シテ消費貸借ハ當事者ノ承諾ノミチ以テ其目的物ノ引渡ヲ爲サハルモ契約ハ成立シテ其有効タルニ妨ケナキ歟之ヲ反言スレハ消費貸借ハ諾成ノ契約ナリヤ將タ要物ノ契約ナリヤト云フニ夫ノ量定物ニ於ケルモ例ヘハ單ニ生糸幾捆茶何斤ト約定セルノミニテ其引渡若クハ示定ニ依リ初メテ目的物ノ確定スル場合ニ在リテハ其引渡ヲ俟チテ消費貸借ナル有名契約ノ成立スルモノナレハ所謂要物ノ契約ニ屬ス可シト雖モ其目的物ノ已ニ特定セルモ例ヘハ甲號ノ米廩ニ在ル肥後米何百俵若クハ乙號ノ酒庫ニ在ル正宗幾十樽ト云ヘルカ如ク屹然他品ト識別シ得ヘキモハ前者ニ反シ當事者ノ承諾ノミニ依リ成立ス可キモノニシテ敢テ引渡ヲ爲スヲ要セサルナリ蓋シ消費貸借ハ

四

上來説述シタルカ如ク所有權ノ移轉ニ依リテ成立シ所有權ノ移轉ハ特定物ニ付テハ引渡ヲ要セス合意ニ依リテ直チニ完全スルモノナレハナリ財產編第三十條故ニ此場合ノ如キ假令借主カ未タ其物ヲ握有セスト雖モ已ニ自己ノ掌裡ニ歸シテ隨意ニ之ヲ處分シ得ヘキカ故毀損滅盡ノ場合ニハ借主其責ヲ負擔シテ期限ニ至リ同量同質ノ物ヲ返還セサル可カラス但其毀損滅盡カ貸主ノ付遲滯ニ因リテ生シタルモ格別ニシテ借主ハ固ヨリ返還ノ義務ヲ免カレ而シテ損害アルモ例ハ尙ホ且之カ賠償ヲ要求スルヲ得ヘキナリ而シテ物ノ引渡ニ依リテ契約ノ完成スル場合ニ於テハ當事者ノ承諾ノミニ依リテハ消費貸借ナル有名契約ハ成立セサルモ已ニ當事者ノ承諾アリタルトキハ其約定ノ物ヲ引渡ス可キ義務ヲ生スル無名契約ノ成立スルモノトス故ニ若シ貸主カ其契約ヲ履行セスシテ借主ニ損

害ヲ蒙ラシメタルハ借主ハ之カ賠償ヲ要求スルヲ得ヘキナリ
又消費貸借ハ其目的所有權ノ移轉ニ在ルヲ以テ當事者ハ物ヲ讓渡ス
ノ能力ヲ有セサル可カラス財産編第二部第四百五十五條參看故ニ此能力ヲ有セサル
者例ヘハ未成年者ノ如キハ有効ニ契約ヲ締結スル能ハサルヲ以テ若
シ當事者ノ一方カ未成年者ナルハ其契約ハ取消スルヲ得ヘキモノ
タルナリ

(三) 消費貸借ハ片務契約ナリヤ將テ雙務契約ナリヤ此疑問ニ付テハ
往々異說ナキニ非スト雖モ其性質上ニ於テ片務契約ナリトス是レ此
契約ニ依リ義務ノ生スルハ借主ノミニシテ貸主ニ在リテハ對等ノ義
務ノ存スルヲナク唯々期限前ニ物ノ返還ヲ要求ス可カラサルヲト其
物ニ瑕疵アレハ或ハ借主ニ對シ損害ノ責ニ任セサル可カラサルヲト
ハ之レアリト雖モ是レ其契約ヨリ生スル所ノ義務ニ非スシテ一ハ貸

主ノ權利ナキニ出テ一ハ不正ノ損害ニ基ツクモノナルニ因ルノミ夫
レ斯ノ如ク貸主ニ義務ナクシテ獨リ借主ニノミ期限ニ至リ同量同質
ノ物ヲ返還スルノ義務アルニ過キサレハ消費貸借ハ固ヨリ片務ノ契
約ト云ハサル可カラス又消費貸借ハ無償ノモノナリヤ否ヤト云フニ
屢説述シタル如ク借主ハ同量同質ノ物ヲ返還スルノ義務アルニ過キ
サレハ無償ノ契約タルヲ以テ其本性質ト爲ス可シト雖モ然レハ次條
ノ示ス如ク其有償無償ハ全ク當事者ノ契約如何ニ因ルモノニシテ若
シ借主カ若干ノ賃料ヲ支拂フ可キトキハ有償ノ契約ニシテ法律ハ稱
シテ之ヲ利息附ノ貸借ト云ヘリ然リ而シテ此貸借ノ有償契約ニ屬ス
ルハ則チ貸主カ物ノ賃料ヲ得テ貸渡スモノナルニ因リ夫ノ賃貸契
約ト殆ント區別ナキカ如シト雖モ賃貸契約ニ在リテハ賃借人ハ必ス
其借用物ヲ返還セサル可カラス消費貸借ニ係リテハ否ラスシテ其對

價物ヲ返還セハ以テ足レリトシ又賃貸契約ニ在リテハ貸主ハ借主ニ對シテ物ノ收益ヲ得セシムルノ義務アルモ消費貸借ニ係リテハ借主ハ其物ノ所有權ヲ取得シ隨意ニ之ヲ處分スルノ權利アルヲ以テ貸主ニ此ノ如キ義務アルヲナシ且夫レ賃貸契約ハ契約又ハ遺贈ニ依リテ設定スルコトヲ得ヘキモ消費貸借ハ契約ヲ以テスルノ外設定スルコトヲ得サルノ差異アレハ決メ之ヲ同一視ス可カラサルナリ財産編第一部第三章參看消費貸借ノ有償ナルト無償ナルトニ付キ右ノ外尙ホ貸主ノ責任上ニ異ナル點アリ第百八十二條ニ之カ規定ヲ爲セリ其詳細ハ同條ノ下ニ之ヲ説述セシ

終リニ臨ンテ一言ス可キコトアリ即チ「消費貸借」ナル名稱ハ借主其借用物ニ付キ隨意ニ消費スルコトヲ得ヘシト云フニ在リテ其物カ必スシモ佛國民法ニ於ケルカ如ク最初ノ使用ニ因リテ消費スルモノタルヲ要

スルニ非サルノ規定タルヲ知了ス可キナリ故ニ其目的物ノ代替シ得ヘキ性質ノモノナルニハ其物ノ最初ノ使用ニ依リテ消費スルト否トヲ問ハス總テ本章規定ノ貸借契約タルヲ妨ケサルナリ

第百七十九條 當事者カ返還ノ時期ヲ定メサリシト

キハ裁判所ハ當事者ノ意思ヲ推測シ且事情ヲ斟酌シテ之ヲ定ム

返還ノ場所ノ定マラサリシトキハ無利息ノ貸借ニ付テハ貸主ノ住所又利息附ノ貸借ニ付テハ借主ノ住所ニ於テ其返還ヲ爲ス

〔義解〕(四) 本條ハ借用物ヲ返還ス可キ時期及ヒ其返還ノ場所ニ付キ規定シタルモノナリ

夫レ消費貸借ニシテ期限ノ定メアルヤ貸主ハ期限前ニ其返還ノ要求

ヲ爲シ得サルハ勿論假令其物ニ付キ急迫ニシテ且豫期セサル需用ノ生シタルト雖モ亦タ之カ返還ヲ要求スルヲ得サルナリ然ルニ使用貸借ニ在リテハ之ニ反シ右ノ場合ニ於テハ期限ノ如何ニ拘ハラズ貸主ハ其貸與物ノ返還ヲ要求スルヲ得ヘシ第二百三條參看此區別タルヤ使用貸借ハ只タ其物ノ使用ニ止マリテ消費貸借ノ如ク其物ヲ消費スルニ非サルカ故何時之レカ返還ヲ求ムルモ借主ニ於テ著大ノ損害ヲ蒙ムルカ如キヲアラサル可シト雖モ已ニ物ヲ消費シタルトハ其同量同質ノ物ヲ求ムルニ多少ノ時間ヲ要シ又其代料ヲ調達スルノ困難アルモノナレハ管タニ借主ヲシテ困迫ニ陥ラシムルノミナラス或ハ非常ノ損害ヲ蒙ラシムルヤモ期シ難シトノ法律上ノ推想ニ出テタルモノナリトス

然リ而シテ當事者ニ於テ若シ返還ノ時期ヲ定メザリシトハ如何ニ之ヲ處ス可キヤ「裁判所ハ當事者ノ意思ヲ推測シ且事情ヲ斟酌シテ之ヲ定ム」トアルカ故假令返還ノ時期ヲ約定セザリシニモセヨ借主ハ何時ニテモ之カ返還ノ要求ニ應セサル可カラサルト速了スル勿レ蓋シ當事者ノ意思ハ決シテ此ノ如キ速了ノ見解ヲ有セシニ非サル可ケンハナリ此ヲ以テ法律ハ裁判所ヲシテ其時ノ事情ニ從ヒ當事者ノ意思ヲ推測シ以テ相當ノ期限ヲ定メシムルト爲セリ而シテ此期限タルヤ裁判所ヨリ許與スルモノナリト雖モ全ク當事者ノ意思ニ基ツク所ノ期限ニ係ルヲ以テ彼ノ恩惠上ノ期限(猶豫期限)ニ非サルカ故ニ此期限内ハ法律上ノ相殺ヲ爲スヲ得サルナリ且若シ借主ニシテ不幸且善意ナル情況アルニ於テハ尙ホ之ニ對シテ猶豫期限ヲ與フルコトヲ妨ケサルモノトス財產編第二部第四百六條參看

然ルニ若シ當事者ニ於テ返還ノ時期ヲ約定スルモ其約定タルヤ借主

ノ擅意ニ委シタルモ例ハ借主ニ於テ返還スルヲ得ルトキ、或ハ返還
 ノ資力アルニ至リタルモ或ハ返還セント欲スルモト云ヘルカ如キ場
 合ハ如何ニス可キヤ換言セハ貸主ハ其約定ヲ遵守シテ借主ノ好意履
 行ヲ竣ヌサル可カラサル乎ト云フニ此場合ニ於テモ裁判所ハ相當ノ
 期限ヲ定ムルコトヲ得ヘキナリ蓋シ契約ヲシテ可成其効ヲ有セシム
 ルノ解釋ヲ爲スハ解釋法ノ原則ナルノミナラス以上ノ如キ約定ヲシ
 テ存在セシムルコトセハ貸借契約ノ名アルモ其實虛構ニシテ借主ハ
 遂ニ其義務ヲ履行セサルニ至ルヘシ是レ決シテ當事者ノ意思ヲ推測
 シタルモノニ非サレハナリ

〔五〕 返還ノ場所ニ付テハ本條第二項ノ規定スル處ニシテ利息附ノ貸
 借ニ係ハリテハ普通法ヲ適用シ借主ノ住所ニ於テ返還ス可キコトト
 爲シ無利息ノ貸借ニ係ハリテハ普通法ノ反對ヲ掲ケ貸主ノ住所ニ於

テ返還ス可キコトト爲セリ而シテ本條ハ當事者雙方ニ於テ豫メ其場
 所ノ指定ヲ爲サ、ル場合ニ係ルモノトス抑、貸借ノ有償ナルト無償ナ
 ルトニ因リ右ノ區別ヲ爲セシハ其貸借ノ有償ナルヤ敢テ貸主ノ恩惠
 上ヨリ來リシモノニ非サルカ故普通法ヲ適用シ借主ノ住所ヲ以テ返
 還ノ場所ト爲シタルモ財產編第二部第四百六十八條其貸借ノ無償ナラニハ原是
 レ恩惠上ヨリ來レル契約ナルヲ以テ其恩惠ヲ與ヘタル貸主ヲシテ受
 惠者ナル借主ノ住所ニ至リ返還ヲ受ケシメントスルハ法律上至當ノ
 推定ナリト思惟スル能ハサルニ因リ茲ニ此變例ヲ掲ケタルナリ

第一百八十條 不可抗力ニ因リテ借用物ヲ返還スルコ
 ト能ハサルトキハ借主ハ其物ノ不可抗力ニ罹リシ
 日及ヒ場所ノ相場ニ從ヒテ算定シタル其物ノ價額
 ヲ負擔ス

〔義解〕(六) 本條ハ不可抗力ニ因リテ借用物ヲ返還スル能ハサル場合ニ付キ其價額ノ算定方法ヲ規定シタルモノナリ
凡ソ契約ノ目的物カ不可抗力ニ因リテ消滅スルモハ義務者ハ最早義務ヲ盡ス能ハサルヲ以テ其義務ハ目的物ト共ニ消滅セサル可カラス是レ義務消滅ノ一原因トシテ已ニ法典ノ認ムル所ナリ然レモ此場合ハ其目的物ノ特定物ナルトキニ限ルモノトス何トナレハ代替物ニ至リテハ決シテ其物類ノ盡ク滅盡スルモノニ非サルヲ以テ目的物消滅ノ原因ニ依リ義務ヲ履行シ能ハサル場合ノ生ス可キ理ナクハナリ然ラハ則チ消費貸借ノ目的物ハ常ニ代替物ナルヲ以テ不可抗力ニ因リ借用物ヲ返還スル能ハサル場合ノ生セサル筈ナレハ本條ハ全ク不用ノ規定ニ屬スルモノ、如シ然レモ立法者ハ必要ナクシテ殊更ニ此規定ヲ設クルモノニ非ス即チ其場合ハ甚々多カラサルモ決シテ之レ

ナキニ非ス或ハ從來商業上ノ目的物タルコトヲ得ヘキ物ニシテ公益ノ爲メ一般ニ法律上ノ禁制物ト爲ルコトアリ又或ハ凶荒戰亂等ノ原因ニ因リ一時或ル物ノ自由賣買ヲ禁スルコトナシトセス例ハ亞片ハ支那ニ於テ賣買自由ナルニ因リ之ヲ借用シ而シテ現物ヲ以テ之ヲ返還セント欲スルノ際俄然法律ヲ以テ其賣買ヲ禁シタルトキハ現物ニテ其義務ヲ履行スルヲ得サルカ如キ是ナリ是等ノ場合ニ於テ若シ本條ノ規定微リセハ借主ハ或ハ云ハシテ借用セシ物ト同種ノ物ハ不可抗力禁止法ノ發布ニ因リ最早今日ハ他ニ求ムルニ由ナク從テ返還ノ義務ヲ履行スルコトヲ得ス是レ即チ義務消滅ノ一原因ニ罹リタルモノナリト若シ夫レ此等ノ所爲ヲ許サシ歟借主ハ不可抗力ニ因リ不正ノ利益ヲ取得スルモノト云ハサル可カラス法律ハ決シテ此ノ如キ不正ヲ許スモノニ非サルナリ是レ本條ノ設ケアル所以ニシテ即チ消

費貸借ノ借主ハ不可抗力ノ爲メニ其返還ス可キ同種ノ物ヲ求ムル能ハサルニ至ルモ必スヤ其相當ノ償金ヲ支拂ハサル可カラサルナリ然ルニ右ニ反シテ使用貸借ノ借主ハ若シ其借用物ハ不可抗力ニ因テ消滅シタルモハ返還ノ義務ヲ免カル、モノトス是レ其目的タル物ヲ使用スルニ在リテ其使用スル所ノ物カ不可抗力ニ罹ルモハ最早其物ノ存セサルニ因リ返還ノ義務ハ消滅セサラント欲スルモ得可カラサレハナリ

〔七〕 借主右ノ償金支拂ノ算定方法ニ付テハ本條ハ其物ノ不可抗力ニ罹リシ日及ヒ場所ノ相場ニ從ヒテ算定スルコトト爲セリ蓋シ草案ハ貸借ヲ爲シタル日及ヒ場所ニ於テ計算スルノ規定ナリキ抑、借用物ヲ返還スル能ハサルカ爲メ償金ヲ支拂フニ當リ貸借ヲ爲シタル日及ヒ其場所ノ相場ニ付キ算定センカ其物カ當初契約ノ際ニ有セシ價值ヨ

リモ高騰シテ借主ニ利益ヲ與フルアリ又或ハ其物價ノ低落シテ借主ニ損害ヲ受ケシムルヲモアル可クシテ頗ル公平ヲ欠クノ點ナキ能ハス然ラハ其返還ヲ爲ス可キ時期及ヒ場所ニ付テ算定センカ此場合ニ於テハ或ハ其賣買讓渡ヲ禁止セラレテ時價相場ヲ有セサルアリ或ハ否ラサルモ凶荒戰亂等ニ因リ價額ノ非常ニ昇騰シテ權利者ニ非常ノ利益ヲ得セシムルコトナキニ非サル可ケレハ亦タ以テ之ヲ至法ト云フテ得サルナリ殊ニ其時期ヲ定メサリシ場合ニ於テハ之ヲ處置スル如何シテ可ナル可キ乎

本法ニ於テハ此場合ノ如キ不可抗力ニ罹リタル日及ヒ其場所ノ相場ニ從ヒ算定スルノ方法ヲ採用セリ尤モ此方法ニ依ルモ當事者ニ對シテ或ハ不利ヲ來タシ或ハ利益ヲ得セシムルアルハ固ヨリ免レサル可シト雖モ斯ノ如キ仕誼ニ立至リシ事因ハ此日此場所ニ在ルヲ以テ

雙方ヲシテ互ニ其利不利ヲ認受セシムルモ敢テ不當ト云フ可カラス
トノ理由ニ出テシモノナラン歟

第百八十一條 貸主ニ屬セサル物ノ貸借ハ無効ナリ

其貸借カ利息附ニシテ且借主カ善意ナリシトキハ

貸主ハ借主ニ對シテ擔保ノ責ニ任ス

然レトモ此貸借ハ左ノ場合ニ於テハ有効ナリ

第一 借主カ善意ニテ借用物ヲ消費シタルトキ

第二 借主カ時効ニ因リ眞所有者ノ回復ノ請求

ヲ排却シタルトキ

第三 眞所有者カ貸借ヲ認諾シタルトキ

〔義解〕(八) 本條ハ他人ニ屬スル物ノ貸借ニ付キ其効力ヲ規定シタル
モノナリ

他人ニ屬スル物ノ貸借ハ根本上無効ナリ即チ契約ノ原因ノ缺欠ニ因
リテ絶對的ニ無効ナリトス

凡ソ何人ト雖モ自己ニ所有權ヲ有セスシテ之ヲ他人ニ移轉スルノ爲
シ得ヘカラサルコトハ一般ノ原則ナリ消費貸借ニ付テモ亦然リトス
故ニ貸主其人カ所有者ニ非ザリセハ其物ノ所有權ヲ移轉スル能ハス

所有權ヲ移轉スル能ハサル物ハ借主之ヲ取得シテ隨意ニ消費スルノ
目的ヲ達スル能ハサルニ因リ曾テ其義務ノ原因ノ缺欠セルヤ論ヲ竣
タス是レ他人ニ屬スル物ノ貸借ハ無効ナリト爲ス所以ナリ

然リ而シテ法律ハ此無効ノ貸借ニ付キ利息附ニシテ且借主ノ善意ナ
ル場合ニ限り貸主ヲシテ擔保ノ責任ヲ負ハシムルコト爲セリ是レ其
貸借ノ無償タルヤ毫モ貸主ニ利益スル所ナクシテ初メヨリ恩惠上ノ
行爲ニ出テタルモノナレハ無論貸主ニ惡意アル可キノ理ナキカ上ニ

尙ホ且其損害ノ責ニ任セシムルト云フハ情ニ於テ忍ヒサル所ナルヲ以テ然ルナリ又借主ノ善意ナル場合ニ限リタルハ其惡意ニ依リテ生シタル損害ノ如キ彼レ自カラ招キタルノ結果ナレハ其貸借ノ有償契約ナルト雖モ損害ノ責ヲ負擔ス可キハ當然ノコトタルヲ以テ然ルナリ

〔九〕前段ニ於テハ他人ニ屬スル物ノ貸借ハ根本上無効ナルヲテ説述シタリシカ本條第二項ニ於テハ此ノ如キ貸借モ尙ホ有効ニ成立ス可キ例外ノ場合ヲ示定セリ

第一 借主善意ニテ借用物ヲ消費シタルト 此場合ニ在テハ假令貸主カ其物ノ所有者ニ非サリシニモセヨ已ニ借主ハ自己ノ隨意ニ之ヲ消費シテ其利益ヲ得タルモノナレハ借主ハ消費貸借ノ目的ヲ達シタルニ依リ貸主ニ對シテ返還ノ義務ヲ有スルハ勿論ナリトス而シテ又

借主カ善意ニテ借用物ヲ消費セシトキハ貸主ハ最早他人ノ物ナリシコトヲ口實トシテ其契約ヲ取消シ得サルニ因リ貸主ト借主トノ間ニハ完全消費貸借契約ノ成立スルモノト爲サ、ル可カラス即チ其他人ノ物ヲ貸シタルハ貸主ノ過失ニシテ之レカ爲メ借主ノ害セラル可キ理ナケレハナリ而シテ眞所有者ハ其物件取戻ノ訴ヲ爲スヲ得ルヤト云フニ其物ハ已ニ消費シテ元形ヲ止メサルニ因リ現物ヲ取戻スコトヲ得ス只ダ其賠償ヲ求ムルノ外手段ナキナリ而シテ其賠償ハ何人ニ向テ之ヲ訴フ可キヤト云フニ必ス其貸主ニ對シテ之ヲ要求ス可ク其借主ニ對シテハ之レカ訴ヲ起スヲ得ス何トナレハ貸借契約ハ有効ナルヲ以テ借主ハ期限内ニ強ヒテ其返還ヲ求メラル可キノ理アラサレハナリ然リ而シテ貸主カ眞所有者ニ對シテ爲ス可キ賠償額ハ貸主ノ善意ナルト惡意ナルトニ依リテ或ハ貸借物ノ全額ト爲リ或ハ借

主ヨリ受ケタル辨償額ト爲ルコトアル可シ要スルニ是レ皆ナ普通法ノ適用タルニ過キサルナリ

第二 借主カ時効ヲ主張シタルトキ 借主ノ善意ナル場合ニ於テハ縱令其物件尙ホ現存シ而シテ眞所有者ヨリ所有權取戻ノ訴ヲ受クルモ借主ハ動産ニ係ル即時々効ヲ主張シ以テ其請求ヲ排却スルコトヲ得ヘシ但盜取物遺失物ニ付テハ別段ナリトス四十四條以下故ニ借主カ眞所有者ニ對シテ時効ヲ主張シ以テ之カ請求ヲ排却シタルトキハ其物件ヲ隨意ニ消費シテ利益ヲ得ヘシト雖モ是レ全ク借主及ヒ眞所有者間ノコニシテ借主ハ固ヨリ貸主ニ對シ返還ノ義務ヲ有スルモノトス蓋シ借主ハ眞所有者ニ對シテ主張シタル時効ノ爲メニ貸主ト自己トノ間ニ成立スル貸借契約ヲ破却シテ不正ニ利益ヲ占ムルノ理アラザレハナリ

然リ而シテ本項ニハ時効ニ依リ眞所有者ノ回復ノ請求ヲ排却シタルトアルヲ以テ時効ヲシテ効果ヲ生セシメンニハ必ス先ツ時効ヲ主張セサル可カラス然レモ其之ヲ主張スルト否トハ實ニ借主ノ權利ニ屬スルモノ故貸主ハ如何ナル場合ニ於テモ借主ニ向テ之カ強要ヲ爲スコトヲ得サルナリ

第三 眞所有者カ貸借ヲ認許シタルトキ 此場合ハ極メテ簡單ナリ即チ貸主カ貸與物ノ所有者ニ非サルニモモヨ眞所有者カ現出シテ此貸借ヲ認諾シタルトキハ恰モ眞所有者ノ承諾ヲ經テ貸與シタルト一般ニシテ其貸借契約ハ有効ニ成立ス可キハ固ヨリ論ヲ竣タス唯タ眞所有者ノ認諾ヲシテ有効ナラシムルニハ物件讓渡ノ能力ヲ有スルコトヲ要スルノミ然ラハ則チ眞所有者ノ認諾アリタルトキハ借主ハ完全ニ契約ノ目的ヲ達シテ利益ヲ得ヘキニ依リ貸主ニ對シテ同價物返還ノ

義務ニ任セサル可カラズ但貸主ハ其返還額ニ付キ眞所有者ト共ニ清算ヲ爲ス可キハ勿論ナルヲ以テ爰ニ贅言ヲ要セサルナリ

第八十二條 貸借物ニ借主ノ了知セスシテ貸主ノ了知シタル隠レタル瑕疵アリテ借主爲メニ損害ヲ受ケタルトキト雖モ貸主ハ無利息ノ貸借ニ付テハ其損害ノ責ニ任セス但貸主ニ詐欺アリ又ハ加害ノ意思アリタルトキハ此限ニ在ラス
此貸借カ利息附ナルトキハ貸主ノ了知セサリシ隠レタル瑕疵ト雖モ之ヲ了知スルコトヲ得ヘキトキハ其責ニ任ス
此他賣買廢却訴權ニ關スル第九十四條乃至第一百一條ノ規定ハ之ヲ消費貸借ニ適用スルコトヲ得

〔義解〕(一〇) 本條ハ貸借物ニ隠レタル瑕疵アルキハ貸主之カ損害ノ責ニ任ス可キヤ否ヤニ付キ其範圍ヲ示シタルモノナリ
夫レ消費貸借ノ性質上片務ノ契約ナルコトハ已ニ知了セル所ニシテ其契約ノ片務ナルカ爲メ獨リ借主ノミ義務ヲ負ヒテ貸主ハ毫モ義務ナキモノナリ然ルニ本條ハ貸借物ニ付キ隠レタル瑕疵アリテ借主ニ損害ヲ蒙ラシメタルトキハ貸主之カ責ニ任ス可キコトト爲セシヨリ貸主ニモ亦一箇ノ義務アルカ如キ思想ヲ起サシムルト雖モ是レ本條規定ノ精神ニ非サルナリ蓋シ貸主カ其貸與物ニ付キ損害ノ責ニ任スルハ貸借契約其モノヨリ生スル所ノ義務ニ非スシテ本契約ヨリ生スル事實ノ結果ナリトス即チ借主ニ加ヘタル不正ノ損害ニ對シ負擔スル義務ナリ故ニ貸主ニ此義務アルモ本契約ニ絲毫ノ影響ヲ及ホスナク依然タル片務契約ノ性質ヲ有スルヤ固ヨリ論ヲ竣タサルナリ

然リ而シテ貸主カ損害ノ責ニ任スルニ付テハ其貸與物ノ瑕疵タルヤ借主ノ知了セス且隠レタル瑕疵ナルコトヲ要スルナリ實ニ借主ニシテ貸借ノ當時其物ニ瑕疵アルコトヲ知了シタルモノト爲サン乎是レ借主ノ自業自得ニシテ焉ソソ貸主ヲ責ムルヲ得ンヤ又其物ノ瑕疵カ外見ノモノナルキハ借主ハ復々容易ニ之ヲ了知シ得ヘカリシカ故貸主ニ於テ損害ノ責ニ任スルノ理ナシ而シテ法律ハ貸主ノ責任ヲ無償貸借ト利息附貸借トニ區別シタルカ故是ヨリ以下總テ之ニ準ス可キモノトス乞フ其場合ニ付キ少シク之ヲ觀察セン

無償貸借ノ場合 是レ本條第一項ノ規定スル所ニシテ此場合ニ於テハ假令其物ニ隠レタル瑕疵アリテ且借主ノ知了セサルトキト雖モ貸主ハ其損害ノ責ニ任セサルナリ但貸主カ借主ニ對シ詐偽ノ所爲アルカ或ハ故意ヲ以テ借主ニ損害ヲ加ヘタルキハ格別ニシテ貸主ハ其損害ノ責ニ任セサル可カラス是レ即チ不正ノ損害ニ基クノ結果ナリト

利息附貸借ノ場合 是レ本條第二項ノ規定スル所ニシテ此場合ニ於テハ貸主カ其貸與物ニ付キ隠レタル瑕疵アルコトヲ知了シタルトキハ勿論假令其瑕疵アルコトヲ知了セサルニモセヨ之ヲ知了シ得ヘキモノナルトキハ之カ損害ノ責ニ任セサル可カラス何トナレハ貸主カ其貸與物ニ付キ瑕疵アルコトヲ知了スルハ敢テ至難ノコトニ非ス其性質品格等ヲ勘査スルハ實ニ貸主タル者ノ本務ナリ然ルニ之ヲ知了セスト云フハ貸主ノ過失タルヲ免カレサレハナリ故ニ例ヘハ貸主カ(イ)印麥酒若干ヲ貸渡シ借主返還ノ際同量同質ノ物ト共ニ之カ利息トシテ尙ホ若干ノ麥酒ヲ辨濟スルノ契約ヲ爲シタリト假想センニ貸主ヨリ貸渡シタル(イ)印麥酒ハ其麥酒ノ品質ニ反シ下劣ニシテ飲料ニ供ス可

カラサルカ如キトキハ貸主ハ其品質ノ如何ナルヤヲ十分ニ知了シ得ヘキモノナルカ故借主ニ對シテ損害ノ責ニ任セサル可カラス然レモ貸主カ豫メ無擔保ノ條件ヲ附シテ貸借契約ヲ爲セシキハ其賠償ノ責ニ任セサルコトヲ得ヘシ但此ノ場合ト雖モ貸主ニ於テ其瑕疵アルトヲ知了シ且詐偽ノ所爲アリタルキハ格別ニシテ無擔保條件ノ効用ヲ生セサルナリ第九十七條參看

(一一) 本條第三項ハ貸借物ニ隱レタル瑕疵アルニ依リ之ヲ廢却スルノ訴權ハ本編第九十四條乃至第一百一條ニ規定セル賣買廢却訴權ニ關スル規定ヲ適用スルトヲ指示シタルナリ蓋シ借主カ未ダ借用物ヲ消費セサルニ當リ貸借ノ當時ヨリ借主ノ知了セサル不外見ノ瑕疵アルトヲ見出シタルキハ其貸借ヲ廢却スルトヲ得ヘク又其瑕疵ノ重大ナルトヲ證スル能ハサルカ或ハ假令重大ナル瑕疵アルモ之ヲ返還スル

トヲ欲セサルトキハ借主ハ其返還物ヲ減少スルノ要求ヲ爲ストヲ得ヘク或ハ又右ノ場合ニ於テ貸主カ當初ヨリ其瑕疵ヲ知了シタルキハ尙ホ損害賠償ノ責ニ任セシムルトヲ得ヘシ然リ而シテ此瑕疵ニ關スル證據ハ總テ法律上ノ證據方法ヲ以テ立證スルトヲ得ヘク又貸借契約ノ廢却返還物ノ減少損害ノ賠償等ニ係ル訴權ハ特別ノ期間ニ服從ス可ク又返還物減少ノ訴權ハ借用物ノ讓渡ニ依リ之ヲ喪失セサル可ク尙ホ又貸借物ノ不可抗力ニ由リ全部又ハ一部ノ滅失ニ由リ以上ノ訴權ヲ或ハ消滅セシメ或ハ減少セシムルトアル可キナリ

第八十三條 財產編第四百六十三條乃至第四百六十六條ハ正貨又ハ強制通用ノ紙幣ニテ爲シタル消費貸借ニ之ヲ適用ス
然レトモ貸主カ財產編第四百六十五條ノ許セル金

貨若クハ銀貨ヲ以テ指定シタル價額ノ辨濟ヲ受ケ
又ハ此等ノ正貨ノ一ヲ以テ辨濟ヲ受クルコトヲ要
約スルニハ同性質ノ正貨又ハ他ノ正貨若クハ紙幣
ヲ以テ對當ノ價額ヲ實際ニ貸付スルコトヲ要ス

〔義解〕(一二) 本條ハ金圓ヲ以テ貸借ノ目的物ト爲シタル場合ニ付キ
規定シタルナリ

本條ニ明記セル如ク正貨即チ金銀貨幣又ハ紙幣ヲ目的ト爲セル消費
貸借ニ付テハ財産編第四百六十三條乃至第四百六十六條ノ規定ヲ適
用ス可キモノトス故ニ貸借ノ目的物カ金圓ナルキハ借主ハ返還期ニ
至リ金貨又ハ銀貨ヲ以テスルモ或ハ紙幣ヲ以テスルモ其選擇ニ依リ
之ヲ返還セハ以テ其義務ヲ免カル、コトヲ得ヘシ而シテ正貨並ニ紙
幣ハ時々其相場ニ變動ヲ生シテ市場價格ト法律上ノ價格トハ同一ナ

ラサルコト之アリ加之ナラス時トシテ或ハ法律ヲ以テ通貨ノ價格ヲ增
減スルコトナキニシモ非サル可シト雖モ借主ハ其實際價格ノ如何ニ
關セズ借受ケタル時ノ價格ヲ以テ返還スレハ則チ足レリトス例ヘハ
貸主ヨリ金貨千圓ヲ借受ケタリト假想センニ借主ハ之ヲ返還スルニ
付キ金貨千圓ヲ以テシ又ハ銀貨千圓ヲ以テスルモ將タ紙幣千圓ヲ以
テスルモ自己ノ選擇ニ任セ其一ヲ返還スレハ之カ義務ヲ免カル可キ
ナリ然ラハ則チ此場合ニ於テ貸借當時ノ金貨千圓ハ返還期ノ市場價
格(現時チレハ)千二百九十圓ニ相當スルコトモアル可ク或ハ法律ヲ以テ
千圓ヲ千百圓ト爲シ若クハ九百五十圓ト爲スコトモアル可シト雖モ兎
ニ角通貨千圓ヲ返還スレハ則チ可ナルナリ
借主實際ヲ見ルニ金貨ハ毎ニ昇騰シテ銀貨又ハ紙幣ハ全ク之ト正反
對ナルノ勢アリ故ニ借主ハ高貴ナル金貨ヲ返還センヨリ寧ロ低廉ナ

621492

ル銀貨又ハ紙幣ヲ以テ返還スルヲ得策ナリトシ可成的低廉ナル通貨
 ヲ擇ンテ之ヲ返還シ以テ其差額ヲ利スルヨリ貸主ノ爲メニハ非常ノ
 不利ヲ來ス可シト雖モ法律ハ契約自由ノ原則ヲ確守シ特約ヲ爲サ、
 ルニ於テハ通用貨幣ノ一ヲ以テ返還スルノ選擇權ヲ借主ニ委シタル
 カ故貸主ニ於テ損害ヲ受クルアルモ亦タ止ヲ得サルナリ蓋シ此ノ場
 合ニ於ケル貸主借主ノ地位ハ同等ニシテ借主ハ低廉ナル銀貨又ハ紙
 幣ヲ以テ返還スルヲ利益トシ貸主ハ之ニ反シテ高貴ナル金貨ニテ返
 還ヲ受クルヲ利益トス斯ル場合ニ逢遭スルヤ權利者ヲ保護センヨリ
 寧ロ義務者ヲ保護スルハ普通法ノ原則ナルヲ以テ消費貸借ニ於テモ
 亦タ此原則ヲ適用シ以テ借主ニ此選擇權ヲ附與シタルノミ然レモ是
 レ頗ル至善ナル規定ト云フヲ得サルナリ然ラハ則チ之ヲ救治シ矯正
 シ以テ借主貸主ヲシテ共ニ公平ヲ得セシムルノ途ハ之ヲ如何ニシテ

可ナルヤト云フニ借主又ハ貸主ノ一方ニ選擇權ヲ與ヘスシテ金圓ヲ
 返還スルニ付テハ各貨ヲ兩折シ例ヘハ金貨千圓ノ貸借ニ付テハ金貨
 五百圓銀貨五百圓ト爲スカ如ク雙方ヲシテ利益損失ヲ分有セシメハ
 或ハ可ナラン然レモ契約自由ノ原則ヨリ云ヘハ此ノ如キヲ強ユ可キ
 ニ非ス唯タ當事者任意ノ了諾ニ出テシムルヲ要ス然ルニ若シ法律ヲ
 以テ之ヲ強行センカ彼ノ原則ヲ蹂躪シ契約ノ範圍ヲ減縮スルニ至ル
 可ク社會ノ理財上ニ於テモ亦タ有利ナリト云フ可カラサルナリ又貸
 主ハ前例ニ反シテ紙幣千圓ヲ貸與シ之カ返還ヲ受クルニハ金貨若ク
 ハ銀貨ヲ以テス可ク紙幣ニテハ返還ヲ受ケサル可シトノ契約ヲ爲シ
 タルアリトセンカ苟モ此ノ如キハ借主ノ選擇權ヲ奪却シ且公益ニ關
 スル法律ニ背反スルモノナルヲ以テ其契約ハ無効ナリトス今マ假リ
 ニ之ヲシテ有効ナリト想像センニ貸主ハ常ニ自己ニ利益ナル貨幣ヲ

以テ返還ヲ受ク可キトテ約定シ殆ノト強令ノ通貨ヲシテ効力ナキニ至ラシメ啻ニ借主ヲシテ非常ノ困弊ニ陥ラシムルノミナラス理財上莫大ノ影響ヲ蒙ラシム可キナリ

第百八十四條 貸借ヲ金銀塊ニテ爲シタルトキハ借主ハ他ノ商品ノ貸借ノ如ク同一ノ性質、重量及ヒ品格ノ金銀塊ヲ返還スルコトヲ要ス

〔義解〕(一三) 前條ハ法律上ノ通貨ヲ以テ貸借ノ目的物ト爲セシカ本條ハ金銀塊即チ地金ニ付テノ貸借ナルヲ以テ一般ノ代替物ト同シク借主ハ其借用物ト同量同質ノ金銀塊ヲ返還シ以テ義務ヲ免カル、トテ得ヘシ要スル所總テ金圓外ノ物件ヲ目的トシタル場合ト全ク同一ナリトス然リ而シテ彼ノ法律上通貨タルノ効用ヲ有セサル古金銀ノ如キモ亦本條ノ場合ト異ナルナクレハ之ヲ適用シテ借主ハ其借用

物ト同量同質ノ古金銀ヲ返還スルノ約定ヲ爲スモ敢テ不可ナルナキナリ

第百八十五條 金錢、日用品又ハ商品ノ借主ハ使用ノ報酬トシテ元本ノ外ニ利息ノ名目ヲ以テ借用物ノ割合ニ應スル金額又ハ有價物ノ辨濟ヲ約スルコトヲ得

〔義解〕(一四) 本條以下第百九十條ハ利息附貸借ニ關スル規定ヲ掲ケタルモノナリ

本條ニ金錢、日用品又ハ商品トアリ故ニ利息附ノ貸借ハ單リ金錢ニ關スル場合ノミナラス他ノ日用品又ハ商品ニ付テモ亦利息ヲ付スルトテ得ヘシ且其利息ハ金錢ヲ以テスルノミナラス同性質又ハ其他ノ有價物ヲ以テスルトテ得ヘキナリ

抑此利息附貸借ノ正當ナルヤ否ニ付テハ歐洲諸國ニ於テモ甲是乙非學說紛々容易ニ決セザリシカ遂ニ今日ハ其正當ヲ認ムルニ至レリ蓋シ借主ノ金錢需用ニ汲々タルヤ其貸主アルニ際シテハ現時ノ急迫ヲ免カレ且其希望ヲ達センカ爲メ假令高利ナルニモ拘ラス之ヲ借受ケ其返還ノ期ニ至ルニ及ンテハ金圓ヲ調達スル能ハス往々高利ノ爲メニ資財ヲ蕩盡スルノ危険ニ陥ルヲアリテ大ニ社會ニ荼毒ヲ流スモノト思惟セラレタルカ故中古高利貸ノ弊尤モ増長ヲ加ヘタル時ニ當テハ利息附ノ貸借ニ非常ノ嚴密ナル制限ヲ加ヘ遂ニハ之ヲ禁止シ「人ハ毫モ得利ヲ望マス以テ金ヲ貸ス可シ」トノ宗教主義ニ基キ貸借ハ必ス無償ナリトセシ「モアリシカ是レ却テ一時ノ激勢タルニ過キスシテ止メリ故ニ今日ニ在リテハ決シテ此ノ如キ迷想ヲ懷ケル者アルトナクシテ其利息附貸借ノ正當ナルトハ猶ホ彼ノ土地所有者カ小作人ヨ

リ賃料ヲ得又家屋ノ所有主カ借家人ヨリ家賃ヲ得ルノ正當ナルト同シク金圓ノ貸主ハ借主ニ金圓ヲ貸與シテ物件ヲ購求スルノ利益ヲ得セシメ或ハ負債ヲ支拂ヒ信用ヲ復サシメ之ニ依テ種々ノ利得ヲ得セシム可キニ因リ其利得即チ使用ノ報酬トシテ貸主ニ利息ヲ辨濟スルハ一見其不當ナルコトヲ察知シ得ヘカラサルニ因ルナリ然ラハ則チ利息附ノ貸借ニ付テハ之ヲ合意上ノ利息ニ放任ス可キヤ將々之ニ制限ヲ付シテ法律上ノ利息ヲ設定ス可キヤ如何ト云フニ之カ沿革ヲ繹ヌレハ已ニ今日ハ歐洲諸國ニ於テ概テ合意上ノ利息ヲ認許シ佛國ニ在テハ既ニ之ヲ唱道スルノ學者頗ル多キヲ加ヘ殊ニ商事ニ至テハ實際合意上ノ利息ヲ認許スルコトト爲レリ千八百八十六年一月ヲ以テ商事ニ關シ六米ノ制限法ヲ廢止シ然ルニ古法ハ全ク利息附ノ貸借ヲ禁止シ大革命ノ際ニ當テハ此禁止ヲ廢絶シテ利息ハ總テ契約者ノ自由ニ委シタルヲアリシカ其

弊ニ堪ヘス爾後ノ法律ヲ以テ復ヒ利息ニ制限ヲ付シ即チ民事ニ付テハ百分ノ五、商事ニ付テハ百分ノ六ナル制限法ヲ規定セリ本邦ニ於テモ亦々往時ハ高利貸ヲ嚴禁セシカ明治十年九月ヲ以テ利息制限法ヲ制定セリ

然リ而シテ此利息ニ制限ヲ付スルノ當否ニ至リテハ今日モ尙ホ貸主ノ貪慾ナル借主ノ急迫ニ乘シテ過分ノ高利ヲ要求シ否ラサルモ利子ノ増殖ヲ爲スノ點ヨリシテ借主ヲ保護スルニ即チ法律上ヨリ利息ニ制限ヲ付スルヲ可トスルノ論者ナカラスト雖モ利子ノ増殖ニ付テハ短期ノ時効ヲ設ク可ク又借主ノ困難ニ乘スルカ如キノ行爲ハ獨リ本貸借ノミニ止マラサルヲ以テ茲ニ主トシテ論難ス可キニ非ス殊ニ利息制限法ヲ設定スルモ狡猾ナル貸主ハ巧ミニ手段ヲ施シ種々ニ法網ヲ遁レテ其慾ヲ逞フス可ク又正實ナル者ハ法律ニ拘束セラレ寧ロ無

資力ノ危険ニ遭遇センコトヲ顧慮シテ遂ニ貸出ヲ爲サス爲メニ金融閉塞ノ一端ト爲リ了セリ是ヲ以テ利息ニハ制限ヲ置カスシテ之ヲ當事者ノ自由ニ放任シ彼ノ經濟上ノ需用供給ノ原則ニ基キ自カラ利息ノ相場ヲ定メシムルヲ以テ可ト爲スニ至リシナリ故ニ本法ニ於テハ佛法ニ摸倣シ佛國民法第九百七條參看第九百八十七條ニ規定スルニ法律ヲ以テ特ニ定メタル合意上ノ利息ノ制限ヲ超ユルコトヲ得スト云フヲ以テシ以テ大ニ合意上ノ利息ニ餘地ヲ與ヘタリ然ラハ則チ本法ノ規定ハ社會ノ事態ニシテ利息附貸借ニ制限ヲ付スルノ要用ヲ生スルトキハ何時ニテモ之ヲ追補スルコトヲ得ヘキカ故能ク事宜ニ適セルモノト謂フ可キナリ

第八十六條 利息ハ要約シタルニ非サレハ借主ニ對シテ之ヲ要求スルコトヲ得ス

借主ヨリ利息ヲ辨濟ス可キノ合意アリテ其額ノ定
 ナキトキハ其割合ハ法律上ノ利息ニ從フ
 要約セラレサル利息ヲ法律ノ制限内ニテ任意ニ辨
 濟シタル借主ハ之ヲ取戻シ又ハ之ヲ元本ノ辨濟ニ
 充當スルコトヲ得ス

〔義解〕(一五) 消費貸借ハ元來無償契約ナルヲ原則ト爲スヲ以テ其利
 息ヲ附加シテ有償ノモノト爲スニハ當事者ニ於テ特約スルコトヲ必要
 トス而シテ其利息ノ割合ハ必スシモ證書面ニ明記スルヲ要セス只マ
 此特約アルコトヲ知了シ得ヘキモハ則チ利息附貸借タルニ妨ケナキモ
 ノニシテ總テノ證據方法ヲ以テ之ヲ證明スルコトヲ得ヘキナリ
 然ラハ則チ借主カ利息ヲ支拂フノ特約ヲ爲スモ其割合ヲ定メサルト
 キハ如何ナル標準ニ據ル可キヤト云フニ本條第二項ハ其割合ハ法律

上ノ利息ニ從フト爲セリ故ニ此場合ニ於テハ義務者ハ法律上ノ利息
 ヲ辨濟シ以テ其義務ヲ免カル、コトヲ得ヘシ而シテ其法律上利息ノ
 割合ハ現今ニ在テハ明治十年ノ頒布ニ係ル特別法ニ依リ借主ハ年六
 分ノ利息ヲ負擔スルヲ要スルナリ蓋シ本法ハ法律上ノ利息ノ場合ハ
 之ヲ特別法ニ讓リタルニ因リ社會必要ノ限度ニ應シ何時ニテモ之カ
 割合ヲ増減變更シ以テ本法ヲ改正スルコトナク其時ノ宜シキニ應シ
 得可キモノナリ

〔一六〕 然リ而シテ借主ハ契約ヲ以テ利息支拂ノ義務ヲ負擔セサルニ
 拘ハラズ自己ノ任意ニテ利息ヲ辨濟シタル場合ニ在テハ本條第三項
 ニ之カ規定ヲ爲セリ曰ク之ヲ取戻シ又ハ之ヲ元本ノ辨濟ニ充當スル
 コトヲ得スト實ニ法律ハ借主カ任意ニ辨濟シタルハ是レ正ニ自然義
 務ヲ辨濟シタルモノナリト看做シタルニ在リ蓋シ自然義務ヲ任意ニ

辨濟シタルキハ最早之ヲ取戻スコトヲ得サルハ普通ノ法理ニシテ且
 本法ノ認ムル所ナレハナリ第四編第二章但其錯誤ニ基キ全ク任意ニ
 出テサル場合ハ格別ナリトス例ヘハ遺産相續人カ死者ノ遺存セル義
 務ニハ利息ノ附加セルモノト誤信シテ辨濟シタルカ如キ是レ其任意
 ニ出テタル辨濟ニ非サルヲ以テ借主カ其錯誤ナルヲ證明スルニ於
 テハ之カ取戻ヲ爲スコトヲ得ヘキナリ
 尙ホ爰ニ注目ス可キハ本項ニ「法律ノ制限内」トアルヲ以テ假令任意ニ
 テ利息ヲ辨濟スルト雖モ若シ其利息ノ割合ニシテ法律ノ制限ヲ超過
 シタルキハ是レ全ク過分ニ辨濟シタルモノニシテ法律上正當ノ辨濟
 ナリト看做ス可キモノニ非サレハ借主ハ其超過額ヲ取戻スコト得ヘキ
 是レナリ

第百八十七條 合意上ノ利息ハ法律上ノ利息ヲ超ユ

ルコトヲ得但法律ヲ以テ特ニ定メタル合意上ノ利
 息ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス
 法律ノ制限ヲ超エテ顯然ニ利息ヲ定メタルトキハ
 之ヲ法律ノ制限ニ減却シ此制限ヲ超エテ爲シタル
 辨濟ハ之ヲ元本ノ辨濟ニ充當シ又ハ之ヲ取戻スコ
 トヲ得
 債權者カ實際ニ貸付シタル元本ヲ超ユル元本ヲ認
 メシメ又ハ其他ノ方法ヲ以テ正當ノ利息ヲ隱祕
 シタルトキハ債務者ハ其不正當ノ利息ヲ辨濟スル
 コトヲ要セス若シ辨濟シタルトキハ之ヲ取戻スコ
 トヲ得

〔義解〕(一七) 本條ハ利息附貸借上三箇ノ特別ナル事項ニ關シ之カ規

定ヲ爲シタルナリ

第一 法律上ノ利息ニ超過スルヲ得ル場合 前段ニ於テ解説シタル如ク法律ヲ以テ利息ノ制限ヲ特定シタルトキハ合意上ノ利息ハ其制限ニ従ハサル可カラス故ニ現行制限法ニ従フトキハ百圓以下ノ金額ニ付テハ年二割千圓以下百圓以上ノ金額ニ付テハ年一割五分千圓以上ノ金額ニ付テハ年一割二分ノ利息ノ如キ是レ法律ノ制限スル所ナルヲ以テ之ニ超過スルコトヲ得サルナリ然レモ彼ノ遅延利息ナルモノニ至リテハ法律上ノ利息ナルモ特ニ法律ヲ以テ之カ制限ヲ爲シタルニ非サルヲ以テ合意上ノ利息ハ法律上ノ利息ニ超過スルコトヲ得ヘキナリ

第二 顯然制限利息ヲ超過シタル場合 貸主若シ法律ノ特定セル制限法ニ超過セルニ拘ハラズ顯然合意上ノ利息ヲ約定シタルトキハ其

超過セル部分ハ之ヲ減却シテ制限内ノ額ニマテ其利息ヲ引下ク可キモノトス蓋シ法律ハ此ノ如ク顯然制限ヲ超過セル利息ヲ約定スルカ如キハ全ク貸主カ制限法ノ存在スルコトヲ知了セサルカ否ラサレハ之ヲ誤了シタルモノト看做シタルニ出テシモノニテ是レ即チ貸主ニ科シタル民事的制裁タルニ過キサルナリ此故ニ借主カ已ニ超過セル利息ヲ辨濟シタルトキハ本條第二項末文ニ云ヘル如ク之ヲ元本ノ辨濟ニ充當シ又ハ之カ取戻ヲ要求スルモ借主ノ隨意タル可キナリ

第三 超過利息ヲ隠蔽シタル場合 前段ニ反シ貸主カ實際貸與シタル元本ノ書増ヲ爲サシメ若クハ超過セル不正當ノ利息ヲ隠蔽シタルトキハ法律ハ貸主ニ對シ之カ利息ヲ要求スルコトヲ許サ、ルノミナラス借主カ已ニ辨濟シタルトキハ之カ取戻ヲ爲スコトヲ得ヘク又ハ元本ノ辨濟ニ充當セシムルコトヲ得ヘク貸主ハ利息ニ關シ絶對ニ權利ヲ喪失ス

可キナリ而シテ本項ハ其隱蔽ノ事例ヲ掲ケタルニ過キサレハ總テ貸主ノ施爲セル隱蔽ノ手段ニ付テモ亦本項ヲ適用シテ貸主ノ奸策ヲ防遏シ以テ之カ權利ヲ喪失セシムルモノトス是レ又貸主ニ科スル民事的制裁ニシテ殊ニ苛嚴ナルモノナリ

ノ如ク法律カ貸主ニ科スルニ利息要求ノ權利ヲ喪失セシムルヲ以テシタルハ貸主ノ貪慾ヲ抑制シ嚴責セルモノニシテ總テ利息ニ關シテハ直接間接ニモ之カ利得ヲ得セシメサランコトヲ希圖シタルニ在ルナリ

第百八十八條 貸主ハ支拂時期ノ至リタル利息ニ付

キ異議ヲ爲サスシテ元本ノ全部又ハ一分ヲ受取りタルトキハ其利息ヲ受取り又ハ之ヲ拋棄シタリトノ推定ヲ受ク但反對ノ證據アルトキハ此限ニ在ラ

ス

〔義解〕(一八) 凡ソ義務者ノ辨濟ヲ爲スヤ其辨濟ハ先ツ之ヲ利息ニ充テ然ル後元本ニ及ホスヲ以テ普通法ノ原則トス然ルニ貸主カ借主ヨリ其辨濟ヲ受クルニ當リ已ニ支拂期限ノ至リタル利息ノ在リシニモ拘ハラス之ヲ元本トシテ受取りタルモハ其辨濟金額ノ全部ナルト一部ナルトヲ問ハス利息ニ付テハ貸主已ニ之ヲ受取りタルカ又ハ之ヲ拋棄シタルモノトノ推定ヲ受ク可ク此推定ハ決シテ失當ノモノニ非ス何トナレハ貸主ハ利息ヲ生セサル債權ヨリハ寧ロ利息ヲ生スル債權即チ元本ヲ貯存ス可キハ情理自カラ然ラシムル所ナレハナリ故ニ貸主ニ於テ異議ナク其辨濟ヲ受取ルヤ暗黙ニ其利息ヲ拋棄シタルモノトノ推定ヲ爲スハ當然ノコトト云フ可シ然リ而シテ此推定ハ管ニ全部ノ辨濟ノ場合ノミナラス一部分ノ辨濟ノ場合ニ於テモ其辨濟セサ

ル殘部ノ利息ニ付テハ固ヨリ之ヲ適用ス可キモノトス何トナレハ苟
 モ支拂期限ノ至リシ利息ノ在ルヤ其義務者ヨリ受取リタル金圓ハ先
 ツ之ヲ利息ニ充テ其殘額ヲ以テ元本ノ辨濟ニ充ツルヲ普通ノ法則ト
 爲セハナリ然レモ一部分ノ辨濟ノ場合ニ於テ其殘額ニ對スル將來ノ
 利息ニハ固ヨリ此推定ヲ及ホスコテ得ス何トナレハ法律ハ支拂期限
 ノ到來シタル利息ニ付テノミ之レカ推定ヲ爲シタルハナリ
 然リ而シテ此法律上ノ推定ハ絶對ノモノニ非ス即チ本條末段ニ「反對
 ノ證據アルハ此限ニ在ラス」ト規定セリ故ニ貸主カ已ニ期限ノ至レ
 ル利息ヲ未タ受取ラサルカ又ハ其利息ヲ拋棄スルノ意思ナカリシモ
 ハ具サニ其事情ヲ擧ケ之ヲ證明シテ法律ノ推定ヲ排撃シ以テ其權利
 ヲ貯存スルコトヲ得ヘシ例ヘハ支拂期限ノ已ニ到來シタルニ依リ甲
 者(借主)ハ金圓ヲ乙者(貸主)ニ返還シ且曰ク元本(全部又ハ一部)トシテ之

ヲ受領セヨ其利息ニ付テハ貴君ト相殺ス可キ金額アルニ因リ追テ清
 算ノ上勘定ヲ爲ス可シト而シテ乙者モ首肯シテ之ヲ受領シタルモ
 如シ此場合ニ在テハ乙者ハ利息ニ付キ暗黙ノ拋棄ヲ爲シタルニ非サ
 ルハ十分推知シ得可キヲ以テ然ルナリ
 第百八十九條 十今年ヲ超ユル期間ヲ以テ利息附ノ
 貸借ヲ爲シタルトキハ借主ハ如何ナル反對ノ合意
 アルモ十今年後ハ常ニ辨濟ヲ爲スノ權能ヲ有ス
 然レトモ年賦金ヲ以テ利息ノ外尙ホ元本ノ幾分ヲ
 漸次ニ辨濟ス可キトキハ其取越辨濟ヲ爲スコトヲ
 得ス

〔義解〕(一九) 本條ハ利息附貸借ノ最長期間ヲ示定セルモノナリ
 凡ソ契約ノ期間ハ當事者ノ合意ニ依リ隨意ニ指定スルコトヲ得ヘキハ

契約法ノ原則ニシテ當事者ハ其約定ノ期間中權利ヲ主張シ義務ヲ免
 カル、コトヲ得サルモノトス而シテ其期間ノ利益ヲ有スル當事者ニ在
 リテハ何時ニテモ之ヲ拋棄スルコトヲ得ヘキハ一般ノ原則タリトス
 本條ハ右原則ノ例外ヲ規定シタルモノニシテ利息附ノ貸借ニ付キ實
 際十個年以上ニ渉ル期間ヲ約定シタル場合ニ於テハ借主ニ許スニ十
 個年以上利息ヲ辨濟シタルモ其期間カ貸主ノ利益ノ爲メニ設定セ
 ラレ且如何ニ反對ノ合意アルモ之ニ關セス其義務ヲ辨濟シ得ヘキコ
 トヲ以テセリ是レ法律ヲ以テ借主ノ爲メニ貸主ニ屬スル期間ノ利益ヲ
 喪失セシムルモノニシテ而シテ此例外ノ理由如何ト云フニ元來利息
 ノ割合タル物價ノ高低金融ノ緩急等物ノ需用供給ノ關係ニ依リテ毎
 ニ變動ヲ生スルハ社會上ノ事實ナリ然ルニ當事者カ利息附貸借ノ期
 間ヲ十個年以上ト約定シ而シテ貸借ノ當時金圓ノ流通必迫ニシテ利

息高貴ナリシトセン歟借主ハ此期間アルカ爲メニ爾後金融ノ寛和ト
 爲リ低利ノ金圓アルニモ拘ハラズ依然高利ノ金圓ヲ使用セサルヲ得
 スシテ遂ニハ之レカ爲メ事業ノ衰頽ヲ來タシ資産ノ耗失ヲ招クコト
 ナキヲ保セス法律ハ此等ノ點ヲ豫想シ長クモ其期間ハ十個年以上ヲ
 超過ス可カラスト爲シタルナリ加之ナラス彼ノ年金權設定ノ契約ニ
 付テ之ヲ見ルモ法律ハ契約ヲ爲シタル以後已ニ十個年ヲ經過スルヤ
 借主ニ元本ヲ返還スルノ權能ヲ與ヘ貸主ハ之ヲ拒否スルコトヲ得スト
 爲セリ即チ利息附貸借モ亦之ト同性質ヲ有スルモノナレハ借主ニ
 此權能ヲ許與ス可カラサルノ理由存セサルニ因リテ然ルナリ第一百九
 然リ而シテ其貸借契約ノ性質カ年賦金ノ名義ヲ以テ利息ノ外ニ元本
 ノ一部分ヲ合シ以テ漸次ニ辨濟スルモノナランニハ其期間ノ十個年
 以上ナルモ借主ハ其期間前ニ取越辨濟ヲ爲スコトヲ得ス蓋シ此場合ハ

前者ト異ナリテ貸主ハ利息ノミニ付キ約權シタルニ非ス即チ元本ヲモ其中ニ包含セシメタルモノナレハ普通ノ原則ニ據リテ貸主ニ屬スル期間ノ利益ヲ尊重シ借主ヲシテ其約定ノ期間ニ服從セシムル者トス然ルモ尙ホ借主ノ爲ニハ其元本漸次減少シテ恰モ取越辨濟ヲ爲サシムルト殆ト同一ノ結果ニ至ル可シ是レ第二項ノ規定アル所以ナリ

第九十條 第九十六條乃至第九十九條ノ規定ハ消費貸借ヨリ生スル義務ヲ除ク外金錢又ハ定量物ノ義務及ヒ合意上、法律上ノ利息ニ之ヲ適用ス

〔義解〕(二〇) 第九十六條乃至第九十九條ハ特リ消費貸借ニノミ關セル規定ニ非スシテ總テ一般辨濟ノ場合ニ適用ス可キノ規定ナルカ故其範圍廣汎ニシテ苟モ其契約ノ目的カ金額又ハ定量物ニ關セル義務ナルトキ及ヒ合意上、法律上ノ利息ニ付テハ右諸條ノ規定ヲ適用

ス可キナリ而シテ之ヲ一般辨濟ノ箇所第三編第三章ニ規定セスシテ本章ニ讓リタルハ別ニ深意アリテ然ルニ非ス即チ立法者ハ唯々其適用ノ消費貸借ノ場合ニ最多カル可キヲ以テ便宜上ノ處置ニ出テタルモノナリ

故ニ爰ニ定量物例ハ清酒十樽ヲ乙者(權利者)ニ對シテ辨濟ス可キ義務者(甲者)アランニ此場合ニ於テ甲者ハ清酒十樽ヲ辨濟スルノ外尙ホ利子ヲ負擔スルノ契約ヲ爲スコトヲ得ヘク若シ契約ヲ以テ其利子ノ割合ヲ指定セサルキハ乙者ハ法律上ノ利子ヲ受クルコトヲ得ヘク若シ又法律ノ制限内ニ於テ甲者任意ニ利子ヲ辨濟シタルキハ之ヲ取戻スコトヲ得サルナリ而シテ合意上ノ利子カ法律ノ制限ヲ超過セシキノ如キ其故意ニ出テタルト詐欺ニ出テタルトニ從ヒ乙者ハ其利子ヲ法律ノ制限内ニ減却セラレ若クハ全ク利子ヲ追奪セラル、コアル可シ且

又乙者ノ異議ヲ狹マスシテ受領シタル全部又ハ一部ノ辨濟ニ付テハ支拂時期ニ至レル利息ノ辨濟又ハ拋棄ヲ推定セシム可ク乙者之カ反證ヲ舉クルニ非サレハ合意上又ハ法律上ノ利息ヲ要求スルコトヲ得サル可シ又其辨濟ノ期限カ十年以上ニ涉レルモハ如何ニ反對ノ合意アルモ之ニ拘ハラス甲者ハ期限前ニ之カ辨濟ヲ爲シテ義務ヲ免カル、コトヲ得ヘシ、要スルニ一般普通ノ場合ニ於テモ前掲諸條ノ適用ヲ受ク可キモノナリ

尙ホ爰ニ注意ス可キ一事アリ他ナシ商法ニ規定セル冒險貸借ナル特殊ノ貸借契約ニ付テハ本法ノ規定ヲ適用セサルコト是ナリ蓋シ冒險貸借ナルモノハ借主カ船舶又ハ積荷ヲ抵當トシテ金圓ヲ借受ケ而シテ其冒險料海上利益ト稱スル制限外ノ利子ナリヲ支拂フノ約束ヲ以テ冒險抵當物ノ海上危險ヲ貸主ニ負擔セシムルモノヲ云ヒ其抵當物ノ

安全ニ目的港ニ到着スルヤ貸主ハ元金ハ勿論冒險料ノ辨濟ヲ要求スルコトヲ得ヘク之ニ反シテ抵當物ノ滅盡シタルモハ貸主ハ其冒險料ハ勿論元金ヲモ要求スルヲ得ス是レ名ハ貸借契約タルモ其實ハ最モ著明ナル射倖契約ニ屬スルヲ以テナリ本編第二百五十九條參看

第二節 無期年金權ノ契約

[總說]

(二一) 無期年金權ノ契約ハ往時歐洲ニ於テ利息附貸借ヲ制禁セラレタルヨリ變生シタルモノニシテ其當時ニ在リテハ頗ル必要且便益ナリシト雖モ已ニ此制禁ノ解止セラレタル今日ニ在リテハ最早人民間ノ必要減退セシニ因リ年金權設定ノ契約ヲ見ルハ太々稀少ニシテ唯マ政府カ時トシテ此貸借方法ヲ利用シ以テ鐵道、運河等ノ大工事ヲ起シ或ハ軍備ノ擴張ヲ爲スノ用途ニ當ツルニ過キサルコト爲レリ蓋シ

此方法ニ依ルキハ巨額ノ金圓ヲ借入レ而シテ確定セル期限ニ之カ元本ノ返還ヲ爲スヲ要セス只タ元本ニ對スル利子(年金)ノ支拂ヲ爲セハ則チ足レルヲ以テ政府ハ新稅ヲ設クルカ或ハ稅額ヲ増加シテ之カ利子支辨ノ方法ヲ設ケ若シ又元本ヲ償却シ得ヘキ時機ニ遭遇スレハ何時ニテモ一時ニ之ヲ償還シテ義務ヲ免カル、トテ得ヘケレハナリ抑、往時利息附貸借ノ制禁アルニ拘ハラス年金權契約ノ是認セラレテ人民間ニ盛行シタル所以ヲ尋マルニ之ヲ一箇ノ貸借トシテ觀察シタルニ非ス即チ一種ノ債權賣買ナリト思惟シタルニ因ルナリ故ニ例ヘハ甲權利者カ乙義務者ヨリ無期年金權ヲ得タルハ是レ乙者ニ年金供給ヲ受クル債權ヲ賣渡シ乙者ハ元本ヲ買受ケ年金供給ノ義務ヲ生シタルモノト爲セシニ在リテ其實年金供給ノ義務ハ元本ニ對セル毎年ノ利子ナルモ元本ノ返還ヲ要求セラレサルヲ以テ之ヲ利息附貸借ト

見做ス可カラスト爲セシニ在ルナリ

《二二》然リ而シテ無期年金權ノ契約ニシテ不動産ノ年金權ナルモノアリ往時最モ社會ニ便益ヲ與ヘタルモノナレハ茲ニ之ヲ一言セシ不動産ノ年金權トハ不動産ヲ賣買スルニ付キ買主カ元本ヲ支拂フトナク金圓又ハ定量物ヲ無期又ハ畢生間賣主ニ供給シ以テ不動産ヲ取得スルノ契約ニシテ往時ニ在リテハ不動産ニ付テモ利息附貸借ヲ制禁セラレタリシカ故右ノ方法ニ依リテ買主ハ十分ノ元本ヲ有セサルモ不動産ヲ取得スルコトヲ得タリシナリ而シテ不動産ノ年金權ハ其權利ノ不動産上ニ存セルモノト爲シ買主カ年金賦額ヲ供給スルノ義務ヲ履行セサルキハ賣主ハ不動産上ノ權利(物上權)ヲ以テ之レニ對抗スルコトヲ得ヘク第三者ニ對シテハ追求權ヲ行ヒ以テ賦額ノ供給ヲ受クルコトヲ得ヘシト爲セリ今日ニ於テモ右ノ方法ニ因リ不動産ヲ

賣却スルコトヲ得ヘク若シ買主ニシテ年金ヲ供給セサルハ賣主ハ其契約ヲ解除シ若クハ先取特權ヲ行用スルコトヲ得ヘキナリ然レモ法律上利息附貸借ノ認容セラレタル現時ニ在リテハ強テ此方法ニ據ラサルモ買主ハ他ニ金圓ヲ借受ケ其目的タル物件ヲ購買スルコトヲ得ヘキニ因リ今ハ則チ所有權取得ノ一方法トシテ之ヲ了得スルニ止マリ殆ト其便益ヲ見サルナリ

第九十一條 貸主ハ元本ノ要求ヲ爲スコトヲ自ラ禁止シ年金ノミヲ受取ルコトヲ要約スルコトヲ得之ヲ無期年金權ノ設定ト謂フ
此禁止ハ明示ナルカ又ハ明カニ事情ヨリ生スルコトヲ要ス

〔義解〕(二三) 本條ハ無期年金權ノ定義ヲ與ヘタルモノナリ

本條ニ「貸主ハ元本ノ要求ヲ爲スコトヲ自ラ禁止シ」トアリ是レ即チ普通貸借ト異ナル處ニシテ年金權設定契約ノ特色ナル點ナリトス夫レ普通貸借ニ在リテハ期限ニ長短ノ差別アルニ拘ハラズ貸主ハ必ス其期限ノ到來ニ因リ爰ニ元本ノ返還ヲ要求スルノ權能ヲ保有スト雖モ無期年金權ノ貸主ハ此元本要求ノ權能ヲ禁止シ只々元本ヨリ生スル利子即チ年金ヲノミ受取ルモノニシテ反言スレハ貸主ハ元本ニ付テノ債權者ニ非ス即チ利息(年金)ニ付テノ債權者ナリ此ヲ以テ貸主カ若シ早晚元本ノ要求ヲ爲スコトヲ得テ此權能ノ禁止ナシトセンカ然ルモハ普通貸借ト毫モ區別スル所アラサルナリ
然リ而シテ此禁止ハ第二項ニ規定セル如ク必スシモ明示ヲ要スルニ非ス其禁止セルコトノ明瞭ニシテ且非認ス可カラサルモノナルモハ亦「事情」ヨリモ生スルコトヲ得ヘシ故ニ例ヘハ甲者カ三千圓ノ金ヲ乙

者ニ貸與シテ云ハソニ右三千圓ノ元本ハ貴下隨意ニ使用セヨ余ハ之
 カ返還要求ヲ爲サ、ル可シ但爾來元本ノ利子トシテ年々百五十圓ヲ
 辨濟セヨト明約シタル如キハ勿論假令明約セサルモ乙者ニ對シ右貸
 與ノ金圓ハ永ク余カ子孫ノ學資ニ供セント欲スルモノナレハ貴下ヨ
 リ學資料トシテ年々百五十圓ノ利子ヲ支拂フ可シト約束スルカ如キ
 是レ亦々貸主ハ十分ノカ返還要求ヲ禁止シタルノ事情判明ナルニ因
 リ之ヲ無期年金權設定ノ契約ナリト爲スヲ得ヘキナリ
 然ラハ則チ要求期限ノ不定ナルトキ例ヘハ借主ノ返還シ得ヘキモ又
 ハ其意ノ適シタルトキ返還ス可シトノ契約ヲ爲シ貸主カ之ヲ認諾シ
 タル場合ニ在リテハ無期年金權ノ契約ハ成立ス可キヤ如何本法ハ此
 場合ニ於テハ裁判所ニ請求シテ之カ期限ヲ指定スルコトヲ得ヘキモ
 財產編第 四百三條 強チ之ヲ以テ無期年金權ノ設定ヲ非認シタルニ非サレハ事

情ニ依リ此場合ト雖モ或ハ無期年金權契約ノ成立スルモノト爲スヲ
 得ヘキナリ

又此契約ハ利息附貸借ノ一種ニ屬スルカ故年金即チ元本ニ對スル利
 子ハ利息制限法ニ從フ可キモノニシテ若シ此制限高ヲ超過シタルニ
 於テハ其超過高ハ制限内ニ減却セラル可キモノトス

更ニ注目ス可キハ凡ソ利息ニ利息ヲ加フルコト即チ利息ヲ元本ニ組
 入ル、ニハ其利息ノ一个年分ノ延滞セル毎ニ特別ニ合意ヲ爲スカ又
 ハ裁判所ニ請求セサル可カラサルモノナルモ年金權設定ノ契約ニ付
 テハ延滞利子ノ一年未滿ニ係ルトキト雖モ特別ノ合意又ハ裁判所ニ
 請求シタル時ヨリ利息ニ利息ヲ付ス可キコト是レナリ 財產編第 九十四條 第 二 百 二 項

第百九十二條 無期年金ノ債務ヲ負擔スル借主ハ如

何ナル反對ノ合意アルモ常ニ其受取りタル元本ノ
辨濟ヲ爲スコトヲ得

然レトモ借主ハ十個年ヲ超エサル或ル時期前ニ辨
濟ヲ爲ササルヲ約スルコトヲ得

右期間ハ常ニ之ヲ更新スルコトヲ得然レトモ亦十
個年ヲ超ユルコトヲ得ス若シ之ヲ超ルトキハ十個

年ニ短縮ス

辨濟ハ反對ノ合意アラサルトキハ全部タルコトヲ
要ス

債務者ハ六個月前ニ辨濟ヲ爲ス意思ヲ債權者ニ豫
告スルコトヲ要ス但當事者ニ於テ他ノ期間ヲ定メ
タルトキハ此限ニ在ラス

債務者ハ自己ノ定メタル時期ニ於テ辨濟ヲ爲ササ
ルトキハ其損害賠償ノ責ニ任ス然レトモ辨濟ノ強
要ヲ受クルコト無シ但更改アリタルトキハ此限ニ
在ラス

〔義解〕(二四) 本條ハ無期年金契約ノ性質ヲ示シタルモノニシテ契約
自由ノ原則ニ對スル變例ニ係ルモノナリ

夫レ無期年金權ノ設定タル貸主(債權者)ハ元本返還ノ要求ヲ爲スコト
ヲ得ス又借主(債務者)ハ元本返還ノ義務アルコトナクシテ只々年々之
レカ賦額ヲ辨濟スルノ契約ナルニ因リ全ク普通契約ニ反スルモノナ
リト雖モ契約自由ノ原則ニ於テ聊カ容喙ス可キニ非サルナリ然ルニ
本條第一項ニ「借主ハ如何ナル反對ノ合意アルモ……元本ノ辨濟ヲ
爲スコトヲ得」トシ獨リ借主ニ許スニ契約ノ如何ニ關セス元本ノ辨濟ヲ

爲シテ年金義務ヲ免カレ得ヘキコトヲ以テシ以テ契約ノ自由ヲ制限セシハ是レ即チ普通法適用ノ例外ナリ從テ此場合ニ於ケルヤ貸主ハ自己ノ爲メニ設定シタル期限ノ利益モ之ヲ行用スルヲ得サルカ故如何ニ貸主カ元本返還ノ禁止ヲ契約スルモ借主ハ隨意ニ之ヲ返還スルコトヲ得ヘキニ因リ亦タ夫ノ「期限ノ利益ハ其利益ヲ有スル者ニ非サレハ拋棄スルヲ得ス」トノ原則ニ對スル例外ニシテ借主ハ之カ利益ヲ有セサルニ拘ハラズ貸主ノ意向ニ反シテ元本ノ辨濟ヲ爲スコトヲ得ヘキナリ

法律ハ何カ故ニ斯ク借主ヲ保護シテ貸主ノ權利ヲ尊重セサルヤ即チ貸主ニ對スルノ薄遇ナル何ソ此ノ如キヤト云フニ前ニ説述シタル如ク利子ノ割合タルヤ需用供給ノ法則ニ基キ毎ニ變動ヲ生スルモノナルニ若シ契約當時ノ割合ヲ以テ永久ニ利子ヲ辨濟ス可シトセシカ或

ハ利子カ元本ヲ侵襲シテ借主ハ爲メニ大ナル損害ヲ被ムルコトアル可シ是レ只タ借主ノ損害タルノミナラス社會ノ理財上ニモ自カラ影響ヲ及ホス可キニ因リ借主ニ元本辨濟ノ權能ヲ與ヘ以テ年金義務ヲ免カル、コトヲ得ヘシト爲セシモノニシテ其保護タルヤ專ラ公平ト必要トニ因由シ來レルモノナリ

借主ハ右ノ如ク貸主ノ意向、契約ノ如何ニ關スルコトナク元本ノ返還ヲ爲スノ權能アリト雖モ其權能ヲシテ太々廣汎ナラシムルハ亦タ是レ保護ノ主義ニ背反スルヲ以テ本條第二項ハ之レカ中庸ヲ取リ「借主ハ十年ヲ超エサル或ル時期前ニ辨濟ヲ爲サ、ルコトヲ得」トシ即チ其最長期十年已内ニ元本ノ辨濟ヲ爲サ、ルノ特約ヲ締結スルコトヲ許容セリ蓋シ保護ノ偏倚ナラサランコトヲ欲シタルモノニシテ若シ夫レ法律カ之ニ制限ヲ加ヘス單ニ借主ノ專意ニ放任セハ貸主ハ何時之カ

返還ヲ受クルモ知ル可カラスシテ當ニ心意ノ安キ能ハサルノミナラ
 ス一朝元本ヲ辨濟セラレテ之ヲ受取ラサルヲ得サルニ至ラハ遽カニ
 其益用方法ヲ計畫スルモ反掌直チニ應生ス可キニ非サレハ貸主ノ爲
 メニ受クル損失ハ決シテ輕易ナラサルヲ以テ然ルナリ故ニ十個年ヲ
 超エサル期間元本ノ辨濟ヲ爲サ、ルコトヲ特約スルヲ得且其期間ハ
 常ニ之ヲ更新スルヲ得ヘキモノトス但其更新ノ契約ハ亦十個年ヲ
 超越スルコトヲ得ス若シ超越スルニ於テハ其契約ヲ無効トセスシテ
 法律上ノ期間即チ十個年ニ減縮セラル是レ實ニ借主ヲシテ其期間ノ
 過長ナルカ爲メニ適當ナル時機ニ乘シテ元本ノ辨濟ヲ爲スノ權能ヲ
 妨碍セサラシムルニ在ルナリ本條第三項而シテ此規則タルヤ共有者カ財
 産ノ分配ヲ要求スルノ期間ト其旨趣ヲ同フシ只其期間カ一ハ十個
 年ヲ限度ト爲シ他ノ一ハ之ヲ五個年ト爲ス長短ノ差アルノミ財產編第三十

九條
參看

然リ而シテ已ニ限定期間ノ到來セシニ債務者カ尙ホ引續キ年金ノ支
 拂ヲ爲スモ債權者ハ之ヲ拒却シテ元本ノ辨濟ヲ要求スルコトヲ得ス
 即チ債務者ヨリ支拂フ處ノ年金ヲ收受スル外一ノ權利ヲ有セサルモ
 ノトス蓋シ元本ノ辨濟ヲ爲スト否トハ一ニ債務者ノ權能ニ屬スルモ
 ノニシテ此權能ハ時効ノ効果ヲ受ク可カラサルニ因ルナリ是レ所謂
 年金權設定契約ニ特有ナル性質ニ因レルモノニシテ彼ノ受戻ノ權能
本編第三章第三節第二款ニ於ケル場合トハ全ク其旨趣ヲ異ニセリ何トナレハ賣
 買ニ於ケル受戻ノ權能ハ合意上ヨリ生スル純粹ノ權利ナルヲ以テ契
 約ノ期限ヲ經過スレハ最早受戻ヲ爲ス丁ヲ得ス其後更テニ之カ賣買
 ヲ爲スモ是レ受戻ニ非スシテ新賣買ナルニ因リ其權能ヲ喪失スト雖
 モ年金權ニ在リテハ其辨濟ノ權能ハ法律上ヨリ本契約自體ノ性質ト

爲セシカ故期限ノ經過ニ因リテ喪失ヲ來タスモノニ非サレハナリ
 (二五) 又元本ノ辨濟ヲ爲スニ付キ本條第四項ヲ以テ反對ノ合意アラ
 サルトキハ全部タルヲ要ス^ト爲シタルハ是レ普通法ノ適用ニシテ
 辨濟ヲ數箇ニ分ツハ當事者ノ意思ニ背反スルヲ以テ然ルナリ但契約
 ヲ以テ反對ヲ明記シタル場合ハ格別ニシテ法律ハ之ヲ更改アリタル
 モノト看做シ因テ以テ貸主ニ一部ノ辨濟ヲ受領スルノ義務ヲ生セシ
 メリ然レ^レ之ヲ以テ普通義務ニ關シテ裁判所ヨリ猶豫期限ヲ與ヘ且
 一部ノ辨濟ヲ爲ス^トヲ許容スルノ場合ト同視ス可キニ非ス何トナレ
 ハ彼ノ場合タルヤ不幸ナル義務者ノ爲メニ債權者ノ要求ヲ緩和セシ
 ムルモノニシテ債務者保護ノ一手段タルニ過キスト雖モ年金權設定
 ノ契約ニ付テハ前述ノ如ク元本ノ辨濟ハ債務者ノ權能ニ屬シ換言ス
 レハ其辨濟ヲ爲スト否トハ債務者カ任意ノ義務ニ係ルヲ以テ債權者

ヨリ其辨濟ヲ強要スルコトヲ得ス一ニ債務者ノ意思ニ任ス可ク債務
 者カ其意思ヲ以テ辨濟セント欲シ且全部ヲ辨濟シ得ヘキトキヲ期シ
 以テ之ヲ爲ス可キモノナレハナリ尤モ次條ニ規定セルカ如キ場合ニ
 於テハ元本辨濟ノ強要ヲ受ク引キニ因リ此時ニ際シテハ普通法ニ從
 ヒ債務者カ不幸且善意ナルヤ裁判所ハ債務者ニ對シテ猶豫期限ヲ與
 ヘ且一部ノ辨濟ヲ許容スル^トモアル可キナリ
 然リ而シテ一部辨濟ノ場合ニ於ケル其部分ノ割合ハ契約ヲ以テ示定
 スル^トヲ得ヘク若シ又債務者カ死去シテ相續人數名ヲ殘存シタル場
 合ト雖モ亦タ其割合ニ準據ス可キモノニシテ例ヘハ先人ノ遺留シタ
 ル年金ノ債務アリ其元本一千二百圓ヲ相續人三名ニテ相續シタリト
 假想センニ此三名ハ相續シタル部分即チ甲五百圓乙四百圓丙三百圓
 ナルトキハ其割合ニ應シ各^ノカ元本ヲ辨濟シ以テ其義務ヲ免カル、

トテ得ヘキナリ此ヲ以テ最初ヨリ債務者數名アリテ年金義務ニ付キ連帶ノ責任ヲ負ヘル場合ニ各自其部分ヲ擔任スルモノナルモハ亦テ前例ト同一ナリ而シテ債權者カ最初ヨリ又ハ相續ニ因リテ數名アル場合ニ於テモ債務者ハ一部即チ其部分ニ應シテ辨濟ヲ爲シ若クハ債權者ノ一名ニ對シテ全部ノ辨濟ヲ爲ストテ得ヘシ要スルニ年金權ナルモノハ債務者タルノ點ヨリ見ルモ又債權者タルノ點ヨリ見ルモ其性質不可分のニ非スシテ分割シ得ヘキモノタルナリ又此一部ノ辨濟ニ付テハ第八十八條ノ規定セル利息ノ辨濟又ハ拋棄ノ推定ヲ受クルモノナリヤト云フニ此場合ニ於テハ全ク該條ヲ適用セス即チ其辨濟ヲ以テ各自別箇ノ義務ヲ辨濟シタルモノト看做シ其他ノ部分ニ屬スル義務ニハ毫モ之カ影響ヲ及ホサ、ルナリ

〔二六〕 債務者カ元本ノ辨濟ヲ爲サント欲セハ債權者ニ對シ六ヶ月前

ニ辨濟ノ旨ヲ豫告セサル可カラズ若シ否ラスシテ突然辨濟ヲ爲サントカ債權者ハ遽カニ之カ益用方法ヲ見出ス能ハサルヲ以テ法律ハ爰ニ之カ注意ヲ取リシナリ尤モ最初ヨリ辨濟期限ヲ確約シタルトキハ格別ニシテ敢テ辨濟ノ豫告ヲ要セサルハ勿論ナリトス第五項

然ルニ若シ債務者カ豫告シタル時期ノ到來シタルニ之レカ辨濟ヲ爲サ、ルトキハ如何、債權者ハ辨濟ヲ強要スルコトヲ得ヘキヤ將々單ニ損害賠償ノ訴權ヲ有スルニ止マルヤ否ヤ本條第六項ハ單ニ「損害賠償ノ責ニ任ス」トシテ債權者ニ辨濟強要ノ權能ヲ有セシメス是レ他ナシ債務者ノ申出ノミヲ以テ本契約ノ性質ヲ變更シ直チニ無期ヲ變シテ有期ト爲スコトヲ得サルニ因ルノミ夫レ然リ之レヲ變更セント欲セハ明カニ推定シ得ヘキ「更改」ナル事由ノ生スルコトヲ要シ密ニ債權者ノ承諾又ハ特約ノミニテハ未タ以テ之レカ變更ヲ認許ス可カラサ

第九十三條 債務者ハ財産編第四百五條第一號乃至第三號ニ依リテ尋常ノ債務者カ權利上ノ期限ノ利益ヲ失フ場合又ハ合式ノ付遲滞ヲ受ケタル後引續キ二個年間年金ノ辨濟ヲ缺キタル場合ニ於テハ元本辨濟ノ強要ヲ受ク

此未ノ場合ニ於テ裁判所ハ財産編第四百六條ニ從ヒ債務者ニ恩惠上ノ期限及ヒ分割辨濟ヲ許與スルコトヲ得

〔義解〕(二七) 本條ハ債權者ハ元本ノ辨濟ヲ要求スルヲ得スト云ヘル原則ノ例外ヲ規定シタルモノナリ

債權者カ元本ヲ貸與シタルノ目的ハ素ヨリ其利子(年金)ヲ取得スルニ

在リテ元本ノ辨濟ヲ要求スルノ權能ヲ拋棄シタルモノナリト雖モ債務者カ如何ナル所爲ヲ爲スモ絶對ニ然リト云フニ非ス故ニ債務者カ詐欺其他不正ノ所爲ヲ以テ年金義務ヲ履行セサルハ債權者ニ元本ノ辨濟ヲ要求スルノ權能ヲ得セシメサル可カラス是レ本條カ此例外ヲ設ケタル所以ニシテ而シテ其例外ノ場合ハ財産編第四百五條ニ之ヲ列掲セリ但該條ハ通常ノ債務者カ權利上ノ期限ノ利益ヲ失フ場合ニシテ其第一號乃至第三號ハ直チニ之ヲ適用シ其第四號ニ付テハ本條更ラニ條件ヲ附加セリ今マ其場合ヲ左ニ概擧セン

第一 債務者カ破産シ又ハ顯然無資力ト爲リタルハ 若シ此場合ニ債權者ヲシテ元本ノ要求ヲ爲スコトヲ得セシメザラニハ債務者ノ財産分配ニ加入スル能ハスシテ爲ニ損害ヲ受クルヲ明了ナレハナリ

第二 債務者カ財産ノ多分ヲ讓渡シ又ハ其多分カ他ノ債權者ノ差押

ヲ受ケタルキ 是レ亦タ前ト同シク債權者ハ辨濟ヲ受ク可カラサル
ノ危険ニ陥ルヲ以テ然ルナリ

第三 債權者カ其供シタル特別ノ擔保ヲ毀滅シ若クハ減少シ又ハ其
豫約シタル擔保ヲ供セサルキ 例ヘハ擔保ノ爲メ債權者ニ抵當ト爲
シタル家屋ヲ破壊シ若クハ其一部ヲ毀損スルカ如キ或ハ抵當ト爲ス
可キ家屋ノ供出ヲ拒却スルカ如キ是レ亦タ債務者ノ所爲ニ因リ債權
者ニ危険ヲ懷カシムルモノナルヲ以テ元本辨濟ノ強要ヲ受ケシムル
ナリ

第四 債務者カ合式ノ付遲滯ヲ受ケタル後尙ホ引續キ二個年間年金
ノ辨濟ヲ缺キタルキ 利子辨濟ノ場合ニ於テハ唯タ其期限ヲ經過セ
ルノミニテハ未タ以テ債務者ニ失權ヲ與ヘス債務者カ合式ノ付遲滯
〔裁判所ニ請求ヲ爲シ又ハ債務者ニ催告ヲ爲スコトヲ要ス〕ヲ受ケタル

後尙ホ引續キ二個年間年金ノ辨濟ヲ缺キタル場合ニ於テハ債權者ハ
元本辨濟ノ要求ヲ爲スコトヲ得ヘキナリ

然リ而シテ本條ハ合式ノ付遲滯ヲ受クル場合ニ在テハ財産編第四百
六條ノ規定ヲ適用シテ裁判所ハ債務者ニ或ハ猶豫ノ期限ヲ與ヘ或ハ
分割辨濟ヲ許スコトヲ得ヘシト爲セリ是レ債務者カ第四百六條ノ條
件ニ適シ不幸且善意ナル場合ヲ像想シタルモノナルヲ以テ然ルナリ
故ニ若シ該條件ニ適セサルヤ此特典ヲ受クルヲ得サルハ復タ辯ヲ要
セサルナリ然ラハ則チ第四百五條第一號乃至第三號ノ場合ニ此特典
ヲ許與セサルハ實ニ債務者カ恩惠上ノ期限ノ利益ヲ受クルノ資格ヲ
有セス即チ第四百六條ノ條件ニ適合セサルニ因ルノミ

第九十四條 前二條ノ規定ハ不動産讓渡ノ代價若
クハ條件トシテ設定シ又ハ無償ニテ設定シタル無

期年金權ニ之ヲ適用ス

右孰レノ場合ニ於テモ辨濟ハ當事者ノ評定シタル元本ヲ以テ之ヲ爲シ又元本ノ評定ナキトキハ法律上ノ利息ノ割合ニ從ヒテ計算シタル年金ヲ生ス可キ元本ヲ以テ之ヲ爲ス

日用品ヲ以テ年金ニ充ツルトキハ辨濟ハ特別ノ合意アルニ非サレハ前十年間ノ其平均代價ニ基キ計算シタル元本ヲ以テ之ヲ爲ス

〔義解〕(二八) 本條ハ一種ノ年金權即チ不動産ノ年金權無償ノ年金權等ノ設定ヲ認メタルモノナリ

不動産年金權ノ設定ハ本邦ニ於テ實際上未ダ之レカ行用ヲ見サレヒ社會ノ進運ニ從ヒ必ス其場合ヲ生スルニ至ル可ク殊ニ各國トノ交通

益隆盛ヲ加フルヤ從テ歐米ノ習慣モ續々トシテ舶來ス可キニ因リ今日ニ於テ之レカ規定ヲ爲スハ亦タ利益ナシト謂フ可カラサルナリ
 不動産ノ年金權ハ本條ニ云ヘル如ク「不動産讓渡ノ代價若クハ條件トシテ設定スルモノナリ例ヘハ甲者所有ノ不動産ヲ一萬圓ト定メ(或ハ定メスシテ)之ヲ乙者ニ讓渡シ乙者ヨリ毎年百圓ツ、ノ年金ヲ受クルノ契約ヲ爲スカ如キ又無償ノ無期年金權ハ贈與又ハ遺贈ニ因リ無償ノ名義ヲ以テ設定スルモノヲ云フ例ヘハ甲者カ贈與トシテ乙者ニ年々百圓ノ年金ヲ支拂フ可キヲ約定シ又ハ遺贈トシテ相續人ヨリ乙者ニ年金百圓ヲ支拂フ可キ旨ノ遺言ヲ爲スカ如キ是ナリ
 抑年金權契約ナルモノハ上來已ニ解説シタルカ如ク貸主ヨリ貸渡シタル所ノ元本ニ對シ年金ヲ支拂フモノニシテ其元本ハ最初ヨリ幾干ナルヤ十分明了ナルニ因リ借主(債務者)カ元本ノ辨濟ヲ爲サントスル

ヤ其借受ケタル元本ノ辨濟ヲ爲セハ則チ足レリトス然ルニ年金權ノ設定カ不動産讓渡ノ代價若クハ條件ニ係ルキハ之カ元本ヲ辨濟スルニ當リ其元本ヲ幾千ナリト知了ス可キヤ法律ハ本條第二項ヲ以テ當事者カ元本ノ評定ヲ爲シタル場合ト否トヲ想見シ以テ之レカ規定ヲ爲セリ以下其場合ニ付テ之ヲ講究セシ

第一 當事者ニ於テ元本ノ評定ヲ爲シタル場合 此場合ニ於テハ債務者ハ年金權設定ノ當時豫定シタル元本ノ辨濟ヲ爲シ以テ年金義務ヲ免カル、モノトス例ヘハ甲者カ其讓受ケタル不動産ノ代價トシテ乙者ニ對シテ毎年百圓ヲ年金賦額ト定メ以テ辨濟スルノ契約ヲ爲シタリト假想セヨ而シテ當事者雙方ニ於テ其元本ノ代價ヲ千圓若クハ三千圓ト指定シタルトキハ債務者ハ此指定シタル金額ヲ辨濟シ以テ年金義務ヲ免カル、トヲ得ヘキナリ然ルキハ年金ト元本トヲ比較シ

或ハ法律上ノ利息ノ割合ニ超過シ或ハ不足スルトアル可シト雖モ法律ハ此等ノ合意ニ干涉スルトナク全ク當事者ノ意思ニ放任セリ故ニ利息制限法ニ依據スルトナク契約ヲ以テ評定シタル金額ヲ元本ト爲シ之ヲ辨濟シテ以テ年金義務ヲ免カル、コトヲ得ヘシ蓋シ法律上ノ利子ニ比較シテ斯ク高價ナルヤ是レ不動産ノ價值ナリト見做ス可ク又其利子ノ割合ヨリ低廉ナルヤ是レ債務者ニ價額ノ一部ヲ釋放シタルモノト見做スヲ得ヘクシテ毫モ法律ヲ以テ制限法ヲ施行スルノ必要ナク且契約自由ノ原則ヲ動ス可キ理由アラサルニ因ルナリ

第二 當事者ニ於テ元本ノ評定ヲ爲サ、リシ場合 年金契約ヲ爲スニ際シ其目的物タル不動産ノ價額ヲ定メサルニ於テハ殆ント其辨濟ス可キ正當ナル元本ノ高ヲ知ルニ由ナク又假令現ニ其不動産カ義務者ノ手ニ存スルニモセヨ數年ヲ經ルニ於テハ自カラ其代價ニ昂低ア

ル可キニ因リ現物ヲ以テ辨濟ニ充ツ可キモノト斷定スルヲ得ス故ニ
 本法ハ法律上ノ利息ノ割合ニ從ヒ其年金ヲ計算シ以テ元本ノ高ヲ定
 ム可キモノト爲セリ例ヘハ甲者カ自己ノ不動産ヲ乙者ニ讓渡シ之カ
 代價ヲ評定セスシテ年々二百圓ノ年金ヲ受クルノ契約ヲ爲シタリト
 假想セヨ乙者其元本ヲ定メテ年金義務ヲ免カレンニハ此年金二百圓
 ヲ法律上ノ利子ニ基キテ計算ス可キモノトス即チ現時ノ法律上ノ利
 子ハ百ニ付六ナルニ因リ利子百分ノ六ハ則チ元本ノ十六分ノ一(一六
 六六)ニ相當スルヲ以テ此一六六六ニ年金賦額ヲ乘スレハ爰ニ其元本
 ヲ算出スルヲ得ヘシ依テ今年年金二百圓ノ元本ヲ知ラント欲セハ右
 ノ比例ニ從ヒ算出ス可シ然ルモ此元本ハ三千三百三十三圓三十三
 錢ト爲ル可キヲ以テ乙者カ年金義務ヲ免カレントスルニハ右ノ金額
 ヲ元本トシ以テ辨濟ス可キナリ故ニ此場合ニ於テハ年金賦額ノ幾千

ナルヲ問ハス毎ニ前掲ノ如ク法律上ノ利子ノ割合ニ從ヒテ元本ヲ算
 定シ以テ債務者カ其算定シタル金額ヲ辨濟スルモハ法律ハ之ヲ以テ
 元本ヲ辨濟シタルモノト見做ス可キナリ

〔二九〕 前述ノ規定ハ亦之ヲ無償ノ年金權ニモ適用スルヲ得ヘシ
 即チ年金ノ贈與者又ハ遺贈者モ元本辨濟ノ條件ヲ付シテ本契約ヲ爲
 シ自己又ハ相續人カ隨意ニ其辨濟ヲ爲スヲ貯存スルヲ得ヘキナリ
 例ヘハ五百圓ノ年金ヲ贈與若クハ遺贈ニ依リテ與ヘタリトセンニ之
 ニ條件ヲ付シ若シ元本ノ辨濟ヲ爲サント欲スルトキハ五千圓若クハ
 一萬圓ヲ支拂ヒ年金義務ヲ免カル可シト契約スルハ當事者ノ隨意ニ
 シテ法律ノ干涉スル所ニアラサルナリ而シテ此場合ニ於テハ債務者
 ハ年々百圓ニ付キ十圓又ハ五圓ノ割合ニ從ヒ利息ヲ支拂フ可ク若シ
 又之カ辨濟ヲ爲スニハ元本トシテ二千五百圓若クハ三千圓ヲ支拂フ

可シトセンカ此ハ利息ハ百圓ニ付キ二十圓ト爲リ又ハ十六圓六十
六錢ト爲ルヲ以テ債權者ハ元本ノ一部ヲ釋放シテ之カ辨濟ヲ企圖シ
タリト云フヲ得ヘキナリ

然ルニ不動産年金權又ハ無償ノ年金權ヲ設定スルニ當リ本條第三項
ニ規定スルカ如ク日用品ヲ以テ年金ニ充ツルハ之カ元本ノ辨濟ハ
如何シテ算定ス可キヤ例ヘハ麥或ハ糯ヲ以テ年金ト爲シ其支拂ヲ爲
セルニ當リ當事者ハ「特別ノ合意」ヲ以テ元本ノ高ヲ指定シタルトキハ
其高ニ從テ辨濟スヘキカ故敢テ困難ヲ見スト雖モ元本ノ高ニ付キ何
等ノ約定ヲモ爲サ、リシキハ本項ニ基キ「前十个年ノ平均代價」ニ從ヒ
計算ヲ爲シ以テ元本ノ辨濟ヲ爲ス可キナリ夫レ此方法タル元來佛國
法ヲ摸倣シタルモノナレモ之ニ改正ヲ加ヘテ該法ノ煩ヲ避ケタリ即
チ佛國法ニ據ルヤ此場合ニ在テハ十四年來ノ相場ヲ取り其内最モ高

キ相場ノ二个年ト最モ低キ相場ノ二个年トヲ控除シ残り十个年ノ平
均代價ニ依リテ元本ヲ定ム可シト爲シタリシカ本法ノ如ク最初ヨリ
十个年ノ平均代價ヲ積算シ之カ元本ヲ定ムルノ却テ簡便ナルニ如カ
サルナリ

然リ而シテ以上説述シタル處ノ年金權設定ノ契約ニ付テハ前二條ノ
規定ヲ適用ス可キニ因リ假令如何ナル反對ノ契約アルモ債務者ハ每
ニ元本ヲ辨濟スルヲ得ヘク且十个年ヲ超エサル期間債務者ニ於テ
辨濟ヲ爲サ、ルヲ約スルヲ得ヘク其期間ニ付テハ更新ヲ爲シ得ル
モ其更新ニシテ十个年ヲ超ユルハ之ヲ十个年ニ減縮ス可シ而シテ
其辨濟ハ通常全部タル可キモノニシテ且之ヲ辨濟スルニハ六个月前
ニ豫告スルコトヲ要シ其約定期間ニ辨濟セサルハ損害賠償ノ要求
ヲ受クルコトアル可ク若シ債務者カ權利上ノ期限ノ利益ヲ喪失シ及ヒ

合式ノ付遲滯ヲ受ケタルキハ債務者ハ元本ノ辨濟ヲ強要セラル可ク若シ又裁判所ニ於テ或ハ猶豫ノ期限ヲ與ヘテ然ル可シト思料スルキハ之カ期限ヲ與ヘ且分割ノ辨濟ヲ許ストモアル可シ要スルニ以上ノ場合ニ於テ特約アルニ非サレハ前二條ノ規定ヲ適用スルヲ得ヘキナリ

第九章 使用貸借

[總説]

〔三〇〕 使用貸借ハ前章ニ於テ已ニ説述シタル如ク其目的ハ物件ノ使用ヲ取得スルニ在リ即チ人權ヲ組成スルニ過キスシテ消費貸借ノ如ク物件ノ所有權ヲ取得スルモノニ非ラス換言スレハ使用貸借モ亦タ財産取得ノ一方法ニシテ特定權原ノ取得方法中ニ指數ス可シト雖モ本來無償ノ取得方法ニ屬スルモノニシテ單ニ人權ヲ取得スルニ止マ

ルナリ

此ヲ以テ本法ニ於テハ佛國法ノ規定ニ倣ハスシテ貸借ヲ二箇ニ分別シ且其順序ヲ先後シタルハ法律編成上其躰ヲ得タルモノト謂フ可キナリ

第一節 使用貸借ノ性質

第百九十五條 使用貸借ハ當事者ノ一方カ他ノ一方ノ使用ノ爲メ之ニ動産又ハ不動産ヲ交付シ明示又ハ默示ニテ定メタル時期ノ後他ノ一方カ其借受ケタル原物ヲ返還スル義務ヲ負擔スル契約ナリ

此貸借ハ本來無償ナリ

第百九十六條 借主ハ使用ノ物權ヲ取得セス單ニ貸主及ヒ其相續人ニ對シテ人權ヲ取得ス

借主ノ權利ハ其相續人ニ移轉セス但其相續人カ當事者ノ意思ノ之ニ異ナルコトヲ證スルトキハ此限ニ在ラス又其相續人カ他ヨリ同種ノ物ノ使用ヲ得ル爲メ裁判所ヨリ返還猶豫ノ期限ヲ受クルコトヲ妨ケス

〔義解〕(三一) 右二條ハ使用貸借ノ性質ニ付キ規定シタルモノナリ夫レ使用貸借モ亦有名合意ノ一種ナレハ其契約ノ有効ナルニハ普通契約ニ要スル處ノ條件即チ承諾、目的、原因及ヒ能力等ヲ完全具備スルノ外尙ホ特別ノ條件ヲ具フルコトヲ要セリ今マ其使用貸借ニ固有ナル性質ヲ解剖シ以テ如何ナル條件ヲ要スルヤヲ知了セン
第一 使用貸借ハ要物契約ナルコト即チ此貸借ハ當事者双方ノ承諾ノミヲ以テ成立スルモノニ非ス必スヤ物件ノ引渡ヲ竣ツテ初メテ其

効ヲ生スルモノトス蓋シ借主ヲシテ物件ノ使用ヲ爲サシムルハ本契約ノ主タル目的ナレハナリ然ルニ若シ其物件ノ引渡ヲ要セスト爲サノ歟借主ハ如何ニシテ其未タ受取ラサル物件ニ付キ之カ使用ヲ爲スコトヲ得ヘキヤ加之ナラス借主ハ其物件ニ注意ヲ加ヘ之ヲ保存シ且期限ニ至リ之ヲ返還スルノ義務ヲ負擔スルモノナルニ未タ使用セサル物件ニ對シ如何シテ此等ノ責ニ任スルコトヲ得ヘキヤ即チ物件ヲ使用シ且之ヲ保存シ返還スルノ義務ヲ生スルハ實ニ其物件ヲ受取リタルニ因ラスノハアル可カラサルナリ
然レモ使用貸借モ只タ承諾ノミニテハ絕對ニ無効ナリト云フニ非ス固ヨリ無名契約トシテハ其合意モ有効タリ而シテ此無名合意ニ依レハ使用貸借ニ於ケル債務者ハ物件引渡ヲ要求スルノ債權者タル可ク又其債權者ハ期限ニ至リ物件ヲ貸渡ス可キノ債務者タル可シ斯クテ

此合意ノ實行ニ依リ其地位ヲ更改シ茲ニ始メテ使用貸借ノ契約ハ成立ス可キモノナルカ故若シ債權者此場合ニ於テハ債務者カ期限ニ至リ物件ノ貸渡ヲ爲サストセシカ債務者同上債權者ハ之カ引渡ヲ要求シ且損害ヲ賠償セシムルヲ得ヘキナリ

此ノ如ク使用貸借ハ要物ノ契約ナルヲ以テ物件ノ引渡ナキハ單ニ無名合意ヲ生スルニ止マルト雖モ又否ラサル場合ナキニ非ス即チ現實ノ引渡ナキモ尙ホ貸借契約タルヲ妨クサル場合アリ例ヘハ寄託者カ受託者ニ嘗テ附託セシ物ニ付其儘使用スルヲ許容シ且其使用ハ受託者ノ資格ヲ以テセスシテ借主ノ名義ヲ以テセシキノ如キ是ナリ」
 第二 使用貸借ハ不動産又ハ動産ヲ以テ目的物ト爲スヲ得ルヲ不動産ハ原物ノ儘隨意ニ使用スルヲ得ヘキニ因リ使用貸借ノ目的物ト爲スヲ得ヘキハ言ヲ竣ヌスト雖モ夫ノ消費貸借ニ在リテハ不動産

ハ消費物ニ非サルヲ以テ其目的物ト爲スヲ得サルナリ
 又動産ニ付テハ本法ハ之レカ制限ヲ設ケスシテ如何ナル動産タリモ使用貸借ノ目的物タルヲ得ヘシト爲セリ但其物件ヲ消費スルニ非サレハ使用スルヲ得サル物例ヘハ米、麥、酒、醬油ノ如キハ消費スルニ非サレハ効用ナク單ニ使用ノ爲メトシテハ貸與ス可カラサルモノナルヲ以テ貸借ノ目的物ト爲スコトハ稀ナル可シ何トナレハ借主之ヲ借受クルモ只タ自己ノ手許ニ握持スルニ止マリテ之ヲ使用スルコトヲ得サル可ケレハナリ然レモ法律ハ是等ニ毫モ制限ヲ付セサルヲ以テ尙ホ貸借ノ目的物タルヲ妨ケス故ニ例ヘハ爰ニ或ル營業ヲ開クニ當リ自家ノ製造品又ハ仕入品ノミニテハ十分整備セサルヲ以テ更ニ景氣ヲ添ヘンカ爲メ即チ其店舗ノ盛況ヲ粧ハンカ爲メ一時他店ヨリ商品ヲ借入レテ之ヲ店頭ニ并列シ所謂付景氣ヲ爲スカ如キハ即チ其借

用物ヲ使用スルモノニシテ敢テ之ヲ消費セサルモ其目的ヲ達シ得ヘキナリ然リ而シテ貸借契約ノ性質如何ハ專ラ當事者雙方ノ意思ニ依リテ之ヲ判別ス可シト雖モ若シ其意思ニシテ判明ナラサルキハ其物件ノ性質ハ貸借契約ノ性質ニ對應スルヲ以テ通常其物件ノ不代替物又ハ不消費物ニ屬スルトキハ之ヲ使用貸借ナリト推定ス可ク之ニ反シテ其物件ノ代替物又ハ消費物ニ屬スルキハ此貸借ハ消費貸借ナリト推定ス可キナリ

第三 借用物ノ返還ハ借受ケタル原物ヲ返還ス可キト消費貸借ニ在リテハ借主カ借用物ヲ返還スルニ同量同質ノ物件ヲ以テスレハ則チ其義務ヲ免カル可キモ使用貸借ニ在リテハ必ス其原物ヲ返還セサル可カラス是レ實ニ借主ハ物件ヲ使用スル權利ヨリ他ヲ有セザレハナリ若シ夫レ原物ヲ返還セスシテ尙ホ之ト同量同質ノ物件ヲ返還ス

ルヲ得ルコトセンカ然ルキハ使用貸借ニ非スシテ全然タル消費貸借ト爲ル可ケンハナリ

第四 借用物返還ノ期限ハ明示又ハ默示ヲ以テ定ムルコト借主カ其物件ヲ使用シ且之ヲ保存スルノ期限ハ必スシモ明約ヲ要スルニアラス尙ホ暗黙ニテモ定ムルコト得ヘシ即チ借主ハ其物件ニ付テノ需要ノ程度ヲ貸主ニ知了セシメ暗ニ其期限ヲ定メタルモノト看做サル、コトヲ得ヘキモノナリ例ヘハ馬車修繕ノ爲メニ車ヲ貸與シタル場合ノ如キ之レカ修繕ニ要スル期間ハ貸主ノ貸與シタルモノト看做ス可ク又或ル見世物興行ノ爲メニ國旗、球燈類ヲ貸與スルヤ其興行ニ要スル期限内ハ貸主之ヲ貸與シタルモノト看做ス可キナリ

第五 使用貸借ハ基本上無償ノモノナルコト此ヲ以テ借主カ其借用物ニ對シ相當ナル利益ヲ供與スルキハ無償契約ハ變シテ有償契約ト

爲リ其對價物トシテ金錢ヲ供與スルノ契約ヲ爲スルハ貸貸契約ト爲
 リ金錢外ノ物ヲ供與スルルキハ無名契約ト爲リテ使用貸借トシテハ其
 名ヲ存セサルナリ
 斯ノ如ク使用貸借ハ本來無償ノモノナリト雖モ贈與ノ如キ無償契約
 ニ要スル公式ノ手續ニ服従ス可キニ非サルヲ注意セサル可カラズ
 蓋シ使用貸借ニ於テ貸主ノ受クル不利ハ他ノ無償契約ノ如ク夥多ナ
 ルニ非ス且其不利モ有期間ナルヲ以テ尙ホ之ヲ公式ニ從ハシメシニ
 ハ徒ラニ時間ト費用トヲ要シ本貸借ヲ阻碍スルノミニシテ些子ノ有
 益ヲ見サルニ因ルナリ
 又贈與ノ契約ニ在リテハ能力ニ付テモ他ノ契約ヨリ一層ノ制限ヲ爲
 セシカ使用貸借ニ付テハ前ト同シク此能力ノ制限ヲ要スルヲナシ唯
 タ普通契約ニ於ケルカ如ク其義務ヲ負フノ能力アルルキハ則チ有効ニ

其契約ヲ取結フヲ得ヘキナリ

第六 使用貸借ハ借主其貸主ニ對シテ債權即チ人權ヲ取得スルヲ
 貸借ニ付テノ使用ナルモノハ彼ノ所有權ノ支分權ナル使用權物上權
 家屋ニ付テハ住居權ヲ取得スルニ非スシテ只タ物件ヲ使用スルノ債
 權即チ人權ヲ取得スルニ過キス何トナレハ使用貸借ノ貸主ハ借主ニ
 對シ何物ヲモ讓渡スヲナク只タ物件ヲ使用セシムルノミニシテ之レ
 カ所有權ハ全ク自己ノ掌握スル處ナレハナリ
 第七 使用貸借ハ貸主ノ死去ニ因テ終了セス相續人ハ其契約ノ期限
 ヲ遵守ス可キヲ凡ソ契約ヲ爲スヤ自己及ヒ其相續人ノ爲メニ之ヲ
 爲シタルモノト看做ス可キハ普通ノ原則ニシテ茲ニモ此原則ヲ適用
 シタルモノナリ財産編第三百二十八條參看
 第八 使用貸借ハ借主ノ死去ニ因テ當然終了シ相續人ハ貸主ニ反對

ノ意思アリシコトヲ證スルニ非サレハ期限ノ未滿ニ拘ハラス借用物ヲ返還ス可キト。借主ノ相續人ハ尙ホ自己ニ對シテモ貸主カ使用ノ利益ヲ供與スルノ意思アリシトテ證明スルニ非サレハ使用貸借ハ借主ノ死去ニ因リ當然終了スルモノニシテ其期限ノ相續人ニ繼續シ移轉セサルモノトス斯ク法律カ貸主ト借主トノ地位ヲ異ニスルヨリシテ其權利ニ廣狹ノ別ヲ爲セシハ元來使用貸借タル基本上無償ノ契約ニシテ且有期ノ性質ヲ包有シ貸主ハ主トシテ借主其人ヲ信用シ以テ合意ヲ爲スモノト看做シタルニ因ルナリ然レモ法律ハ絶對ニ然リト看做シタルニ非ス又之レカ反對ノ場合アルコトヲモ想像シタルニ因リ若シ貸主ニシテ借主ノ一身ニ基カス借主ノ一家ノ爲メ使用ノ利益ヲ得セシムルノ意思アリシキハ借主ノ相續人ヨリ之ヲ證明シ以テ契約期間ヲ持續スルコトヲ許容セリ故ニ例ヘハ家屋新築ノ爲メ或者ヨリ

一ノ家屋ヲ借受ケ新築ノ落成マテ住居スルノ契約ヲ爲シタル如キ是レ當事者ニ於テハ借主一身ノ爲メノミニ非スシテ一家族ノ爲メニ貸借契約ヲ爲シタルトノ明了ナルニ因リ借主ノ相續人ハ其旨ヲ證明シテ引續キ使用スルコトヲ得ヘキナリ

第九 借主ノ死去ニ因リ期限終了スルモ相續人ハ猶豫ノ期限ヲ受クルヲ得ルコト。即チ前項ニ於テ説述シタル如ク借主ノ死去ニ因リテ契約ハ當然消滅スルモノナリト雖モ場合ニ依リテハ相續人ハ其物件ノ代リニ借用物ト同様ノ物件ヲ他ヨリ借入ル、カ爲メ相當ノ時間ヲ要スルキハ裁判所ニ返還猶豫ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘク裁判所ハ事情ニ從ヒ之レカ請求ヲ認許スルコトアル可シ尤モ此場合ニ在テモ其相續人ハ直チニ借用物ノ返還ヲ爲スニ於テハ至大ノ損害ヲ受ク可キトテ辯明スルヲ要スルナリ

第二節 使用貸借ヨリ生シ又ハ其貸借ニ際

シテ生スル義務

〔總説〕

〔三二〕 元來使用貸借ハ片務契約ナルヲ以テ貸主ニ本然ノ義務アルヲナシ其之レアルカ如キハ權利ノ欠缺ニシテ決シテ純粹ノ義務ニ非サルナリ其偶々之アリトスルモ是レ或ハ不當ノ利得ニ因リ或ハ不正ノ損害ニ因リ生スルモノニシテ一トシテ對當ノ義務ニ非ス即チ其義務ハ直接ニ貸借ヲ生スルモノニ非ス貸借ハ之カ機會ト爲リテ生スルモノナレハナリ此ヲ以テ本法ハ佛國法ニ倣ハスシテ貸借義務ニ關スル規定ヲ一節ト爲シ貸借ヨリ生スル義務ヲ以テ借主ノ負擔ニ係ル義務ト爲シ貸借ニ際シテ生スル義務ヲ貸主ノ負擔ニ係ル義務ト爲セリ夫レ本法カ佛國法ノ如ク貸借義務ニ關スル規定ヲ二節ト爲シ其一節

ヲ以テ借主ノ義務ニ供シ他ノ一節ヲ以テ貸主ノ義務ニ供シ其契約ヲシテ雙務契約ナルモノ、如ク思議セシムルノ失當ヲ學ハサリシハ實ニ本貸借ノ正鵠ヲ得タルモノト謂フ可キナリ

第九十七條 借主ハ借用物ノ性質又ハ合意ニ因リ

テ定マリタル用方ニ從ヒ且貸借期間ニ非サレハ其物ヲ使用スルコトヲ得ス

借主ハ此他ノ使用又ハ期限後ノ使用ニ因リテ生スル借用物ノ滅失又ハ毀損ニ付テハ勿論又其使用ニ際シ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ生スル滅失又ハ毀損ニ付テモ其責ニ任ス

〔義解〕〔三三〕 本條ハ借用物ヲ使用スルニ付テノ制限及ヒ其責任ヲ規定シタルモノナリ

當事者雙方ニ於テ合意ヲ以テ物件ノ用方并ニ使用ノ期間ヲ約定シタルキハ其合意ニ從フ可ク若シ其約定ナキハ物件ノ性質ニ因テ之カ用方并ニ使用ノ期間ヲ定メサル可カラズ故ニ例ヘハ三日間ニ横濱ヘ往復ヲ爲スノ用途アルカ爲メ或者ヨリ乘馬一頭ヲ借受ケタルキノ如キ此場合ニ在テハ其期間ニ一回ノ往復ヲ爲スヤ必ス之ヲ返還ス可キモノニシテ借主ハ最早其馬ニ乘スルヲ得サルハ勿論之ヲ馬車用ニ供シ若クハ耕作用ニ供スルヲ得ス否ヲサレハ借用物ノ用方ニ反シ且期間後ニ之ヲ使用スルニ該當スレハナリ

要スルニ本條第一項ハ凡ソ合意ハ善意ヲ以テ履行ス可ク且ツ當事者雙方ノ意思ニ從ヒテ解釋ス可シト云ヘル普通法ノ適用ニ過キサルトナリ財產編第三百三十條

本條第二項モ亦タ自己ノ過失ニ付テハ自カラ其損害ノ責ニ任ス可シ

財產編第三百七十條參看ト云ヘル普通原則ノ適用ニ過キサルトナリ故ニ本項ニ明示セル如ク借主ハ此他ノ使用即チ用方外ノ使用ヲ爲シ又ハ期限後ノ使用ヲ爲シタルカ爲メニ借用物ヲ滅失シ毀損シタルキハ之レカ損害ノ責ニ任ス可キハ勿論其物件ノ滅失毀損カ意外ノ事又ハ不可抗カニ因レル場合ト雖モ借主カ用方外ノ使用ヲ爲シタルカ爲メ其機會ヲ與ヘタル場合ニ於テハ亦タ其責ニ任セサル可カラズ例ヘハ前例ノ如ク横濱迄乘馬ニテ往復ヲ爲スノ約定ヲ爲シ而シテ鎌倉地方ニ迂回シ爲メニ其馬ヲ斃死セシメタル場合ノ如キ是レ約束ニ違ヒテ使用ヲ爲シ以テ其滅失ノ機會ヲ與ヘシハ借主ノ過失ニ基ツクヲ以テナリ而シテ此場合ニ在テハ借主ハ爲サ、ルノ義務ヲ有スルニ拘ハラス其義務ニ背反シタルモノナレハ法律上當然付遲滯ニ在ルモノトス然ラハ則チ貸主ヨリ別ニ催告ヲ爲サ、ルモ法律ハ借主ノ所爲其モノヲ以テ

付遲滞ト爲シ總テ損害ノ責ニ任セシムルナリ但借主カ借用物ヲ用方外ニ使用シタルカ爲メ法律上當然付遲滞ニ在リト云フモ之ヲ以テ彼ノ借主カ期限ノ到來後未ダ催告ヲ受ケサル場合ニ適用シテ法律上ノ遲滞アリト云フヲ得ス何トナレハ右ハ唯ダ期限ノ經過セシノミナルカ故斯ルモハ普通法ニ從ヒ貸主ヨリノ催告ヲ俟テ初メテ遲滞ニ付ス可キモノナレハナリ

然リ而シテ借主カ用方外ノ使用ヲ爲スト否トヲ問ハス又貸主カ之ヲ管理スルト否トヲ問ハス等シク其變災ヲ免カル可カラサル場合ナシトセス此場合ニ在テハ借主カ滅失ノ責ニ任セス貸主ニ於テ其損害ノ責ヲ負フ可キコト勿論ナリトス蓋シ法律ニ明文ナシト雖モ是レ固ヨリ明瞭ノコナルヲ以テ之ヲ法理ニ讓リタルナリ加之ナラス本條ニ「使用ニ際シ」トアリテ貸借カ滅失ノ機會ト爲リタル場合ヲ想像シタル

ノ精神ヨリ推及スルモ其物件カ孰レノ手許ニ在ルモ滅失ス可キモハ借主ニ損害ノ責ヲ負ハシメサルノ意ハ十分知了スルヲ得ヘキナリ尙ホ注意ス可キノ一事アリ本法ニ於テハ借主カ借用物ヲ管理シ及ヒ之ヲ保存スルニハ良家父ノ注意ヲ以テス可キコトヲ規定セサルノ點是ナリ蓋シ此ノ如キハ敢テ之レカ規定ヲ俟テ明ラカナルニ非ス已ニ特定物ニ付テハ義務者必ス右ノ注意ヲ爲サル可カラサルノ義務アルヲ以テ今マ復々之ヲ掲クルノ必要ナク且次條ノ規定ヨリ之ヲ思考スルモ借主カ良家父ノ注意ヲ爲ス可キハ容易ニ察知シ得ヘケレハナリ

第百九十八條 借主ハ自己ノ物ヲ用非テ借用物ノ滅失又ハ毀損ヲ免カレシムルコトヲ得ヘキトキ又ハ自己ノ物ト借用物トカ同時ニ危險ヲ受クルニ際シ

自己ノ物ノミヲ救護シタルトキモ亦意外ノ事又ハ
不可抗力ニ因リテ生スル借用物ノ滅失又ハ毀損ノ
責ニ任ス

〔義解〕(三四) 本條モ亦タ借主カ借用物ニ對スル責任ノ範圍ヲ規定シ
タルモノナリ

使用貸借ニ於ケル借主ハ元來貸主ノ恩義ヲ受クルモノニシテ借主カ
其物件ヲ使用スルヲ得ルハ至ク貸主ノ厚意ニ出ツルモノナルヲ以テ
借主ハ其借用物ヲ管理スルニ付キ十分ノ注意ヲ加ヘサル可カラサル
ハ實ニ事理明白ナルヲナリトス是ヲ以テ法律ハ借主ニ命スルニ借用
物ヲ鄭重ニ取扱フ可キノ注意ヲ以テシ而シテ本條ハ借用物ノ危険ニ
罹リタル二箇ノ場合ヲ想起シ以テ其責任ノ歸スル所ヲ明ラカニシタ
ルナリ

第一 借主カ自己ノ物件ヲ使用シテ借用物ノ危険ヲ防止シ得ヘキニ
之ヲ爲サ、リシ場合 抑、借主タル者自己ノ物件ヲ以テ其用ヲ辨シ得
ヘキトハ成ル可ク借用物ヲ使用ス可カラサル筈ナルニ自己ノ物ヲ關
キテ借用物ヲ使用シ爲メニ滅失又ハ毀損セシメタルトハ其滅失毀損
カ假令意外ノ事實又ハ不可抗力ニ係ル場合ト雖モ借主必ス其損害ノ
責ニ任セサル可カラス否ラサレハ借主ハ恰モ人ヲ害シテ己レヲ富マ
スニ該當セシ何トナレハ若シ自己ノ物ヲ用ヒタルトハ其損害ハ當然
自己ノ負擔ニ歸ス可キノ猶智以テ他ノ借用物ヲ用ヒタルカ爲メ自己
ノ物ハ恙ナク存在スルヲ得タルモノニシテ恰モ他人ノ費用ニ資リ以
テ自己ノ物ヲ救護シタルト異ナラサレハナリ故ニ之ニ反シテ若シ自
己ノ物ヲ用井テハ到底其用ヲ辨シ得ヘカラサル場合ニ在リテハ固ヨ
リ其論決ヲ異ニセサルヲ得サルナリ

第二 借用物ト自己ノ物ト同時ニ危険ヲ受ケタルキ自己ノ物ノミヲ救護シタル場合 借用物ト自己ノ物ト同時ニ使用シタルト又之ヲ使用セサルモ均シク家屋内ニ在リシトテ問ハス共ニ危険ニ罹リ而シテ借主ハ孰レノ物ヲモ救護シ得ヘカリシニ自己ノ物ヲ取出シテ借用物ヲ毀損又ハ滅盡セシメタルカ如キ或ハ借主ハ二物中ノ一ヲ選擇シテ救護シ得ヘキキ自己ノ物ヲ選擇シテ借用物ヲ救護セサリシカ如キ之ヲ例スルニ借受ケタル耕牛ト自己ノ耕牛トテ牽ヒテ耕耘ヲ爲セシニ二牛共ニ誤テ池沼ニ陥リタルキ自己ノ耕牛ノミヲ救護シテ他ヲ顧ミサリシカ如キ若クハ二牛共ニ牛小屋ニ在リシニ隣家遇火ヲ失シテ延焼スルヤ借主ハ自己ノ耕牛ヲ選擇シテ借受ケタル耕牛ヲ救護セサリシカ如キ其耕牛ノ斃死ハ不可抗力ニ出テタルモノトシテ損害ノ責ヲ免カル、コトヲ得ス何トナレハ貸借ハ前述ノ如ク貸主ノ厚意ニ基

ツク恩惠的ノ所爲ニシテ借主ハ自己ノ物ヲ喪失スルモ特ニ借用物ニ付テハ十分ニ之ヲ保持スルノ義務アルモノナレハナリ然レモ右ノ場合ニ於テ借主カ之ヲ救護スルニ當リ選擇ノ猶豫ナキ場合ニ於テハ之ヲ同一ニ論スルコトヲ得ス例ヘハ火ノ延テ將ニ至ラントスルニ際シ自己ノ物ト借用物トヲ甄別スルノ違ナク倉皇急劇只々其一ヲ救護シタルキノ如シ此場合ニ在テハ事全ク不可抗力ニ屬シ且借主ニ選擇ノ自由ナキヲ以テ毫モ過失アリト云フ可カラス故ニ借主ニ損害ノ責ヲ負ハシムルコトヲ得スシテ普通ノ原則ヲ適用シ貸主ニ於テ其危険ノ結果ヲ受ケサル可カラサルナリ

《三五》然リ而シテ借主自己ノ物件カ其價額、借用物ヨリモ高貴ナルキハ之カ救護方法ハ如何ス可キヤ即チ借主ハ價額ノ高貴ナル物ヲ救護シ其價額ノ低廉ナル物ハ假令借用物ニ係ルキト雖モ之ヲ救護セスシ

ヲ損害ノ責ヲ免カル、コトヲ得ヘキヤ否ヤ

此場合ノ如キ或ハ彼ノ善良ノ管理者(良家父)ハ廉價ナル物ヨリモ必ス高價ナル物ヲ保管スルニ注意ス可キヲ以テ其高價物カ假令借主自己ノ物ニ係ルモ之ヲ救護シタルハ好管理ノ處置ニシテ借主ニ過失ノ歸ス可キナキニ因リ廉價ナル借用物ヲ滅失セシムルモ之カ損害ノ責ニ任セシム可ラスト主張スル論者アリ佛國ニ於テハ多數ノ學者之ニ同意シ危險ノ同時ニ遭遇セルヤ其借用物ヲ救護ス可キハ借用物カ借主ノ物ヨリモ高價ナルカ若クハ其價額ノ同一ナル場合ニ付テ觀察ヲ爲シタルモノナリト云フモ是レ決シテ肯綮ノ說ニ非ス何トナレハ其物件ノ高貴ナルト低廉ナルトハ之ヲ問フヲ要セス只タ借用物ニ付テハ實ニ恩惠行爲ニ對スル義務アルコトヲ追想スルヤ決シテ此ノ如キノ言ヲ爲ス可カラサレハナリ勿論實際ニ於テハ借主ハ自己ノ物件ノ高價

ナルヤ概テ之ヲ救護ス可キモ貸主ニ對シテハ必ス滅失シタル借用物ノ價額ヲ辨償セサル可カラサルナリ
又借主カ物件借受ノ際其價額ヲ評定シタルキハ如何ナル場合ト雖モ借主ハ必ス滅失ノ責ニ任ス可キモノナルヤト云フニ或ハ「評價ハ賣買ニ等シ」トノ原則ニ依リ使用貸借ノ場合ニ於テモ尙ホ此原則ヲ適用シ借用物カ假令意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ滅失スルモ之カ責ニ任ス可キモノ、如シト雖モ元來評價ハ賣買ニ等シト云ヘルハ其物件ヲ消費スルノ場合ニ係ル原則ニシテ本貸借ノ如ク性質上使用スルニ在ルトキハ之ヲ同一視スル能ハス故ニ當事者ニ於テ借用物ノ評定ヲ爲スモ這ハ是レ物件ノ滅失ニ際シ其價額ヲ評定スルノ困難ト煩雜トヲ避クルカ爲メ豫メ合意ヲ以テ指定シタルニ過キサルコトヲ思料セサル可カラズ即チ價額ノ評定ハ使用貸借上特別ノ効果ヲ生スルモノニ非

ヲサルヲ了得ス可キナリ反言スレハ借主ニ過失ナキ以上ハ普通法ヲ適用ス可ク借主ハ物件滅失ノ責ヲ負ハサルモノトス終リニ臨ミテ注意ス可キハ以上ニ説述シタル場合ノ如キ總テ借主ノ過失又ハ怠慢ニ基キ借用物ヲ毀滅シタルニ因リ生スル責任ナルカ故若シ其毀滅カ毫モ借主ノ過失ニ原因セス當然ノ使用ノ然ラシムルモノナルキハ借主ハ之カ損害ノ責ニ任セスシテ可ナルハ固ヨリ明文ヲ要セサル所ニシテ普通法ノ原則ニ從ヒ物件ノ所有者ハ其毀滅ノ結果ヲ受ケ損害ノ責ニ當ラサル可カラサルナリ

第百九十九條 借主ハ借用物保持ノ通常費用ヲ負擔

シ貸主ニ對シテ其償還ヲ求ムルコトヲ得ス

〔義解〕(三六) 本條ハ物件保持ノ費用ハ何人カ負擔ス可キヤヲ指定シタルモノナリ

夫レ借主カ借用物ヲ使用スルニ付キ要スル所ノ通常費用ハ借主之ヲ負擔シ貸主ニ對シテハ何等ノ債權ヲモ生セサルモノトス蓋シ物件ヲ使用スルノ利益ヲ有スル者ハ必ス其使用ノ爲メニ要スル費額ヲ負擔ス可キハ實ニ當然ノコトニシテ殆ント之カ規定ヲ要セサルナリ若シ夫レ使用者ニシテ利益ヲ得ストセンカ是レ其物ノ然ラシムルニ非ス使用者ノ伎倆ノ拙劣ナルカ否ラサレハ怠慢ヨリ來レルモノナルヲ以テ自己ノ拙技怠慢ハ自カラ之レカ損失ヲ受ク可キハ普通ノ道理ナルニ因リ使用者カ使用ノ爲ニ利益ヲ得タルト否トヲ問ハス凡ソ使用ニ付テノ費額ハ使用者即チ借主ニ於テ之ヲ擔當セサル可カラサルナリ故ニ例ヘハ畑地ヲ借受クルヤ之ニ適當ナル肥料ヲ施ス可ク又農具ニ付テハ農作ニ要スル修復ヲ加フ可ク又或ハ耕耘ノ爲メ牛馬ヲ借用シタルキハ之ニ適當ナル秣ヲ與ヘテ飼養スル等ノ事ヲ爲サ、ル可カラ

サルナリ

而シテ本條ニハ「保持ノ通常費用」トアルカ故非常ノ費用ニ付テハ之ヲ格別ノモノトシ法律ハ借主ニ之ヲ負擔セシメスシテ貸主ノ擔當ス可キモノト爲セリ其事ハ下ノ第二百四條ニ至リ之ヲ觀察セシ

第二百條 借主ハ合意セシ時期ニ於テ借用物ヲ返還

スルコトヲ要ス其時期前ト雖モ許サレタル使用ヲ終リシトキハ亦同シ但第二百三條第二項ノ規定ヲ妨ケス

返還ノ時期ヲ定メス且物ノ使用カ繼續ス可キモノナルトキハ裁判所ハ貸主ノ請求ニ因リテ返還ノ爲メ相應ナル時期ヲ定ム

〔義解〕(三七) 本條ハ借用物ノ返還ハ何レノ時期ニ於テス可キヤヲ規

定シタルモノナリ

夫レ合意ヲ以テ返還ノ時期ヲ定メタルモ無論其時期ニ從ハサル可カラス又假令明瞭ニ之ヲ定メサルモ暗ニ其時期ヲ定メタリト思料シ得ヘキモ即チ物件使用ノ方法ニシテ明ラカナルモ其使用方ニ付テ返還ノ時期ヲ定ム可キナリ例ヘハ横濱マテ往復ヲ爲サシカ爲メニ乗馬ヲ貸與シタルカ如キ或ハ家屋新築ニ際シ一時ノ住居ニ供スルカ爲メ一家屋ヲ貸與シタルトキノ如シ是レ一ハ其旅行ノ爲メニ貸與シタルモノナレハ旅行ノ終了ヲ以テ返還ノ時期ト爲シ又一ハ新築落成ノトキヲ以テ返還ノ時期ト爲スコトヲ得ヘキナリ然ルニ其使用タル一時ニ非ス繼續シテ使用ス可キモノタルモ例ヘハ礦山開掘ノ爲メニ工業器具ヲ借入レ又ハ自己及ヒ家族ノ住居ノ爲メニ家屋ヲ借受ケタルカ如キ場合ニ於テ返還ノ時期ヲ定メサリシトキハ如何ス可キヤ本條

第二項ニ依レハ、裁判所ハ貸主ノ請求ニ因リテ返還ノ爲メ相應ナル時期ヲ定ムルコトト爲セシカ故借主ニシテ尙ホ借用物ノ入用ナルヲ申立テ貸主ノ請求ヲ肯セサルニ於テハ貸主ハ裁判所ニ返還時期ノ指定ヲ請求スルコトヲ得ヘク裁判所ハ當事者雙方ノ意思ヲ考慮シ且事情ヲ深察シテ相應ナル猶豫期限ヲ定ム可キナリ夫レ此ノ如ク借主ハ其期限ニ從ヒ借用物ノ返還ヲ爲ス可キモノニシテ貸主ハ濫リニ期限前ニ返還ノ要求ヲ爲スト得スト雖モ然レモ法律ハ或ル場合ニ限り假令定期前ナルモ貸主ニ物件返還ノ要求ヲ爲ストヲ認許セリ今マ其場合ヲ舉示セン

第一 借主カ合意ノ期限前ニ使用ヲ終了シタルモ此場合ニ於テハ貸主ハ使用ノ期限内ナルモ直チニ其返還ヲ要求スルコトヲ得ヘク借主ハ必ス之ニ應セサル可カラズ例ヘハ住居移轉ノ爲メニ三日間荷馬車ヲ借受ケタルニ二日ヲ以テ荷物ノ運搬ヲ終了シタルモ如キ貸主ハ三日ヲ俟タスシテ其返還ヲ求メ得ヘシ蓋シ借主ニ於テ其目的タル使用ヲ終了シタルトキハ最早其物ヲ保持スルニ付キ正當ナル原因ノ存セザレハナリ

第二 貸主カ貸與物ニ付キ急迫ニシテ且豫期セサル要用ヲ生シタルモ此場合ニ於テモ亦タ貸主ハ期限ノ如何ニ關セス其返還ヲ求メ得ヘシ何トナレハ屢々説述シタル如ク使用貸借ハ純然タル恩惠契約ニシテ貸主ハ借主ヨリ何等ノ利益ヲ受クルモノニ非ザレハ其意思タルヤ如何ナル場合ノ生スルモ之ヲ貸與セントスルニ在ラス即チ自己ニ不時ノ要用ヲ生シタルモ借主ノ使用ヲ中止セントスルニ在ルコトハ十分察知シ得ヘク又借主ニ於テモ固ヨリ貸主ノ損害ヲ顧ミスシテ使用スルノ意ナキヤ明瞭ナレハナリ此ヲ以テ一朝其貸與物ニ急迫ナル要

用ヲ生シ且其要用ノ生シタルハ全ク豫期シ得サリシトニシテ到底返還ノ期限ヲ俟チ又ハ他ノ物件ヲ以テ之ヲ代用スル能ハサルトキハ其期限ノ到來前ト雖モ貸主ハ之レカ返還ヲ請求スルコトヲ得ヘキナリ

第二百三條

第三 借主ノ死去シタルキ 使用貸借ハ恩惠契約ナルヲ以テ借主其人ヲ目當トシテ貸與スルヲ常トス故ニ借主ニシテ死去シタルキハ期限前ト雖モ使用期限ノ終了スルモノニシテ相續人ハ直チニ之ヲ返還セサル可カラス尤モ當事者ノ意思タル借主其人ヲ目當ト爲セシニ非ス借主全家ノ爲ニ契約シタルモノナルキハ格別ニシテ相續人ハ之カ證明ヲ爲シ引續テ使用スルコトヲ得ヘク又遽カニ返還スルノ困難ナルトキハ裁判所ニ向テ他ヨリ同種ノ物ヲ借受クルマテ返還ノ猶豫ヲ

請求スルコトヲ得ヘキナリ 第九十六條 第二項

第四 貸主其貸與物ノ他人ニ屬スルモノナルトヲ發見シタルキ 貸主カ曾テ貸與シタル物件ハ自己ノ有ニ非サリシコトヲ覺知スルヤ其期限ノ到來前ト雖モ之レカ返還ヲ要求スルコトヲ得ヘキナリ蓋シ他人ニ屬スル物件ニテモ豫テ其所有者ノ許諾アリシキハ格別ナレモ其許諾ナキ場合ニ在リテハ貸主ノ善意ナルト否トニ論ナク其貸借ハ有効ニ成立スルコトヲ得サルモノトス何トナレハ凡ソ人ハ自己ノ有セサル權利ヲ他人ニ移ス能ハサレハナリ

然リ而シテ借主ニ於テ貸主ヨリ物件返還ノ要求アルヤ何時タリモ直チニ返還ス可シトノ契約ヲ爲シタル場合ニ在テハ貸主ハ其契約面ニ從ヒ自己ノ欲スル時期ニ於テ之レカ返還ヲ要求スルコトヲ得ヘシ之レ固ヨリ合意アル以上ハ貸主ハ隨意要求ノ權能ヲ有ス可キニ因ルナリ然レモ此權能ナルモノハ借主ニ如何ナル損害ヲ蒙ラシムルモノニ貸

主ノ隨意ナルモノト誤了ス可カラス必スヤ借主ノ事情ヲモ考察ス可
キキノトス故ニ此場合ニ於テ争訟アルヤ裁判官ハ十分事實ノ情況ヲ
審明シテ借主ニ相當ノ猶豫期限ヲ許與スルコトヲ得ヘキナリ
斯ノ如ク裁判官ノ事情ヲ審明シテ借主ニ相當ノ猶豫期限ヲ許與ス可
キハ獨リ右ノ場合ニ止マラス合意ノ期限到來シテ返還ス可キ義務ノ
生シタルモト雖モ尙ホ之ヲ適用スルノ場合アルコトヲ知得ス可シ即チ
約定ノ期限到來スルヤ直チニ之ヲ返還セハ借主ニハ大害ヲ生シ而シ
テ之ヲ猶豫スルモ貸主ニハ何等ノ損害ヲ生セサル場合ノ如キトキニ
在テハ裁判所ハ事情ヲ審明シテ亦々幾分ノ猶豫ヲ與フルコトヲ得ヘ
キナリ

第二百一條 借主カ借用物ノ第三者ニ屬スルコトヲ
了知スルトキト雖モ貸主又ハ其代人ニ之ヲ返還ス

ルコトヲ要ス但第三者カ其返還ニ付キ合式ニ故障
ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

此末ノ場合ノ外返還ハ貸主又ハ其代人ノ住所ニ於
テ之ヲ爲ス

〔義解〕(三八)本條ハ借用物ノ返還ハ何人ニ爲シ又何レノ場所ニ於テ
爲ス可キヤヲ規定シタルモノナリ

夫レ借主ハ其借用物カ第三^〇者ニ屬スルコトヲ知了スルモ此等ノ事ニ
介意セスシテ一ニ貸主又ハ其代人ニ返還セサル可カラス否ラザレハ
貸借契約ヨリ生スル返還義務ヲ履行シタルモノト云フヲ得サルナリ
殊ニ貸主ノ厚意ヲ以テ借受ケタルモノナレハ必ス其恩アル人ニ返還
ス可キハ正ニ情誼ノ然ラシムル所ナレハ假令其物件ノ赃物ナリシコ
トヲ知了スルモ尙ホ且貸主ニ返還セサル可カラサルナリ蓋シ寄託ニ

在テハ寄託者ニ返還セサルヲ得ヘキモ貸借ニ在テハ此權能ヲ貯存スルモノニ非ス是レ實ニ貸借ト寄託トハ其地位ニ黑白ノ差アル所以ニシテ貸借ニ於テハ借主獨リ無償ノ利益ヲ得ルモ寄託ニ於テ無償ノ利益ヲ得ル者ハ受託者ニ非ス反テ寄託者ニ在レハナリ加之ナラス貸借ニ付テ此權能ヲ許容スルトキハ恣マ、ニ之ヲ濫用シ賍物タルニ些子ノ疑アルヤ之ヲ口實トシテ故ラニ返還ヲ延引スルカ如キコトアル可ク之ニ反シテ寄託ニ付テハ受託者ハ物件保存ノ義務アルノミナレハ其理由ノ存セスシテ受託ノ繼續ヲ欲スルカ如キコトアル可カラサレハナリ

然ルニ本條第一項ノ末文ニ記載セル如ク第三者即チ物件ノ所有者ナリト主張スル者ヨリ又ハ貸主ノ債權者ヨリ制規ノ法式ニ從ヒテ故障ヲ申立テタルモハ借主ハ其借用物カ貸主ノ所有物タルト否トヲ問ハ

ス最早貸主ノ要求ニ應シテ返還スルコトヲ得サルナリ

然リ而シテ貸主又ハ其相續人カ若シ無能力者ナルトキハ借主ハ適法ノ代人即チ後見人等ニ對シテ返還ヲ爲ス可キモノトス何トナレハ無能力者ハ物件(元本)ヲ受取ルノ能力ヲ有セサレハナリ故ニ無能力者ニ返還スルモ之ヲ以テ有効ニ返還シタリト云フヲ得サルナリ

又貸主カ無能力者ニ非サルモ一時旅行等ノ爲メ別ニ代人ヲ設定シタルトキハ借主ハ固ヨリ該代人ニ借用物ヲ返還セサル可カラス若シ之ニ違ヒテ貸主ノ家族若クハ其僕婢ニ返還スルモ此等ノ者ハ物件受領ノ權限ヲ有セサルヲ以テ亦タ正當ノ返還ナリト云フヲ得サルナリ

〔三九〕借用物ノ返還ハ何レノ場所ニ於テ爲ス可キヤト云フニ凡ソ普通ノ場合ニ於テハ契約ヲ以テ指定シタルトキハ無論其場所ニ於テシ若シ其指定ナキモハ債務者ノ住所ヲ以テ辨濟ノ場所ト爲スヲ法則ト

ス然ルニ借用物ノ返還ニ付テハ之ニ反シテ法律ハ債權者タル貸主ノ住所ニ於テ返還ス可シト爲セリ蓋シ貸借契約ナルモノハ貸主ノ厚意ヨリ出ツル恩惠的ノ契約ナルカ故貸主ノ爲メニ其住所ニ於テ返還ヲ爲スハ實ニ借主タル者ノ須ラク爲ス可キ報償ニシテ一ニ情誼ノ然ラシムル所タルノミナラス亦タ公平ノ旨趣ニ適スルモノナレハナリ此ヲ以テ若シ貸主ノ無能力者ナルキ若クハ貸主ノ行商又ハ旅行等ノ爲メニ代人ヲ置キタルキハ借主ハ其代人ノ住所ニ於テ借用物ノ返還ヲ爲ス可キモノトス

第二百二條 數人連合シテ同時又ハ交互ニ用ユル爲メ一箇ノ物ヲ借用シタルトキハ各自連帶ニテ上ノ義務ヲ負擔ス

〔義解〕(四〇) 本條ハ數人共同シテ一箇ノ物ヲ借用シタル場合ヲ規定

シタルモノニシテ借主數人アル場合ナレハ貸主カ權利ヲ行フニ當リ其借主總員ニ對ス可キヤ將タ其中ノ一人ニ對ス可キヤヲ明カニシタルモノナリ

借主ノ數人アル場合ニ於テハ貸主ハ其借主カ同時ニ使用スル部分ノ幾何ナルヤ又交互ニ使用スル各自ノ時間ノ幾何ナルヤ之ヲ確知スル能ハス而シテ數多ノ借主中或ハ使用ノ過度ナルモアル可ク或ハ十分ノ注意ヲ爲サ、ルモアル可ク爲メニ物件ヲ毀損滅失セシメタル場合ニ接シテヤ貸主カ其過失アル借主ヲ穿鑿スルノ煩雜ナルノミナラス其シ之ヲ探知シ得ルモ或ハ其損害ヲ賠償セシムルノ目的ヲ達セサルヤモ未タ保ス可カラス又物件返還ヲ要求スルニ際シテモ借主ノ數多ナル其物件ハ果シテ何人ノ手ニ存在スルヤ明瞭ナラサルコトモアル可シ此ヲ以テ其借主中何人ニ對シテモ損害賠償ヲ要求シ又其貸付物

ノ返還ヲ要求スルコトヲ得ヘシト爲サハ貸主ノ爲メ便且益アルヤ最モ
大ナリトス是レ數人ノ借主ニ連帶ノ義務ヲ負ハシメタル所以ナリ然
リ而シテ連帶義務ナルモノハ商事上ニ在リテハ之ヲ推測スルヲ許ス
モ民事上ニ在リテハ決シテ推測スルヲ許サス故ニ普通ノ場合ニ於テ
ハ合意シテ之ヲ負擔セシム可キモ獨リ使用貸借ノ場合ハ之ニ異ナル
ニ因リ本條ヲ以テ當事者ノ合意ナキモ法律上連帶ニテ義務ヲ負擔ス
可キモノト爲セリ是レ數人ノ借主間ニハ共同的ノ利益ヲ有スルカ故
貸主ヲ保護スルカ爲メ借主中何人ニ對シテモ其權利ヲ行フコトヲ得ヘ
キノ効力ヲ許與シタルモノナリ

連帶義務ニ關スル詳細ノ規定ハ債權擔保編第二章ニ在リ讀者宜シク
民法正義ノ同編ニ付テ參觀ス可キナリ

第二百三條 貸主ハ明示又ハ默示ニテ借主ニ許シタ

ル期限前ニ貸付物ノ返還ヲ要求スルコトヲ得ス
然レトモ其物ニ付キ急迫ニシテ且豫期セサル要用
ノ生シタルトキハ貸主ハ裁判所ニ請求シテ期限前
ニ一時又ハ永久ノ返還ヲ爲サシムルコトヲ得

〔義解〕(四一) 本條ハ第二百條ト恰モ表裏ヲ相爲スモノニシテ第二百
條ハ借主ヲ主トシ本條ハ貸主ヲ主トシテ之レカ規定ヲ爲シタルナリ
本條第一項ニ云ク「貸主ハ明示又ハ默示ニテ借主ニ許シタル期限前ニ
貸付物ノ返還ヲ要求スルコトヲ得ス」ト是レ即チ曾テ述ヘタル如ク貸
主ノ本然ノ義務ニ非ス所謂貸借ノ期限マテハ返還ヲ要求スル權利ノ
欠缺セルモノナリ即チ貸主カ期限前ニ物件返還ヲ要求スルコトヲ得サ
ルハ義務アルニ非スシテ其權利ナキカ爲メナリ
難者或ハ云ハン借主ハ第九十六條ニ因テ人權ヲ取得セルニ非スヤ

故ニ借主ハ期限前ニ返還ノ請求ヲ受クルモ之ヲ拒却ス可ク若シ貸主ニシテ貸付物ヲ返還セシメタラシニハ借主ハ更ラニ代物ノ貸付ヲ要求シ且損害ノ賠償ヲ要求スルコトヲ得ヘキニ因リ貸主ニ義務ナシト云フヲ得スト是レ其眞諦ヲ得タルノ説ニ非サルナリ蓋シ貸主ハ借主ノ利益ノ爲メニ物件ヲ供與シ之ニ使用ノ權利ヲ得セシメタルモノナレハ其期限間ハ借主ノ使用ニ任シテ之ヲ返還セシム可カラサルハ貸主カ正ニ他人ノ權利ヲ尊重ス可キ當然ノ本分ニシテ決シテ爲サ、ル可カラサル義務ニハ非ス而シテ其借主ヨリ要求ヲ受クルニ至ルモノハ畢竟貸主ノ本分ニ背キタルカ故ニシテ決シテ其義務アルカ爲メニ非ス即チ貸借契約ノ當初ヨリ存セサル所ノ新事實ナル不正行爲ニ基ツキシ所ノ制裁ニシテ全ク別異ノ事爲ニ屬スルモノナリ然リ而シテ本條第二項ハ右ノ例外ヲ規定シ即チ貸主ノ爲メ急迫ニシ

テ且豫期セサル要用ノ生シタルモハ期限前ナルモ貸主ハ裁判所ニ請求シテ其理由ヲ申立テ以テ返還ノ要求ヲ爲スコトヲ得ヘシトセリ是レ蓋シ借主ハ貸主ノ恩惠ニ依リ使用ヲ爲スモノナルニ因リ法律ハ成ル可ク貸主ノ利益ヲ計リ貸主ニシテ其物件ニ付キ急迫且豫期セサル要用ノ生シタル場合ニハ假令借主ハ使用ヲ果サ、ルモ貸主ニ返還ス可キ義務アルモノト思料シタルニ因ルナリ然レモ例外ハ極メテ嚴格ニ之ヲ適用セサル可カラサルカ故貸主カ期限内ニ物件ノ返還ヲ要求スルニ付テハ左ノ條件ヲ具備セサル可カラサルナリ

- 第一 要用ノ生シタルハ貸借契約ノ後ニ在ルコト
- 第二 契約ノ際其要用ヲ豫期セサルコト
- 第三 要用ノ急迫ナルコト

第二百四條 貸主ハ借主カ借用物保存ノ爲メ支出シタル必要且急迫ナル費用ヲ之ニ辨償スル責ニ任ス又貸主ハ貸付物ノ瑕疵ノ爲メニ借主ノ受ケタル損害ニ付テハ第八十二條第一項ノ規定ヲ適用ス

〔義解〕(四二) 本條ハ貸主ノ義務ヲ規定シタルモノナリ

元來使用貸借ハ片務契約ナルヲ以テ契約ノ當初ヨリ貸主ニ本然ノ義務ナルモノアルニ非ス故ニ本條記載ノ義務ノ如キモ亦タ貸借契約ヨリ生スル義務ニ非スシテ不當ノ利得及ヒ不正ノ損害ナル全ク別異ノ理由ニ因リテ生スル義務ナリ然ルニ學說上使用貸借ヲ以テ不完全ノ雙務契約ナリト唱フルハ蓋シ契約組成ノ時ニ當リ貸主ニ何等ノ義務ナキモ契約後借主カ物件ノ保存ニ必要ナル費用ヲ爲シ又ハ貸付物ニ瑕疵アリテ借主ニ損害ヲ生セ

シメタルキハ貸主ニ之レカ償還ノ義務ヲ負ハシメ其義務ノ假令本契約ニ因テ生シタルニ非サルモ兎ニ角貸主ニモ義務ヲ生スルヲ以テ然ルナリ然レモ其契約ノ性質ヲ綿密ニ觀察スルキハ使用貸借ハ之ヲ片務契約中ニ算スルヲ以テ至當トス何トナレハ實際貸主ニ於テ義務ヲ負フコアルモ其義務タル本契約其モノヨリ來ルニ非ス一般的ナル義務即チ不當ノ利得、不正ノ損害ニ基ツクモノニシテ本契約ニ關係ナク所謂契約カ機會ト爲リテ生シタルニ過キサルモノナレハナリ

(四三) 貸主ノ義務ニ二箇アリ上ニ示セル如ク一ハ不當ノ利得ニ理由シ他ノ一ハ不正ノ損害ニ理由スルモノナリ

第一 不當ノ利得ニ理由スル義務即チ物件保存ノ要用必費ヲ償還スルノ義務 物件保存ノ費用ハ貸主ノ利益ヲ爲スモノナルヲ以テ貸主之ヲ負擔スルハ事理當然ノコナリトス然ルニ保存費ト云フモ或ハ借

主ノ隨意ニ出テ貸主ノ好マサル所ノ費用ヲ爲シ以テ貸主ヲ困難セシムルコトナキニ非サル可シ此ヲ以テ假令保存ノ費用ナルモ悉ク貸主ニ之ヲ負擔セシムルコトヲ得ス故ニ借主カ其請求ヲ爲シ得ルニハ本條ニ明記セル如ク保存ノ爲メニ必要且急迫ノ費用ナルコトヲ要ス若シ否ラサレハ豫メ貸主ニ對シテ保存ノ必要ナルコトヲ通告シ且其認可ヲ受ケサル可カラサルナリ

然リ而シテ借主カ右ニ掲ケタル必要且急迫ナル費用ヲ爲シタルキハ貸主ハ之カ費用ヲ償還セサル可カラス若シ貸主ニシテ或ハ其費用ヲ償還セス或ハ其償還ノ十分ナラサルニ於テハ貸主ハ是レ借主ニ損害ヲ受ケシメ己レハ謂レナク利益ヲ取得スルモノニシテ所謂不當ノ利得ヲ爲スモノナリ故ニ法律ハ借主カ其費用ノ償還ヲ受クルカ爲メニ借用物ヲ擔保トシテ留置スルコトヲ得ヘシト爲ス是レ次條ノ目的トス

ル處ナリ

借主カ借用物ニ有益即チ改良ノ費用ヲ爲シタルキハ貸主ハ其費用ヲ負擔ス可キヤ否ヤ法律ハ此有益ノ費用ニ付テハ毫モ明言スル所ナシ蓋シ其費用ハ實際有益ナルモ貸主ノ好マサル所ナレハ徒ラニ貸主ヲシテ迷惑ヲ感セシメ又借主ヲシテ濫リニ權利ヲ弄セシム可カラサルニ因リ唯々必要ノ費用ノミニ限リタルナリ然レモ借主モ亦々事務管理ノ行爲ヲ爲シタルモノナレハ普通法ニ從ヒ管理人ト看做サルハハ敢テ妨クル所ニ非サルヲ以テ此場合ノ如キモ借主ハ事務管理ノ規定ニ從ヒテ其權利ヲ主張スルコトヲ得ヘキナリ

第二 不正ノ損害ニ原由スル義務即チ物件ノ瑕疵ノ爲メ借主ノ受ケタル損害ヲ賠償スル義務 貸主カ貸付物ニ瑕疵アリシ爲メニ負擔スル賠償ノ義務ハ其瑕疵カ隱レタルモノニシテ貸主ノ之ヲ知リタルコト

（詐欺又ハ害意アルコト）及ヒ借主ノ之ヲ知ラザリシコトヲ要ス故ニ借主カ物件ノ瑕疵ニ因リ損害ヲ受クルアルモ以上ノ條件ヲ具有スルニ非ザレハ貸主ニ對シテ賠償ヲ要求スルコトヲ得サルモノトス蓋シ瑕疵カ隠レタルニ非サルキハ契約ノ當初ヨリ借主モ之ヲ知了ス可ク假令實際之ヲ知了セザリシモ這ハ是レ借主ノ過失ニシテ法律ハ其瑕疵アルコトヲ知リツ、借受ケタルモノト思料ス可ケレハナリ況ンヤ其瑕疵アルコトヲ知了シタルトキハ當初ヨリ其瑕疵ノ爲メ損害ノ危険アルコトヲ認メテ契約シタルモノト看做ス可ケレハナリ又貸主ニ於テ其瑕疵ヲ知了セスシテ毫モ惡意ナキキハ第百八十二條ノ規定ニ從テ其責ニ任スルコトヲ要セザレハナリ之ヲ要スルニ貸主カ不正ノ損害ヲ爲シタルキハ第百八十二條第一項ノ適用ヲ受ケテ其損害ノ賠償ヲ爲サ、ル可カラサルナリ

第二百五條 借主ハ前條ニ依リテ自己ノ受ク可キ賠償ヲ得ルマテ借用物ニ付キ留置權ヲ行フコトヲ得

〔義解〕（四四）借主ハ前條ニ依リ貸主ヨリ賠償ヲ受クルノ權利アルモ貸主ノ無資力ナルカ爲メニ其満足ヲ得サルノ患ナシトセス故ニ法律ハ借主ニ許スニ償還ヲ受クルマテ擔保トシテ其借用物ヲ留置スルコトヲ得セシメリ抑留置權ナルモノハ物上擔保ノ一ニシテ其満足ナル賠償ヲ受クルマテ自己ノ手許ニ義務者ノ所有物ヲ留置シ以テ義務者カ該物件ヲ處置スルコトヲ防止シ及ヒ他ノ債權者カ差押ヲ爲サンコトヲ防止スルニ在ルナリ

留置權ニ關スル詳細ノ規定ハ債權擔保編第二部第一章ニ在リ而シテ民法正義ノ同編ニ於テ已ニ說了シアルヲ以テ今マ復タ茲ニ贅セス終リニ一ノ注意ス可キコトアリ即チ借主カ其借用物ヲ留置シ得ルハ唯

タ借用物ニ關シテ生セシ債權ヲ執行セントスル場合ニ限ルト是ナリ
故ニ借主カ他ノ原因ヨリ貸主ニ對シテ如何ニ大ナル債權ヲ有スルモ
之レカ爲メニハ決シテ其借用物ヲ留置スルト得サルモノトス

第十章 寄託及ヒ保管

〔總說〕

〔四五〕 寄託及ヒ保管ハ共ニ他人ノ物件ヲ看守スルモノナレトモ一ハ契
約ヨリ成立シ他ノ一ハ契約上又ハ裁判上ヨリ生スルモノニシテ而シ
テ其目的物モ寄託ニ係リテハ動産ニ限ルモ保管ニ付テハ動産ト不動
産トヲ問ハサルナリ故ニ本章ニ於テハ等シク是レ寄託タルニ相違ナ
キモ之ヲ二節ニ分チテ各之レカ定義ヲ與ヘ以テ之ヲ混淆スルノ批難
ヲ避ケタリ而シテ本章モ亦タ財産取得ノ方法中特定權原ノ取得方法
ニシテ且無償ノ取得方法ニ屬スレトモ單ニ物件ヲ看守スルノ規定ニ過

キサルナリ

第一節 寄託

第二百六條 寄託ハ一人カ動産ヲ交付シ他ノ一人カ
之ヲ看守シ要求次第直チニ原物ヲ返還スル契約ナ
リ

寄託ハ本來無償ナリ

寄託ニハ任意ノモノアリ急迫ノモノアリ

〔義解〕〔四六〕 本條ハ寄託ノ定義并ニ其性質ヲ示定シタルモノナリ
寄託ノ定義ハ本條ノ明掲スル所ナレハ暫ク之ヲ措キ先ツ此定義ニ基
キテ之レカ性質ノ如何ナルモノナルヤヲ攻究セシニ寄託ト使用貸借
トノ同異ヲ觀察セハ以テ容易ニ寄託ノ性質ヲ了知シ得ヘシ即チ左ニ
之ヲ説述セシ

〔四七〕先ツ寄託ノ使用貸借ト同シキ點ヨリ觀察セン

第一 寄託ハ要物ノ契約ナルコト即チ寄託契約ノ成立スルニハ物件ノ交付ナカル可カラス其故如何ト云フニ寄託ナルモノハ受託者ニ於テ其物件ヲ看守シ寄託者ノ要求次第直チニ之ヲ返還ス可キモノナルヲ以テ其未タ物件ノ交付ヲ得サルノ前ニ於テハ受託者ハ如何シテ其未タ受取ラサル物件ヲ看守シ返還スルコトヲ得ンヤ是レ實ニ簡單明白ナルコトナリトス

然リ而シテ其交付即チ引渡ハ必スシモ現實ナルヲ要スルニ非ス交付ノ實アルヤ只々想像上ニテモ之ヲ引渡セリト看做スコトヲ得ヘシ所謂簡易ノ引渡ノ場合はナリ財産編第一百九十一條故ニ例ヘハ借主カ借用物ヲ返還セントスルトキ貸主ノ都合ニ因リ更ラニ名目ヲ替ヘ借主ニ其物件ヲ寄託スルカ如シ此場合ニ在テハ其物件ハ已ニ借主ノ手許ニ存在ス

ルヲ以テ寄託者貸主特ニ之ヲ引渡スヲ要セス單ニ寄託ノ旨ヲ申入レ借主之ヲ承諾スルニ於テハ茲ニ使用貸借ハ變シテ寄託契約ト爲ルナリ而シテ其契約ノ名義ヲ變更セシニ依リ自カラ物件保存者ノ責任ニ輕重ヲ來ス可シ即チ寄託ノ場合ニ在テハ他ノ場合ニ比シテ其責任太ダ輕ク恰モ自己ノ物件ヲ保存スルニ付テノ注意ヲ致セハ以テ足レリトス

第二 寄託ハ無償ノ契約ナルコト若シ受託者ニシテ金圓若クハ有價物ヲ勞務ノ賃料トシテ受領シタリトセンカ然ルキハ寄託ノ契約ニ非スシテ雇傭契約ト爲ル可シ尤モ受託者カ看守ノ報酬トシテ他日之レカ謝金ヲ受クルアルモ此謝金ハ賃料ト自カラ異ナリテ全ク勞務ノ謝禮タルニ過キサレハ毫モ寄託契約ノ性質ヲ左右スルモノニ非スシテ基本上依然無償タルコト妨ケサルナリ

第三 寄託ハ片務ノ契約ナルヲ 受託者ニハ受託物ヲ看守シ及ヒ返還スルノ義務アリト雖モ寄託者ニハ一モ直接ノ義務アルニ非サルナリ蓋シ使用貸借ノ場合ニ於ケルカ如ク寄託者カ不當ノ利得又ハ不正ノ損害ヲ爲シタルカ爲メ受託者ニ其損害ヲ償還スルノ義務ヲ生スルアルモ此等ノ義務ハ其實合意ヨリ直接ニ生スルモノニ非スシテ義務ノ原因全ク異ナレハ學說上之ヲ呼ソテ不完全ノ双務ト稱スルニモ拘ラス尙ホ之ヲ片務ト云フヲ得ヘキナリ殊ニ寄託ノ場合ニ在テハ寄託者ハ何時ニテモ寄託物ノ返還ヲ要求シ得ヘキモノナレハ益片務契約タルノ性質ナルコトハ使用貸借ヨリモ一層鞏固ナルヲ見ルナリ

第四 寄託ヲ受ケシ原物ヲ返還スルコト 曾テ使用貸借ニ付テ説述シタル如ク寄託ノ場合ニ在テモ受託者ハ寄託ヲ受ケシ原物ヲ返還セサル可カラズ何トナレハ受託者ハ單ニ物件ヲ看守スルニ止マリテ之ヲ

使用シ之ヲ處分スルコトヲ得サルモノナレハナリ故ニ若シ寄託物ニシテ金圓ナラシカ假令其金圓ハ封緘セサルニモセヨ尙ホ特定物ト同シク其原物ヲ返還サル可ラス然レモ寄託物ノ金圓カ實際受託者ヨリ返還シタルモノト同種ノ金圓例ヘハ金貨ト金貨銀貨ト銀貨若クハ紙幣ト紙幣トニ於ケルカ如シナルモハ果シテ同一(原物)ノ金圓ナルヤ否ヤヲ知了スルコト困難ニシテ且其必要アルヲ見サルナリ

然ルニ寄託者カ其寄託金圓ノ使用ヲ認許スルコトアリ法律ハ此場合ヲ稱シテ「消費ヲ許セル寄託」ト云フ財産編第五百二十六條第二號 此場合ニ於テハ受託者ハ其金圓ノ借主ト爲ル可キモノニシテ若シ寄託者カ其使用ノ期限ヲ明定セサルモハ受託者(借主)ハ裁判所ニ請求シテ其期限ノ示定ヲ受クルコトヲ得ヘシ本編第九條 此ノ如ク受託者ニ於テ受託物ヲ使用スルコトヲ得ルモハ是レ純然タル寄託ニ非スシテ任意ノ消費貸借ヲ帶有ス

ル條件付ノ寄託ト謂フ可キナリ
 (四八) 以上ニ於テ寄託ノ使用貸借ト同シキ點ヲ觀察シ了セルヲ以テ
 今ヨリ二者ノ異ナル點ヲ講究セシ
 第一 物件保存ノ責任ノ點ニ付キ差異アリ 借主ハ物件ニ付キ利益
 ヲ受クルモノナレモ受託者ハ之ニ反シテ自己ニ利益ヲ受クルヲナシ
 即チ一ハ能働的ニ保存シ他ノ一ハ所働的ニ保存ス可キカ故ニ其責任
 ニモ亦タ輕重ノ差異ヲ生スルモノニシテ借主ハ善良ナル管理者ノ注
 意ヲ爲サ、ル可カラスト雖モ受託者ハ自己ノ財産ヲ管理スルト同シ
 キ注意ヲ致セハ以テ足レルナリ
 第二 物件返還ノ點ニ付キ差異アリ 借主ハ未タ借用物ノ使用ヲ爲
 サ、ルニ當リテ貸主ヨリ返還ノ要求ヲ受ク可カラスト即チ期限前ノ要
 求ハ或ル例外ヲ除ク外借主ハ常ニ之ヲ排却スルヲ得ヘキモ受託者

ニ在テハ何時ニテモ寄託者ヨリ返還ノ要求アルヤ直チニ之ヲ返還セ
 サル可カラス何トナレハ受託者ハ受託物ニ付キ何等ノ利益ヲ有スル
 モノニ非サレハ之ヲ自己ノ手中ニ保持スルノ必要アラサレハナリ
 第三 物件使用ノ點ニ付キ差異アリ 借主ハ目的タル用法ニ從ヒ借
 用物ヲ使用スルノ權利ヲ有スルモ受託者ハ之ニ反シテ受託物使用ノ
 權利ヲ有セス只タ之ヲ看守スルノ勞務アルノミ尤モ寄託者ハ寄託物
 ノ使用ヲ認可スルコトヲ得ヘキニ因リ受託者ニシテ若シ其認可ヲ受
 ケタルキハ之ヲ使用シ得ヘキナリ而シテ此場合ニ於テモ其契約ハ敢
 テ變更スルモノニ非ス即チ寄託ハ依然タル寄託ニシテ只タ之ヲ使用
 スル場合ニハ單一ノ寄託ヨリモ其物件ニ加フル注意ヲ重カラシムル
 ナリ第二百九十八條、第
 二百十條參看
 第四 目的タル物件ニ付キ差異アリ 貸借ノ目的物タルニハ動産又

ハ不動産ヲ以テスルヲ得ヘシト雖モ寄託ノ目的物ハ只タ動産ノ一ニ
 限ルモノトス蓋シ寄託ハ主トシテ物件ノ安全ヲ計リ紛失又ハ盜難等
 ナ避クルカ爲メナルニ此等ノ危險ヲ思念ス可キ物件ハ只タ動産ノミ
 ニシテ不動産ハ右ノ如キ場合ヲ生セサレハナリ故ニ若シ家屋ノ修繕
 ナ爲サシメンカ爲メ若クハ其看視ヲ爲サシメンカ爲メ家屋ノ鍵ヲ他
 人ニ渡スコアルモ是レ只タ鍵ヲ寄託シタルニ過キスシテ家屋ノ寄託
 契約ヲ爲シタルニ非サレハ其本契約ハ則チ家屋ノ看視ヲ委任シタル
 モノニシテ一ノ代理契約タルニ外ナラサルナリ

第五 契約ノ生スル場合ニ付キ差異アリ 使用貸借ハ必ス任意ノ契
 約ヲ以テノミ生スルモノナリト雖モ寄託ハ本條第三項ニ云ヘル如ク
 任意ナルモノト急迫ナルモノトノ二様アリ蓋シ寄託ヲ分ツテ任意ト
 急迫トノ二種ト爲スノ利益ハ主トシテ舉證ノ點ニ在リテ存ス即チ證

據法ノ規定ニ依ルヤ金額五十圓ヲ超過スル場合ニハ人證ヲ以テ證明
 スルヲ得サルノ制限アリ任意ノ寄託ニ付テモ此規定ヲ適用スト雖
 此急迫ナル寄託ニ在テハ其價額ノ幾干ナルヲ問ハス即チ人證ノ制限
 額ヲ超過スルニ拘ラス尙ホ人證ヲ以テ之ヲ證明スルヲ得是レ即チ
 異ナル所ナリ 證據編第六十條
第七十條參看

第一款 任意ノ寄託

[總說]

(四九) 寄託ノ任意ナルト急迫ナルトヲ問ハス共ニ是レ契約ヨリ生ス
 ルモノナレハ法律上ニテハ孰レモ當事者ノ承諾アリタルモノト看做
 セ此實際ニ於テハ急迫寄託ノ場合ハ水、火、震災等非常ナル時機ニ際會
 セルモノナルヲ以テ寄託ノ時日及ヒ場所并ニ受託者ヲ選擇スルニ十
 分ノ自由ヲ有セサルコアル可シ故ニ本法ハ二種ノ寄託ニ付キ欸ヲ分

チテ各別ニ之レカ規定ヲ爲セリ

第二百七條 任意ノ寄託ハ寄託者カ寄託ノ時日場所
及ヒ受寄者ヲ自由ニ選擇スルコトヲ得ル場合ニ於

テ成ルモノナリ

〔義解〕(五〇) 本條ハ任意ノ寄託ノ定義ヲ示シタルモノニシテ別ニ説
明ヲ要スルコトナシ只タ任意ノ寄託ニ付テハ本條ニ云ヘル如ク寄託者
ハ寄託ノ時日場所及ヒ受託者ヲ自由ニ選擇スルコトヲ得ルカ故常ニ完
全ナル合意ノ存スルアルヲ以テ其契約ノ成立ヲ證スルニ付キ格別困
難ヲ感スルコトナシト雖モ急迫ノ寄託ニ至テハ事跡危劇ノ場合ニ存ス
ルモノニシテ完全ナル承諾ヲ爲スノ猶豫ナク多クハ暗黙ノ承諾ニ出
ツルモノナルヲ以テ現ニ第二百二十條ニ云ヘル如ク諸般ノ方法ニ依
リ又ハ事情ヨリ生スル事實ノ推定ニ依リテ其成立ヲ證スルコトヲ得セ

シムルナリ

第二百八條 寄託ハ所有者ノミナラス尙ホ物ノ看守
及ヒ保存ニ付キ利害ノ關係アル人又ハ其代理人之
ヲ爲スコトヲ得

又寄託ハ無能力者ノ法律上ノ代人之ヲ爲スコトヲ
得

〔義解〕(五一) 本條ハ寄託者ノ能力ニ付キ規定シタルモノニシテ殆ト
解説スルノ必要ナクレハ只タ簡單ニ一言セン

凡ソ物ヲ寄託スルノ能力ハ其物ニ付キ物權ヲ有スルト否トニ依リ其
有無ヲ決スルモノニ非サルカ故當ニ所有者ノミナラス尙モ物權ヲ有
スル者ハ勿論單ニ人權ノミヲ有シ其物ニ付テハ毫モ權利ヲ有セサル
所ノ借主及ヒ受託者ノ如キモ其使用シ看守スル所ノ物ヲ有効ニ他人

ニ寄託スルコトヲ得ヘキナリ尤モ其他人ナル受託者カ其看守ノ責ヲ盡サスシテ寄託物ヲ破損滅失セシメタルキハ寄託者ハ其所有者ニ對シテ選擇不當ノ結果ヨリ生スル責ニ任セサル可カラサルナリ是ニ由リテ之ヲ視レハ無能力者ヲ除ク外凡ソ物ヲ現[○]有スル者ハ其名義ノ如何ナルヲ問ハス之ヲ他人ニ寄託スルノ能力アルモノトス而シテ無能力者ニ至リテハ假令其物ノ所有者ナルモ有効ニ寄託スルコトヲ得ス是レ本條第二項ノ規定アル所以ニシテ無能力者ノ爲ニハ獨リ法律上ノ代人後見人ノ如キニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ヘキノミ

第二百九條 寄託ハ契約ヲ爲ス完全ノ能力ヲ有スル者ニ非サレハ之ヲ受クルコトヲ得ス然レトモ無能力者ハ猶ホ自己ノ手ニ存スル寄託物ノ返還又ハ寄託ニ因リテ得タル利益ノ返還ニ付キ

民事上其責ニ任ス但背信ニ付テノ公訴ヲ妨ケス

〔義解〕(五二) 本條ハ受託者ノ能力ニ付キ規定シタルモノナリ

本條ニ於テ寄託ハ契約ヲ爲スノ能力ヲ有スル者ニ非サレハ之ヲ受クルコトヲ得スト規定セリ故ニ寄託者若シ誤リテ無能力者ニ寄託シタルトセンカ寄託者ハ自カラ之レカ過失ノ責ニ任セサル可カラサルハ敢テ多辯ヲ要セサルナリ然レモ受託者ニシテ無能力者ナレハ絶ヘテ法律上ノ責任ナシト云フニ非ス本條第二項ハ即チ受託者ノ無能力ナルモ尙ホ責任アルコトヲ認メテ其場合ヲ指定セリ

第一 寄託物カ原物ノ儘存在スルキ 寄託物ニシテ受託者無能力者ノ許ニ存在スルキハ受託者ハ其寄託者カ物件ノ所有者ナルト占有者若クハ使用者ナルトニ論ナク必ス其原物ヲ返還セサル可カラス法律ハ決シテ無能力者ナルカ爲メニ他人ノ物件ヲ引留ムルノ權利ヲ認メ

サレハナリ

第二 寄託物ニ係ル利得ノ現存スルキ 假令受託者ニ於テ其寄託物ヲ賣買又ハ讓渡シタルモ其賣買讓渡ニ依リテ收受シタル金圓ヲ貯存セルキハ其貯存ノ金圓ヲ寄託者ニ返還セサル可カラズ蓋シ受託者ノ無能力ナルモ不當ノ利得ヲ爲ス可ラサルハ一般ノ原則トスル所ナレハナリ

第三 原物并ニ利得ノ共ニ存セサルキ 受託者若シ寄託物ヲ隱匿スルカ又ハ故ヲ消失シタルトキハ本條第二項ノ末文ニ云ヘル如ク背信ニ付テノ公訴ヲ妨ケサルヲ以テ假令無能力者ト雖モ亦々背信罪ニ依テ處斷セラル可キナリ故ニ若シ其無能力者カ十二年以上二十年以下ノ未成年者ナルトキハ法律上ノ宥恕ヲ受クルヲ以テ其責任ヲ輕減セラル可キモ有夫ノ婦ノ如キハ十全ノ責任ヲ負ハサル可カラサルナリ

然レモ無能力ニシテ若シ是非ヲ辨別セサル者ナルカ又ハ智覺精神ヲ喪失セル者ナルキハ全ク刑法上ノ責任ヲ有セサルカ故從テ其制裁アラサルナリ刑法第三百九十五條并ニ第七十八條乃至第八十一條參看

第二百十條 受寄者ハ受寄物ノ看守及ヒ保存ニ付テハ自己ノ財産ニ加フルト同一ノ注意ヲ爲スコトヲ

要ス

然レトモ受寄者カ自ラ求メテ寄託ヲ受ケ又ハ單ニ自己ノ利益ヲ目的トシ要用ニ從ヒ受寄物ヲ使用スルノ許諾ヲ得テ寄託ヲ受ケタルトキハ受託者ハ善良ナル管理人ノ注意ヲ爲ス責ニ任ス但此末ノ場合ニ於テ受寄者カ其物ヲ使用シタルトキハ第九十八條ノ規定ヲ適用ス

〔義解〕(五三) 本條ハ受寄者カ寄託物ニ付キ注意ヲ爲ス可キ程度ヲ規定シタルモノナリ

夫レ受寄者ハ已ニ見來リシ如ク寄託者ノ爲メニ其受寄物ヲ看守シ及ヒ之ヲ保存スル恩惠的ノ行爲ヲ施スモノナルニ因リ彼ノ自己ノ利益ノ爲メニ寄託ヲ受ケタル者カ負フ可キ所ノ責任ヲ之ニ負ハシムルコトヲ得サルハ一見以テ明瞭ナリトス即チ本條第一項ハ「受寄者ハ受寄物ノ看守及ヒ保存ニ付テハ自己ノ財產ニ加フルト同一ノ注意ヲ爲ス」ヲ以テ其任務ヲ盡シタルモノト爲セリ故ニ受寄者カ若シ善良ナル管理人ナリセハ更ニ注意ヲ加ヘ物件ヲシテ安固ナラシム可カリシニ受寄者カ之ヲ爲サ、リシ如キ場合ニ於テモ法律ハ受寄者ニ對シテ其過怠ノ責ヲ問ハサルナリ畢竟受寄者ヲ選擇スルノ良否如何ハ專ラ寄託者ノ意思ニ存スルヲ以テ若シ其選擇ノ拙劣ナルヨリシテ其當ヲ得ザリ

シコトアラフ歟是レ寄託者自カラ招キタル結果ナリ然ラハ則チ寄託者自カラ其躬ヲ咎ム可シ將タ誰ヲカ咎メノヤ尤モ寄託者ハ受寄者カ豫テ注意深キ者ナルコトヲ見込ミ以テ寄託ヲ爲シタルニ受寄者カ平素ノ注意ヲ欠キテ十分ノ看守ヲ爲サ、リシコトアラハ須ラク其當時ノ事情ヲ審按シテ斷定セノコトヲ要ス

本條第二項ハ右ニ對シ二箇ノ例外アルコトヲ示定セリ

第一 受寄者自カラ求メテ寄託ヲ受ケタルトキ、寄託者ヨリ寄託ヲ請ヒタルニ非スシテ受寄者自カラヨリ求メタル場合ニ於テハ假令受寄者ハ之レカ爲メ利益ヲ得ルコトナクシテ看守ヲ爲スニモセヨ自カラ好ノテ之ヲ引受ケタル以上ハ善良ナル管理人ノ注意ヲ爲サ、ル可カラス故ニ若シ此注意ヲ欠キ爲メニ受寄物ヲ毀滅シタルトキハ受寄者其責ニ任スルコトヲ要ス但受寄者ノ意、寄託者カ寄託ヲ爲スニ踴躍

シ困難セル状ヲ懲察シテ德義上自カラ寄託ヲ引受ケタルカ如キ其進
 ノテ引受ケタルノ純ラ仁惠的ニ出テタル場合ハ格別ニシテ固ヨリ
 此例外ノ規定ヲ適用ス可カラサルナリ

第二 受寄者ノ利益ノ爲メ寄託ヲ受ケタルモ、單ニ受寄者ノ利益ヲ
 目的トシ其要用アルヤ隨意ニ使用スルヲ許諾シテ物ヲ寄託シタル
 場合ニ於テハ受寄者自己ノ利益ノ爲メニ看守スルモノナルヲ以テ彼
 ノ借主ト同様ナル注意即チ善良ナル管理人ノ注意ヲ爲サ、ル可カラ
 サルナリ

而シテ受寄者カ其受寄物ノ使用ヲ爲シタルモ本條第二項ノ末文ニ
 云ヘル如ク第九十八條ノ規定ヲ適用ス可キモノトス故ニ若シ受寄
 者カ自己ノ物件ヲ用ユルヤ以テ受寄物ノ毀滅ヲ免カレシムルヲ得
 ヘカリシニ受寄物ヲ使用シテ毀滅ヲ招キタルカ如キ或ハ又自己ノ物

件ト受寄物ト同時ニ危險ニ遭ヒ自己ノ物件ノミヲ救護シタル場合ノ
 如キ假令其原因ハ意外ノ事又ハ不可抗力ニ係リシモト雖モ必ス其毀
 滅ノ責ニ任セサル可カラサルナリ要スルニ受寄者ハ自己ノ爲メニ利
 益ヲ得ルモノナルヲ以テ使用貸借ノ場合ニ於ケル借主ト同一ノ責ニ
 任ス可キナリ然ラハ則チ寄託者ノ利益ノ爲メニ寄託ヲ受ケタル場合
 ニ在リテハ前ノ理由ヨリシテ之ト同一ノ斷察ヲ下ス能ハサルハ固ヨ
 リ既ニ明白ナルコトナリトス由是視之受寄者カ受寄物ト自己ノ物ト
 共ニ危險ニ遭遇セシ場合ニ於テ受寄者ハ其受寄物ノ價額カ自己ノ物
 ヲリ高貴ナルモハ之ヲ救出ス可ク否ラサルモ自己ノ物ヲ救出シテ
 不可ナルナシ蓋シ受寄者ハ自己ノ物ト同一ノ注意ヲ爲セハ則チ足レ
 ルモノニシテ自己ノ物ヨリ低下ナルモ尙ホ之ヲ救出スルカ如キハ普
 通在ル可カラサルコトナレハナリ當ニ低下ナルモミナラス其物件

ノ同價ナルト雖モ亦受寄者ハ必ラスシモ受寄物ヲ救出スルヲ要セ
 ス何トナレハ受寄物ニ付キ更ニ注意ノ重キヲ加フ可キニ非ザレハナ
 リ而シテ受寄者カ受寄物ヲ救出シタルカ爲メ自己ノ物件ヲ毀滅シタ
 ルトハ寄託者ニ對シ之レカ償還ヲ要求スルヲ得ヘシ實ニ寄託者ハ
 受寄者ノ所爲ニ依リテ利益ヲ得ルモノナレハ此上尙ホ受寄者ヲシテ
 損失ヲ被ムラシムルノ理由アラサルヲ以テナリ
 終リニ臨ンテ注意ス可キトアリ即チ本法ハ彼ノ受寄者カ受寄物ニ付
 キ賃料ヲ得ル場合并ニ契約ヲ以テ受寄者カ總テノ過失ヲ擔當セル場
 合ヲ本條ノ例外トシテ指數セザリシト是ナリ蓋シ其一ハ寄託契約ニ
 非スシテ雇傭契約ト爲リ他ノ一ハ所謂契約ハ當事者間ニ在リテハ法
 律ニ等シトノ原則ニ依ル可ク茲ニ之ヲ例外ト爲スノ必要アラサルヲ
 以テ然ルナリ

第二百十一條 受寄物返還ノ遲滯ニ付セラレタル受
 寄者ハ普通法ニ從ヒ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因ル
 滅失ノ責ニ任ス

〔義解〕(五四) 受寄者カ受寄物ニ對スル責任ノ程度ハ太々輕易ニシテ
 單ニ自己ノ物件ニ加フルト同一ノ注意ヲ以テ足レリトシ彼ノ意外ノ
 事又ハ不可抗力ニ因リテ受寄物ノ滅失スルアルモ受寄者ハ固ヨリ之
 レカ責ニ任セスシテ可ナルトハ前已ニ述フル所ノ如シ然レモ其滅失
 カ受寄物返還ノ遲滯ニ付セラレタル後ニ在レハ亦之ヲ同一視スルヲ
 得ス蓋シ法律ハ受寄者ノ行爲ニ付テハ可及的寬假セルモ付遲滯後ノ
 結果ニ付テハ顯然受寄者ノ過失ニ基ツクモノナルヲ以テ普通ノ場合
 ト同シク其滅失カ意外ノ事又ハ不可抗力ニ原因スルニモセヨ受寄者
 ハ必ス之レカ責ニ任ス可キト爲セリ是レ其遲滯ニ付セラレタル以

上ハ普通ノ義務者ニ比シテ其地位ノ差等アル可キ理ナク等シク物件
 滅失ノ責ヲ負ハサル可カラサルニ因ルナリ但其受寄物カ若シ寄託者
 ノ手許ニ在ルモ尙ホ滅失ノ患ヲ免カレサル可キ場合(例ハ雙方ノ居
 所共ニ大水ノ厄難ニ遭ヒ物件ノ流亡ヲ避クル能ハサルトキノ如シ)ニ
 在リテハ假令其厄難ノ附遲滯後ニ係ルトキト雖モ受寄者ハ普通法ニ
 依リ其責ヲ免カル、コトヲ得ヘシ勿論此場合ニ於テハ受寄者ヨリ受
 寄物カ孰レニ在ルモ滅失ノ患ヲ免カレサル可キ證據ヲ舉ケサル可カ
 ラサルナリ財産編第三百三十五條第五
 十條第五百四十一條參看

第二百十二條 寄託者カ受寄者ニ寄託物ノ性質ヲ隱

祕シタルトキハ受寄者之ヲ知ラント探求スルコト
 ナ得ス又其性質ヲ受寄者ノミニ知ラシメタル場合
 ニ於テモ受寄者之ヲ他人ニ漏泄スルコトヲ得ス若

シ之ヲ漏泄シタル爲メ損害アルトキハ其賠償ノ責
 ニ任ス

〔義解〕(五五) 受寄者ハ寄託者ニ對シ篤實ニシテ其信用ヲ維持セシ
 トノ最モ必要ナルニ因リ本條ハ其意ヲ貫徹セシメシメカ爲メ受寄者ニ
 命スルニ物件ノ祕密ヲ確守ス可キコトヲ以テセリ然ラハ則チ寄託者
 ニ於テ寄託物ノ性質ヲ隱秘シタルトキハ受寄者ハ其何物ナルヤヲ強
 テ探知スルコトヲ得サルハ勿論其何物タルコトヲ受寄者ニ知了セシ
 メタル場合ト雖モ其之ヲ他人ニ祕ス可キノ依頼アリタルトキハ受寄
 者ハ決シテ之ヲ漏泄スルコトヲ得ス蓋シ受寄者カ他人ニ之ヲ漏泄ス
 ルカ如キハ頗ル寄託者ノ信用ニ背戾スルモノト云ハサル可カラス故
 ニ受寄者若シ之ヲ漏泄シ爲メニ寄託者ニ損害ヲ蒙ラシムルアレハ之
 レカ賠償ノ責ニ任セサル可カラサルナリ

而シテ法律カ他人ニ漏泄スルコトヲ受寄者ニ禁止シタルハ其物件ノ性質ニ付テ云ヘルモノニシテ其自己ノ受寄者タルコトヲモ祕密ニス可シト云ヘルニ非サルコトヲ記憶ス可シ故ニ寄託者又ハ受寄者ノ債權者カ受寄者ニ對シテ或ハ其受寄物ノ眞否ニ付キ裁判所ニ召喚シ或ハ之ヲ差押ヘントスル場合ニ於テハ固ヨリ自己カ受寄者ナルコトヲ申述スルヲ得ヘキナリ

(五六) 受寄者カ受寄物ノ祕密ヲ守ル可キハ絶對ニシテ假令其物件カ法律ニ於テ禁制シタルモノナルカ若クハ犯罪ニ係ルモノナルモ尙ホ之ヲ發露スルコトヲ得サルヤ即チ刑事上ニ於テハ何人ト雖モ犯罪アルコトヲ認知シ又ハ思料シタルトキハ直チニ告發スルコトヲ得ルニ民事上ニ於テハ斯ル場合ニ接スルモ尙ホ之レカ祕密ヲ守ラサル可カラサルヤ否ヤ刑法第四十三條參看 訴之ヲ一見スレハ刑事ト民事ト相

衝突セルカ如シト雖モ是レ其觀察ノ點ヲ異ニセルモノナレハ決シテ民事ヲ以テ刑事ノ權限ヲ侵越セルモノニ非サルナリ蓋シ此禁制タル民事上私益ノ爲メニ之ヲ設定シタルモノナレハ之レカ爲メ公益ニ係ル告發ノ權利ニ影響ヲ及ホス可カラス私益ハ以テ公益ヲ害ス可カラサルハ一般ノ原則ナレハナリ故ニ受寄者カ民事上祕密ヲ守ル可キノ禁制アルニモ拘ハラズ若シ其物件ノ法律上何人ト雖モ所持ス可カラサル物(阿片ノ如シ)若クハ禁制物(偽造貨幣ノ如シ)ナルトキハ公益ノ爲メ之ヲ告發スルコトヲ得ヘキナリ而シテ其受寄物ノ贓物ニ關スル場合ハ第二百十八條第四號ニ之レカ規定ヲ爲セルニ因リ尙ホ同條ニ至リ更ニ之ヲ研究セシ

第二百十三條 受寄者ハ受寄物ヲ使用シ又ハ其果實ヲ消費スルコトヲ得ス但此カ爲メ寄託者ノ明示又

ハ黙示ノ許諾アリタルトキハ此限ニ在ラス

此許諾ハ寄託ニ使用貸借ノ性質ヲ與フルニ足ラス

〔義解〕(五七) 受寄者ハ元來無償ニテ寄託者ノ爲メニ勞務ヲ執ルモノナレハ只タ受寄物ヲ看守シ保存スルニ止マリ決シテ之ヲ使用シ若クハ之ヨリ生スル果實ヲ消費スルヲ得ス然レモ寄託者ニ於テ之ヲ許容スルハ契約自由ノ原則ニ依リ毫モ法律ノ干涉スル所ニ非サルナリ而シテ其許諾ハ明示又ハ黙示ニテ之ヲ爲スコトヲ得即チ明約ヲ以テ許諾セルモ勿論假令明許セサルモ寄託物ノ景狀及ヒ其性質ニシテ物件ノ使用(果實ノ消費)ヲ認メ得ヘキモハ黙示ノ許諾アリシモノト看做ス可キナリ斯ノ如ク寄託者カ其許諾ヲ與フルハ或ハ寄託ノ報勞ナルヲアリ或ハ寄託者自己ノ利益ノ爲メニ出ツルヲアリ例ヘハ其寄託物カ卓子又ハ書庫等ノ如キモノナルモハ寄託ノ報勞ノ爲メ又其物件

ノ毎ニ使用スルヲ要スルモノ例ヘハ牛馬ノ如キモノナルモハ寄託者ノ利益ノ爲メナリトス是レ此等ノ物ハ之ヲ使用セサルニ於テハ或ハ疾病ヲ醸シ或ハ氣力ヲ喪失シ遂ニハ其用ヲ爲サ、ルニ至ル可ケレハナリ

又其寄託物ヨリ生スル果實ヲ消費スル場合例ヘハ鳩兔ヨリ肥料ヲ取得シ牝牛ヨリ乳汁ヲ搾取スルカ如キ場合ニ在リテモ其許諾ニ付テハ亦タ同一ナリトス

然リ而シテ受寄者カ許諾ヲ得テ其物件ヲ使用シ又ハ果實ヲ消費スル場合ニ於テモ其使用又ハ消費カ自己ノ利益ノ爲メタルモハ單ニ自己ノ物件ニ注意ヲ加フルト同一ノ義務ノミニ止マラス進ンテ善良ナル管理人タルノ注意ヲ爲ス可キ義務ヲ負ハサル可カラサルナリ(第二百又寄託者カ右ノ許諾ヲ與フルアルモ寄託契約ノ性質ハ依然變更スル

トナシ即チ本條第二項ニ於テ「使用貸借ノ性質ヲ與フルニ足ラス」ト規定シ以テ其性質ノ變更セサルモノナルコトヲ明言セリ故ニ寄託者ハ寄託物ノ使用ヲ許諾セルニ拘ハラス隨意ニ之レカ返還ヲ要求シ取回スルコトヲ得ヘク隨テ受寄者モ亦タ使用貸借ニ於ケル借主ト同一ノ責任ヲ負フコトナキヲ以テ第百九十八條ノ適用ヲ受ケサルナリ

第二百十四條 受寄者ハ其收取シタル果實及ヒ產出物ト又之ヲ金錢ニ換ヘサルヲ得サリシトキハ其代金ト共ニ原物ヲ返還スルコトヲ要ス但前條ノ規定ヲ妨ケス

受寄者カ受寄物ニ付キ或ル償金又ハ或ル權利若クハ利益ヲ取得シタルトキハ之ヲ寄託者ニ移轉スルコトヲ要ス

又受寄者カ故意ニテ受寄物ヲ消費シ讓渡シ又ハ隱匿シタルトキハ遲滞ニ付セラレルコト無クシテ當然損害賠償ノ責ニ任ス但背信ニ付テノ公訴ヲ妨ケス

〔義解〕(五八) 本條及ヒ次條ハ受寄物返還ニ關スル義務ヲ規定シタルモノナリ

受寄者カ受寄物ヲ返還スルニハ曾テ交付ヲ受ケタル物并ニ其物ヨリ生シタル果實及ヒ產出物アルトキハ受寄者ハ此等ノ附屬物ヲ併セテ返還セサル可カラス又其附屬物ニシテ永ク保持スルコトヲ得サルモノナルトキハ受寄者ハ之ヲ估却シテ其代價ヲ收取シ置ク可キニ依リ之ヲ返還セサル可カラス又其物件カ金圓ニシテ封緘ヲ施セルモノナルトキハ一箇ノ特定物ナルヲ以テ固ヨリ其封緘ノ儘ニテ返還ス可キ

ハ勿論假令之レカ封緘ヲ爲サスシテ寄託シ同性質ノ貨幣金銀貨ナレハ金銀貨紙幣ナレハ紙幣ヲ以テスルカ如シヲ以テ返還スルヲ得ヘキ場合ニ於テハ同性質ノ貨幣ヲ返還スルヲ以テ原物ノ返還ヲ爲シタルモノトス故ニ金圓其モノ、交付ヲ受ケタル受寄者ニシテ遲滞ニ付セラレタルトキハ其付遲滞ニ因リ直チニ法律上ノ利息ヲ生スルモノニシテ通常ノ場合ノ如ク裁判所ニ出訴スルヲ待ツ可キニ非ス蓋シ受寄者ハ金圓ノ債務者ニ非スシテ他ノ場合ト同シク特定物同性質ノ貨幣ヲ返還スルノ債務者タレハナリ財産編第三百九十三條參看

受寄者ハ以上ノ如ク原物并ニ其產出物ヲ總テ返還ス可キモノナリト雖モ前條ニ依リ寄託者ヨリ寄託物ノ收益ヲ爲スコトヲ許諾セラレタルトキハ其收益シタル物ヲ返還スルヲ要セス只タ原物ノ返還ヲ爲スノミニシテ其義務ヲ免カル可キナリ

《五九》 然ルニ受寄者カ其受寄物ヲ第三者ノ所爲ニ依リテ毀損セラレ若クハ公用徵收ニ依リテ取上ケラル、等ノトアレハ原物ハ最早之ヲ返還スルヲ得サルモ其取得シタル償金又ハ權利利益等ハ悉皆之ヲ寄託者ニ返還セサル可カラス蓋シ受寄者ハ原物返還ノ義務アリ其原物(特定物)ノ變シテ代金權利等ト爲ルモ原是レ寄託者ノ有ス可キモノニシテ受寄者ハ其物件ノ變更ニ依リテ之ヲ取得スルノ理由アラザレハナリ

《六〇》 右ニ反シ受寄者若シ故意ヲ以テ其受寄物ヲ消費シ讓渡シ又ハ隱匿スルヤ本條第三項ハ啻ニ民事上遲滞ニ付セラル、トナクシテ當然損害賠償ノ責ニ任ス可キモノト爲スノミナラス尙ホ刑事上背信ニ付テノ公訴ヲ妨ケストシテ嚴重ナル制裁ヲ加ヘタリ蓋シ受寄者ノ過失ヲ以テ受寄物ト自己ノ物件トヲ混淆シ以テ之レカ所分ヲ爲スカ如

キハ世態上往々免カル可カラサル事柄ナレハ其責ヤ恕ス可キ事情ナ
キニ非スト雖モ惡意ヲ以テ之ヲ處分スルカ如キハ汚穢醜辱ノ所業ニ
シテ甚タ惡ム可ク且最モ社會ノ信用ニ關係スルヲ以テ此ノ如キ受寄
者ニハ寸毫モ假借スルノ必要アラサレハナリ故ニ受寄者ヲシテ總テ
ノ損害賠償豫見シ又ハ豫見シ得ヘキ損害ハ勿論豫見スルヲ得サリシ
損害ト雖モ直接ニ生シタルモノ（財産編第三百八十五條參看）ヲ負擔セシメ尙ホ且背
信罪ヲ組成ス可キモノトセリ

第二百十五條 受寄者ノ相續人カ受寄物ナルコトヲ
知ラスシテ其物ヲ消費シ又ハ之ヲ讓渡シタルトキ
ハ其相續人ハ此ニ因リテ得タル利益ノ額ニ滿ツル
マテ賠償ノ責ニ任ス
右ノ規定ハ遺忘又ハ錯誤ニ因リ自己ノ物トシテ受

寄物ヲ處分シタル受寄者ニ之ヲ適用ス

〔義解〕（六一）前條ニ於テハ受寄者カ惡意ヲ以テ受寄物ヲ處分シタル
場合ヲ觀察セシカ本條ハ之ニ反シ善意ヲ以テ受寄物ヲ處分シタル場
合ヲ規定シタルモノナリ
諸テ其第一ニ想見シ得ヘキハ受寄者ノ相續人ナリトス夫レ相續人ナ
ルモノハ其物件ノ果シテ受寄物ナルヤ將タ自家ノ物件ナルヤハ必ス
シモ知悉セルモノニ非ス其之ヲ知悉セサルハ畢竟スルニ相續人カ先
人（受寄者本人）ヨリ其物件ノ受寄物ナルコトヲ聞知セサルニ在リテ事
情ノ正サニ然ラシムル所トス故ニ其相續人ヲ責ムルニ受寄物タルヲ
知ラサルコトヲ以テス可カラサルナリ然レハ今マ若シ受寄者ノ相續
人ニシテ受寄物ヲ自己ノ物件ナリト思料シ善意ニテ之ヲ消費シタリ
トセン歟相續人ハ其消費ニ依テ利益ヲ得タル限度ヲ以テ之レカ賠償

ノ責ニ任ス可ク寄託者ハ之ニ對シテ受寄物ノ實價ヲ要求スルコトヲ得サルナリ若シ又其相續人カ善意ヲ以テ受寄物ヲ他人ニ讓渡シ他人亦タ善意ニテ之ヲ讓受ケタリトセン歟相續人ハ其讓渡ニ依テ取得シタル利益若クハ受ク可キ利益ノ債權ヲ寄託者ニ返還ス可キノミニシテ寄託者ハ又之レカ實價ヲ要求シ又ハ寄託物ノ取戻ヲ要求スルコトヲ得ス蓋シ動産ニ付テハ第三者カ正權原且善意ヲ以テ取得シタル以上ハ即時時効ニ因リテ物件ノ所有者ト爲ルモノナレハ最早之ニ向テ對抗スルコトヲ得サルニ因ルナリ證據編第四百四十四條參看而シテ寄託者カ讓渡物(寄託物)ヲ取戻ス能ハサルハ彼ノ惡意ノ受寄者ノ場合ト雖モ讓受人ノ善意ナルキハ之レカ取戻ヲ爲ス能ハサルカ故此場合ニ於テ殊ニ其然ル可キハ亦タ辯ヲ待タサルナリ

然ルニ其相續人カ無償名義即チ他人ニ贈與ヲ爲シタル場合ニ在テハ

如何ト云フニ此場合ニ於テハ若シ此物件ナカリセハ其贈與ヲ爲サ、リシヤ否ヤヲ研究セサル可カラス而シテ畢竟此物件アリタルカ爲メ贈與ヲ爲シタルモノト認ム可キ場合ニ於テハ其相續人ハ少ナクモ直接ニ利セシ所ナキヲ以テ敢テ寄託者ニ賠償ス可キモノナシト雖モ之ニ反シテ若シ此物件ナキハ他ノ物件ヲ求メ以テ之ヲ贈與シタルナラント認メ得ヘキ場合ニ於テハ相續人ハ即チ之ニ相應スル利益ヲ得タルモノナレハ寄託者ニ對シテ賠償ノ責ニ任セサル可カラス否ラサレハ相續人ハ不當ノ利得ヲ得ルニ至レハナリ

以上ノ場合ニ反シ受寄者ノ相續人カ惡意ヲ以テ消費讓渡等不正ノ所業ヲ爲シタルキハ如何本條別ニ明記スル所ナキモ其不正タルヤ毫モ受寄者ノ犯シタルニ異ナルナケレハ法律ハ殊更之ヲ掲クルノ必要ナク全然同一ノ適用ヲ爲ス可キモノト思惟セルナリ此ヲ以テ相續人カ

前條ニ於テ見タル如キ所爲ヲ爲シタルハ總テ損害賠償ノ責ニ任シ且刑法上ノ制裁ヲ受ケサル可カラサルナリ

本條第二項ハ受寄者ノ善意ナル場合ヲ想像セリ即チ其受寄物ヲ處分シタルハ全ク自己ノ物件ナリト思爲セシ錯誤ニ出テタルカ若クハ受寄物タルヲ遺忘シタル場合ナルトキハ總テ本條第一項ノ規定ヲ適用ス可シト爲セリ是レ最モ至當且明白ナル事柄ナレハ敢テ贅セス

第二百十六條 寄託物ノ返還ハ寄託者又ハ其法律上

若クハ合意上ノ代人ニ之ヲ適用ス

〔義解〕(六二) 本條ハ受寄物ノ返還ハ何人ニ爲ス可キヤヲ規定シタルモノナリ

凡ソ物件ノ返還ハ其本主又ハ相續人若クハ適法ノ代人ニ爲ス可キコト固ヨリ一般ノ原則ニシテ本條ハ即チ此原則ヲ受寄物返還ノ場合ニ

適用シタルニ過キス此ヲ以テ受寄者カ受寄物ノ返還ヲ爲サントスルヤ必ス「寄託者又ハ其法律上若クハ合意上ノ代人」ニ之ヲ爲スコトヲ要ス而シテ寄託者ノ死亡シタル場合ニ於テハ其相續人ニ返還ス可キナリ又寄託者ノ管理權ヲ失ヒタル場合(寄託者カ禁治產者ト爲リ又未婚婦ノ既婚婦ト爲リタルトキノ如シ)ニ在リテハ法律上ノ代人(後見人又ハ夫)ニ之レカ返還ヲ爲サル可カラス之ニ反シテ寄託者本人ノ無能力者ニシテ法律上ノ代人カ寄託ヲ爲シタルニ當リ其無能力者ノ有能力者ト爲リタル場合ニ在テハ固ヨリ寄託者本人ニ返還セサル可カラサルナリ

又寄託者カ合意上ノ代人(即チ代理人)ヲ以テ寄託ヲ爲シメタルハ如キ受寄者ハ其本人ニ受寄物ヲ返還スルヲ以テ正則ト爲スト雖モ其代人ノ依然トシテ解任セラレサルヤ該代人ニ其返還ヲ爲スモ敢テ妨

クナシ而シテ代理ノ事ハ次章ニ於テ詳細之ヲ説述セシ

第二百十七條 返還ニ付キ場所ヲ定メサリシトキハ

受寄者カ受寄物ヲ移置シタルモ其現在ノ場所ニ於
テ之ヲ返還ス但寄託者ヲ詐害スル意思アルトキハ
此限ニ在ラス

〔義解〕(六三) 本條ハ受寄物返還ノ場所ヲ定メタルモノナリ

寄託者カ寄託ノ際返還ノ場所ヲ指定シタルトキハ必ス其指定ノ場所
ニ於テ返還スルヲ要スト雖モ若シ其場所ヲ指定セサリシキハ本條ノ
明記セシ如ク受寄物現在ノ場所ニ於テ之ヲ返還ス可キモノトス然ラ
ハ則チ受寄者カ住所ヲ移轉シタル爲メ受寄物カ其場所ヲ移動シタル
トキト雖モ之レカ返還ハ其移動地即チ新住所ニ於テ之ヲ爲ス可ク又
或ハ一時其場所ヲ變更セシトキ例ヘハ甲所ノ倉庫ヲ修繕スル爲メ受

寄物ヲ乙所ノ倉庫ニ移置シタル場合ニ於テモ亦タ其移置シタル場所
ニテ返還ヲ爲ス可ク決シテ其寄託ヲ受ケタル場所ニ殊更持チ行キテ
返還スルヲ要セサルナリ若シ當初ノ場所ニ於テ必ス返還ス可キモノ
ト爲サシ歟實ニ時日ト費用トヲ要シ受寄者ノ義務ヲシテ徒ラニ煩苛
ナラシム可クレハナリ但受寄者カ受寄物ノ場所ヲ移置シタルハ全ク
善意ナルルコト要ス若シ否ラスシテ寄託者ヲ詐害セントノ惡意ヲ以
テ移置シタルキハ本條但書ノ如ク寄託者ハ原始ノ場所ニ於テ其寄託
物ヲ返還セシムルコトヲ得ルナリ

本法ハ受寄物ノ運搬費用(返還ニ要スル費用)ニ付キ一言ノ規定ヲ爲ス
ナシト雖モ其費用ノ負擔ハ寄託者之ニ任セサル可カラス何トナレハ
其費用ハ寄託者ノ利益ノ爲メ要スルモノナレハナリ而シテ其規定ナ
キハ他ナシ寄託契約ノ性質上寄託者ノ負擔ス可キハ當然且明白ノコ

ナルヲ以テ之ヲ規定スルハ却テ蛇足ヲ添ユルノ嫌アレハナリ

第二百十八條 寄託者ノ要求次第物ヲ返還ス可キ受

寄者ノ義務ハ左ノ場合ニ於テ消滅ス

第一 受寄者カ其物ノ自己ニ屬スルコトヲ證スルコトヲ得ルトキ

第二 受寄者カ次條ニ從ヒテ留置權ヲ行フコトヲ得ルトキ

第三 受寄者カ拂渡差押ノ合式ノ告知ヲ受ケタルトキ

第四 受寄者カ受寄物ノ盜品ナルコトヲ覺知シ且其所有者ヲ知りタルトキ但此場合ニ於テ受寄者ハ所有者ニ其寄託ヲ受ケタルコトヲ通知

シ且指定セル相應ノ期間ニ寄託者ト立會ノ上ニテ其物ヲ要求ス可ク若シ此期間ヲ過クルモ立會ハサルトキハ寄託者ニ返還ヲ爲ス可キ旨ヲ催告スルコトヲ要ス

〔義解〕(六四) 本條ハ受寄者カ受寄物ノ返還ヲ拒絕シ又ハ遲延スルコトヲ得ル場合ヲ規定シタルモノナリ

夫レ受寄者ノ受寄物ヲ看守スルハ專ラ寄託者ノ利益ノ爲メナルヲ以テ寄託者カ寄託物ノ返還ヲ要求スルトキハ其要求次第之ヲ返還セサル可カラサルハ已ニ第二百六條ノ規定スル所ナリ而シテ本條ハ此規定ノ例外タル四個ノ場合ヲ列舉セリ

第一 受寄者カ受寄物ノ所有者ナリシト 受寄者ニ於テ其受寄物カ自己ノ所有ニ屬セル證據アル場合ニ於テハ其受寄物ノ返還ヲ拒絕シ

之ヲ留保ス可キハ當然ノコトニシテ敢テ嗽々ヲ要セス例ヘハ其物件タル曾テ先人カ寄託者ニ貸與シタルモノナルコトノ證據ヲ發見シタル場合又ハ自己カ遺失シ若クハ盜取セラレタル物件ナリシコトノ證據ヲ發見シタル場合ノ如キ是ナリ

又寄託者カ受寄者ニ其受寄物ヲ讓渡シ若クハ贈與シタル場合ニ於テ亦タ同シク受寄物ノ返還ヲ爲スヲ要セス直チニ讓渡又ハ贈與トシテ引渡シタルモノト看做ス可ク即チ寄託名義ノ變更ヲ生スルモノニシテ所謂簡易ノ引渡ナルモノ是ナリ財產編第百九十一條參看

第二 受寄者カ留置權ヲ行フコトヲ得ヘキニ 受寄者カ受寄物ニ付キ必要ナル費用ヲ爲シタルカ又ハ受寄物ノ爲メニ損害ヲ蒙ルリタルトキハ受寄者ハ其保存ノ費用又ハ損害ノ賠償ヲ寄託者ニ對シテ要求スルコトヲ得ヘシ而シテ受寄者ハ之レカ擔保トシテ受寄物ヲ留置スル

權利アリ故ニ若シ寄託者ヨリ償還ヲ得サル可シトノ危險アリト思料スルニハ受寄者ハ留置權ヲ行ヒ其受寄物ノ返還ヲ遅延スルコトヲ得ヘキナリ

第三 受寄者カ拂渡差押ノ合式ノ告知ヲ受ケタルニ 受寄者カ第三者即チ寄託者ノ債權者又ハ受寄物ニ付キ所有權若クハ占有權ヲ有セリト主張スル者ヨリ受寄物ノ拂渡差押ノ告知ヲ受クルコトアリ民事訴訟法第六編強行此場合ニ於テ其告知ノ合式ノモノナルトキハ受寄者ハ

之レカ差押ノ當否如何ヲ査定スルノ權利ナキヲ以テ受寄物ノ返還ヲ遅延セサル可カラス然ルニ若シ其正當ナル告知ヲ受ケタルニモ拘ハラス寄託者ノ要求ニ應シテ受寄物ヲ返還シタルトキハ受寄者ハ之レカ過怠ノ責ニ任セサル可カラサルナリ

第四 受寄者カ受寄物ノ盜品ニシテ且其所有者ヲ知了シタルニ 寄

託物ノ盜品ナルコトヲ發覺シ且其所有者ヲ知了シタルトキハ受寄者ハ受寄物ノ返還ヲ拒絕スルノ權利アルノミナラス又其義務アルモノトス而シテ此場合ニ於テハ但書ニ基キ受寄者ハ速カニ其所有者ニ對シテ盜品ノ寄託ヲ受ケタルコトヲ通知シ且之レト共ニ相當ナル期間ヲ指定シ其期間ニ於テ寄託者ト立會ノ上其物ノ取戻ヲ要求ス可ク若シ之ニ立會ハサルトキハ寄託者ニ返還ス可キ催告ヲ爲スコトヲ要ス蓋シ寄託者ヲシテ之ニ立會ハシムルハ假令第三者カ其物件ノ眞所有者タルニ相違ナキモ寄託者ハ之ニ對シテ如何ニ抗辯ヲ爲スヤ得テ計ル可カラス然ルニ俄然之ヲ所有者ニ返還スルカ如キハ即チ是レ速了ノ見タルヲ免レサレハナリ然リ而シテ所有者カ受寄者ヨリ通知ヲ受ケ其期間ヲ經過スルモ尙ホ取戻ノ要求手續ヲ爲サ、ルヤ即チ是レ所有者ノ顧念セサルモノト思料シ得ヘキニ因リ受寄者ハ其物件ノ盜品

ニシテ且所有者ノ誰タルヲ知了セルニモ拘ハラス之ヲ寄託者ニ返還セサル可カラス何トナレハ受寄者ハ如何ニ寄託者ノ物件ニ非スト思料スルモ自己ニ於テ謂ハレナク之ヲ利得ス可キ理由ノ存セサレハナリ

然リ而シテ受寄者カ其受寄物ノ盜品タルヲ知了セルモ所有者ノ誰タルヲ發見セサル場合ニ於テハ所有者ニ通知セントスルモ爲シ得ヘカラス從テ寄託者ヲシテ抗辯セシムル能ハサルニ因リ前ノ場合ニ反シテ寄託者ノ要求次第之レカ返還ヲ爲サ、ル可カラス又其盜品タルトノ單ニ嫌疑ニ止マルトキニ於テモ亦々同シク之ヲ返還ス可キナリ蓋シ若シ其返還ヲ拒絕シテ其眞所有者ト思料スル者ニ通知スルモ盜品ノ證據十分ナラサルキハ或ハ寄託者ニ對シテ損害賠償ノ責ニ任セサルヲ得サルヲアレハナリ

〔論說〕（六五）茲ニ一ノ論難ヲ惹起セシ問題アリ受寄者カ寄託者ノ債權者ナル場合ニ於テ前掲第三號ノ規定ニ依リ受寄者自カラ拂渡差押ヲ爲シテ受寄物ノ返還ヲ遅延スルコトヲ得ヘキヤ否ヤノ疑點是ナリ若シ該債權カ其受寄物ニ關シ又ハ其占有ニ牽連シテ生シタルモノナルトキハ受寄者ハ其物ニ付キ留置權ヲ有スルヲ以テ此拂渡差押ノ如キ迂遠ノ方法ニ依ルヲ要セスト雖モ其物ト債權トハ直接ノ關係ナク全ク別個ニ出ツルコトアリ此場合ニ於テハ受寄者ハ決シテ留置權ヲ行フコトヲ得ス是レ此問題ノ因テ起ル所以ナリ

論者或ハ本問ノ場合ニ付キ本條ノ規定ヲ適用ス可カラスト論決スルアリ其說ニ曰ク受寄者カ寄託者ニ對シ曾テ債權ヲ有セルヲ奇貨トシ拂渡差押ヲ爲シテ受寄物ヲ返還セサルカ如キハ寄託者ノ信用ニ背キ受寄者タルノ本務ヲ當行セサルモノニシテ寄託ノ性質上認許ス可カラサルヲ以テナリト是レ一理ナキニ非ラスト雖モ此說タル稍疎策膚淺タルヲ免レサルモノトス蓋シ本問題ヲ決セント欲セハ先ツ他ノ一問ヲ決セサル可カラス即チ受寄者ハ自カラ自己ニ向テ拂渡差押ヲ爲シ得ルヤ否ヤノ一問是ナリ此一問ニ與ヘシ答ハ直チニ移シテ以テ本問題ノ答ニ充ツルコトヲ得ヘシ

抑、拂渡差押ノ本質ハ乙ノ債權者タル甲カ乙ノ債務者丙ニ對シテ其乙ニ拂渡サントスルモノヲ差押ユルニ在リ本問ノ場合ノ如キハ事情稍之ニ異ナリテ少シク奇異ナルカ如シト雖モ試ミニ想ヘ甲カ丙ノ拂渡ヲ差押ユルハ丙ノ爲メ寧ロ迷惑ノ事タルモ甲ハ丙ヲ煩ハシテモ尙ホ自家ノ債權ノ擔保ヲ得ントスルコトヲ得ルナリ然ラハ則チ甲自カラ自家ノ拂渡ス可キモノヲ差押ヘ以テ自家ノ權利ヲ保護スルハ豈法律カ之ヲ許サ、ルノ理アラシヤ且夫レ差押ノ事タル若シ留置權ノ如ク此

ニ依リテ先取特權ヲ得ルモノトセハ受寄者カ曾テ得タル債權アルチ
 寄貨トシ其物ト關係ナキ受寄物ニ付キ先取特權ヲ得ントスルニ至リ
 實ニ僥倖ヲ射ルノ嫌ナキニ非ス即チ或人ノ如キ駁難ヲ免レサル可キ
 モ差押ナルモノハ決シテ先取特權ヲ得ルノ効果ヲ生スルモノニ非ス
 唯タ此ニ依リ債務者カ其物ヲ浪費シ若クハ隱匿セントスルチ防ク等
 ノ手段ニ外ナラサルチ以テ之ヲ行フモ必スシモ寄託者ノ信用ニ背ク
 ト云フチ得ス故ニ余ハ前述ノ如ク自カラ自己ニ向テ拂渡差押ヲ爲ス
 可チ得ヘシトノ法理的論決ニ因リ本問ノ場合モ亦タ本條第三號ノ規
 定ヲ適用シ受寄者自カラ拂渡差押ノ手續ヲ爲シ以テ受寄物ノ返還ヲ
 遅延スル可チ得ヘキモノト信スルナリ

第一百十九條 寄託者ハ寄託物ノ保存ノ爲メ受寄者
 ノ支出シタル必要ノ費用ト其物ノ爲メニ受寄者ノ

受ケタル損害トチ賠償スルコトヲ要ス

右賠償ノ皆濟ヲ受クルマテ受寄者ハ受寄物ノ上ニ

留置權ヲ行フコトヲ得

〔義解〕(六六) 寄託者ノ義務ハ使用貸借ニ於ケル義務ト同シク寄託契
 約ヨリ生スル本然ノ義務ニ非ス間接ニ契約カ機會ト爲リテ生スルモ
 ノナレハ所謂不當ノ利得不正ノ損害ニ基ツク所ノ賠償タルニ過キサ
 ルナリ然ラハ則チ受寄者ニ於テ受寄物ニ必要ナル費用ヲ爲シ以テ之
 チ保存シタルカ若クハ寄託者カ寄託物ニ瑕疵アルコトヲ知了シ又ハ
 知了シ得ヘキニ其瑕疵アル危險物(例ヘハ疾病ニ罹レル家禽ヲ寄託シ
 爲メニ受寄者カ飼養セル家禽ニ其疾病ヲ傳染セシメタルノ類)ヲ寄託
 シタルトキハ寄託者ハ之レカ損害ノ責ニ任セサル可カラス是レ之ヲ
 償還スルハ寄託者ノ正ニ利得ス可カラサルモノヲ利得シ又ハ寄託者

ノ過失ニテ不正ノ損害ヲ爲シタルニ因由スルモノナリ故ニ若シ其危
險カ寄託ヲ受ケタル後ニ生シタル場合ニ於テハ敢テ寄託者ノ不注意
ニ出テタルニ非ス且其偶然ノ事ニ屬スルヤ假令如何ナル損害ヲ生ス
ルモ受寄者ハ自己ニ之ヲ負擔セサル可カラス例ヘハ寄託ヲ受ケタル
家禽カ疫疾ニ罹リ爲メニ其病毒ヲ受寄者所有ノ家禽ニ及ホシタルト
キノ如キ是ナリ

〔六七〕 第二項ハ前ノ義務履行ノ擔保トシテ受寄物ノ上ニ其留置權ヲ
行フヲ受寄者ニ許容セリ故ニ寄託者カ保管費用又ハ損害賠償ノ皆
濟ヲ爲サ、ルカ若クハ之ヲ皆濟セサルノ虞アリト思料スルキハ受寄
者ハ其受寄物ヲ留置スルコトヲ得ヘキナリ其留置權ハ屢々陳述セシ如
ク物上ノ權利ニシテ其受寄物ノ占有ヲ失ハサル以上ハ何人ニモ對抗
シ得ヘキ鞏固ナル擔保ナリトス

終ニ臨ミテ一言ス可キハ受寄物ニ付キ留置權ヲ行フ場合ハ前ニ陳述
シタル如ク二個ノ場合ニ限ルヲ以テ假令受寄者カ他ノ原因ニ由リテ
寄託者ニ對スル債權者ナルモ爲メニ受寄物ヲ留置スルコトヲ得サルノ
點是ナリ抑、受寄物ハ元來特定物ニシテ固ヨリ相殺ノ目的ト爲ラサル
モノナレハ假令受寄者カ寄託者ニ對スル債權者ニシテ其債權ト相殺
ヲ爲サント欲スルモ決シテ得ヘカラス良シ又其消費スルコトヲ許セ
シ場合ニ於テハ相殺ノ目的ト爲リ得ヘキモ其債權タルヤ受寄物カ原
因ト爲リテ生シタルニ非サレハ其辨濟ヲ受ケンカ爲メニ受寄者カ留
置權ヲ行用セントスルモ固ヨリ法律ノ許容スル所ニ非サルナリ

第二款 急迫寄託及ヒ旅店寄託

第二百二十條 寄託者カ火災、洪水、難船、地震又ハ暴動
ノ如キ不測ニシテ且不可抗ノ事變ニ因リ己ムヲ得

ス寄託ヲ爲ストキハ之ヲ急迫ノ寄託ト謂フ
 急迫ノ寄託ハ諸般ノ方法ニ依リ又ハ事情ヨリ生ス
 ル事實ノ推定ニ依リテ之ヲ證スルコトヲ得
 此他急迫寄託ハ任意寄託ノ規則ニ從フ

〔義解〕(六八) 急迫寄託トハ本條第一項ノ指示セル如ク寄託者カ火災、
 洪水難船地震又ハ暴動ノ如キ不測ニシテ且不可抗ノ事變ニ因リ已ム
 ヲ得スシテ爲ス所ノ寄託ヲ云フ故ニ此場合ニ於テハ寄託ヲ爲スノ機
 會ヲ生シタル事柄カ偶然ニシテ豫期セス且人カヲ以テ強制シ得ヘカ
 ラサル災變ニ因レルモノナレハ寄託者ハ受寄者ヲ選擇スルニ付キ全
 ク自由ヲ欠損セルモノナリ若シ夫レ寄託者ニシテ受寄者ヲ選擇スル
 ノ餘地アリシナラフニハ其寄託ハ急迫ノモノニ非スシテ任意ノ寄託
 ト云ハサル可カラス

法律ニ於テ任意寄託ト急迫寄託トヲ區別シタル唯一ノ利益ハ本條第
 二項ニ規定セル如ク舉證ノ一點則チ是ナリ即チ任意寄託ニ付テハ普
 通ノ證據方法ニ從ヒ其事件カ金額五十圓已上ナル場合ニ在テハ人證
 ヲ以テ之ヲ證明ヲ爲スコトヲ許サ、ルモ急迫寄託ニ付テハ金額五十圓
 ヲ超過スルキト雖モ人證ニ依テ證明ヲ爲スコトヲ得ヘク尙ホ且人證ヲ
 存セサルキ即チ何等ノ直接證據ナキキト雖モ事情ヨリ生スル事實ノ
 推定ナルモノ存スルキハ之ニ依テ證明セラル、コトヲ得ヘキナリ蓋シ
 急迫寄託ヲ爲ス場合ハ其字義ノ示セルカ如ク最モ急激切迫ノ場合ナ
 ルヲ以テ之レカ證據ヲ採取スル閑隙ヲ有セサルニ尙ホ其直接證據ヲ
 要望スルアラハ實ニ難キヲ人ニ責ムルモノナリ證據編第六十條第七
 十條第八十八條參看
 此故ニ寄託物ノ返還ヲ要求スル者ハ詐欺狡獪ヲ逞フスル惡漢ナリト
 ノ評判世ニ高ク之ニ反シテ其返還ヲ要求セラル、者ノ德望アリ資産